

335
170

眾議院議員島田三郎君序

柏村桂谷著

北米踏查大觀

上卷

加州日本人發展地志部

東京龍文堂發行

335-110

衆議院議員島田三郎君序

柏村桂谷著

北米踏查大觀

上卷

加州日本人發展地之部

東京龍文堂發行

明治
44. 1. 20
丙午

序

山口縣人林純一氏、一書を携へ來りて予に示し、且語げて曰く、是れ予の従弟柏村桂谷の近著なり、子の序を得て之を公にせんことを欲す、是れ著者の冀望なりと、予柏村氏が嘗て馬關毎日新聞の主筆なりしことを知れり、後米國に赴きてローサンゼルスに雜誌を經營することを聞けり、但未だ其面を識らず、然れども太平洋對岸に居り、遠く其親近を介して、特に予の文を徵せらる、予豈知己の感無きを得んや、仍て辭せずして、先づ其稿を閲し、了りて、乃ち曰く、嗚呼是米國に於ける我國人活動の正確なる報告書なり、予をして四千哩外對岸の實況を目睹するの感あらしむるは、著者の惠なり、身一室の中に坐して、加州の曠野を跋涉し、市區村落を歴觀し、花園菜園工場商塵に臨みて、親く國人活動の狀を見るが如し、蓋し近時我國人に對する米人の感情一變し、排日の氣風大陸に瀰漫するが如きは、米國新

二
聞の吾人に告ぐる所なり、抑言語慣習相違の人、海を超えて米洲に入り、異族相雜りて職業の利を競ふ、往々不快の争を其間に生ずること、敢て怪むに足らず、然れども地廣くして人寡く、天藏地秘の物、人力を待て始めて價値を發するは、是れ米國の現状にして、之を造物の無盡藏と稱するも亦可なり、而して其西部に於て特に然りとす、我は彼の地により、彼は我の力により、彼は資を給し、我は勞を供し、此に社會を利するの富を生ず、是れ彼我の益にして、彼損して我利するにあらざるなり、彼豈慨して我を排するの理あらんや、想ふに彼は平民政治の國なり、多數政治の國なり、羣衆の勢力は、能く國政を左右するが故に、政治家も亦此勢力の趨向を重視せざるこ能はず、而して時に感情の理義を制することあり、往年米人極力支那人を排斥せしことありき、此時代に於ては、支那人に代るに日本人の勞力を以てせんごしたり、今は即ち一變して、支那人を措きて日本人を排するの説ごなれり、其愛憎の變化、共に理義の決定によるにあらず、想ふ

に其嘗て日本人を輕視せしこと過度、一旦征露の役を経て、日本の勢力大に揚るを見るや、之を畏憚すること亦た過度、群情此方向に走り、新聞此感情を煽ぎ、政治家此民情の趨向を重視し、相集まりて排日の聲ごなりしもの歎、且我國人も亦戰勝の餘勢を誇るの色あり、海外の活動に訓練準備あることを慮らず、多數者一時に市街地に入込みて、職業の得難きに苦み、彼我の調和を損ぜしことあらん、然れども是等皆暫且の現象にして、永久日米人を阻隔する所以の原因にあらざる可きを信ず、試に現在の日本人を米洲より一齊に退去せしめよ、西海岸に其財産を失ふの資本家あらん、諸種産物の供給を失ひて、狼狽する米人多からん、若し勞銀を低下するを以て、米人の苦情ごせば、何ぞ我勞役の供給のみならんや、機械の發明によりて、勞役を省くことあらば、米人は此機械を排斥するの新法を制定せんご欲する乎。

是を要するに、我日本が平和を國是とすること、米國の上下に信ぜられ、我

國人が勤勉正確、約を守りて過たず、以て彼の資本家を満足せしめ、多數者が市街の狹道に競争するの方針を更め、最も勞力を歓迎する地方に向ひ、訓練ありて陋風なき人は、到る處其所を得て、能く其力を揮ふに於て餘地あらんこす、予嘗て此説を擧げて、之を我國に來りたる米洲西部商業會議所の一議員に質したるに、彼は之を首肯したりき、予は排日の聲甚大なるは、事實の原因より來ること少くして、多くは感情の産物なることを信する者なり。柏村氏の著を閲するに、我國人の米洲大陸に活動する、其範圍甚廣く、又其勤勉によりて成功せる者歴々指數すべし、是皆排日風潮の局外に立つ者なり、予は日米兩國の政府が、靜慮以て事實の真相を極め、日米兩國の人民が、感情を祛けて理性の判斷に就かんことを冀望す、而して此書が特に其好材料たらんことを信する者なり。

明治四十三年十二月

島田三郎

凡例

- 一 此書は西曆千九百八年より、千九百十年の間に於ける、在米日本人社會實際の狀態を記述し、其發達の程度を祖國に紹介せんとするの目的を以て編製せるものにして、上下二卷を以て完成し、上卷を加州全部とし、下卷に加州以外の各地を網羅し、其終末に於て、著者の所感と意見を發表せんとす、故に本書の實質的價値は、下卷の刊行を以て、之を江湖に問はんとす。
- 一 此書は主として日本内地の讀もの爲すの方針に依り、調査記の間に旅行日記等を掲載し、讀者をして地理上の觀念を起さしめ、同胞奮闘の経路と、地方の特色を知らしめむが爲に、個人の傳記をも加へ更に、讀者の趣味を喚起せんが爲めに、山水の風景、地方の口碑及び沿革等を描寫し、多く寫眞畫を挿入したり。
- 一 此書に記載せるものは、悉く實際の踏査に依て得たる材料にして、深く誇張的の言辭を避け、舞文曲筆の弊に陥らざらむ事に注意し、個人の傳記の如きは、其材料を勤勉質實なる實業家に取リ、寧ろ簡素に失するも、輕跳浮華に流れざらむ事を努めたり、是れ後世史家の資料として誤りなからしめむ事を期したるに因れり。
- 一 本書の編輯は、西曆千九百七年の夏より計畫に着手し、翌千九百八年五月十五日より南加州

の踏査を始め、千九百九年一月北加州に來り、同年八月中央加州の踏査を終りて一旦ローサンゼルス市に歸り、千九百十年二月より第二回の旅行を爲して其精査を爲し、同年十月を以て漸く加州全部の編輯を完結する事を得たり。

一 是書の編輯に付ては、書肆の援助に依らず、また共同者を求めず、全然獨立の事業として之を遂行せるもの、營利に走らずして、現時の急要たる我故國對米問題に關し、真正の資料を給せんとせる著者の微衷に因れるものにして、各地の同胞諸氏、此微衷を諒し、喜で紹介の勞を執り、進で諸種の材料を提供せられたるは、著者の深謝する所なり。

一 踏査旅行中、フランスノ市吉木光之進氏、サクラメント市岩立伍一氏、サンノゼ市白石良介氏、桑港市杉山伊三郎氏、サンタバーバラ市伊藤永司氏、同市藤堂貞記氏の寄せられたる厚意は此事業と共に著者の忘るべからざるものにして特に感謝を表し、其他到る所、懇篤なる待遇を與へられたる諸君に謝し、また本書出版に付て、在東京林純一氏の盡力を感謝す。

一 本書の出版は時日の急を要したるを以て、原稿の修正尙は足らざる所少からず、是れ著者の深く慚愧する所なりと雖ども、第二版以下に於て是等の不備を補ふ事を怠らざるべく傳記等の尙ほ記入すべきものあるも、其際に於て増補記載せんと欲す。

西曆千九百十年十月中旬

米國桑港に於て 著者識す

北米踏査大觀上卷目次

第一章 緒言.....一

第二章 加州の地理と日本人發展地.....五

第三章 加州の沿革.....一一

第四章 南加州の踏査.....一四

 第一節 概説.....一四

 第二節 ローサンゼルス市.....二六
 市街の盛衰—工業地としての羅府—大都市計畫と三大事業

 第三節 羅府の日本人社會.....三八
 (一) 日本人社會發達の歴史.....三八
 (二) 市内營業及職業の狀態.....五一
 日本人の營業地範圍—食料雜貨店—旅館—洋食店—湯屋—玉露—桂庵菜—洗

濯染—洋服店—美術店—竹細工店—花屋及植木屋—野菜仲買—書林—靴修繕
業—大工—菓子屋—通辯業—運送業—日本料理店及飲食店

(三) 市内成業列傳.....六〇

中野喜代太郎—西村幸太郎—脇喜吉—浦田毛佐次郎—守山純一—森文五郎—
山本音太郎—福島源太郎—二野川良一—指宿藤三—小畑甚之助—松尾繁一—
堀利一郎—佐々木久助—中村彦市—宮山三平—森澤市松—田中重平—川崎雪
太郎—山本善三郎—高木梅軒—移川時治—沖常四郎—安井保次郎—白根景一
—時津新太郎

第四節 ローサンゼルス郡踏查日記.....八三

第五節 ローサンゼルス郡日本人發展地の調査.....九九

- (ロスニトス方面)ホイテヤ...ニユーマック...ローランド...フルーツランド...ラグナ
グリーンメド...ウエストアダムス...モネタ及其附近...パーチット...ロングビーチ
及び其附近...サンビードコ.....九九
- (ボモナ地方)ボモナ市街附近...サンデマス...コピナ...アツサ...アーウィンテール.....一〇八
- (サンギヤール地方)バサテナ...サンタニータ...アーケテヤ...モンロビヤ...
エルモンテ.....一一〇
- (サンフアーナンド地方)ロスフェルトロード...イーゲルロック...トロピコ...ケレン
テール...パーバンク...グンデー...フアーナンド.....一一二
- (カヘンガ平原地方)ハリウッド...シヤーマン...ゴートローサンゼルス.....一二七
- ローサンゼルス郡成業列傳.....一一九

第六節

オレンヂ郡、リバナサイド郡、サンバナデノ郡.....一三一

(一) 三郡踏查日記.....一三一

大塚直太郎—渡邊清太郎—渡邊信藏—小四多次郎—東好樹—高杉新一—榎上
阪次郎—野村長範—前田要藏—甲斐政太郎—宮前嘉四郎—大坪甚見—中川福
太郎—板野富五郎—丸本伍太郎—龜岡梅八—近藤静人—小畑繁次郎

(二) オレンヂ郡日本人發展地の調査.....一四一

スメルザ—地方...ハンチングトン...カーテングローブ...アナハイム...オレン
ヂ...ビュリーナパーク...ラハアラ

(三) リバナサイド郡及サンバナデノ郡日本人發展地の調査.....一四七

リバナサイド市及其附近...コナチューラ
サンバナデノ市...レツドラランド...ハイランド...コールドトン...リアルト...ブル
ーミントン...アツブランド...オンタリガ...エトワンダ...ピクトビル...キユー
カモンガ

(四) オレンヂ郡成業列傳.....一五八

猪之瀬伊之助—田和亥之太—矢野宇太郎—本田虎一—山本昇—西村茂彦—大
西忠哉—淺利鶴松—山本正治—茅野恒司—寺畑輝一—安武雪太郎—宮脇安松
森本長之助—木原米藏—井上權九郎—高岡全平—池百松—小林甚之助—颯谷
金雄—岩越鶴松—松井浪三郎

(五) リバサイド郡成業列傳……………一七三

金子真成—柴田虎一—田部幾太郎—西本宅十郎—小泉秀之助—田島眞澄—甲斐音膳—村上彦輔—落合喜一—東徳松—木下彌一耶

(六) サンバナデノ郡成業列傳……………一八六

鎌谷今作—森重初次郎—三上佐盛—益田佐逸—大西市次郎—吉田伊蔵—直原敏平—山科彌一—配島徳太郎

第七節

サンデーゴ郡及イムベリヤル郡……………一九一

(一) サンデーゴ紀行……………一九一

(附)サンデーゴの歴史……………一九八

(二) サンデーゴ郡日本人發展地の調査……………二〇一

サンデーゴ市…ミツシヨンパレー…ナユルメスタ…ホニタ…ラメサ…ホストニヤ…サンチー

(附)蜜蜂の事……………二〇五

(三) イムベリヤル郡日本人發展地の調査……………二〇六

フローレー及びキーストン…其他

(四) サンデーゴ郡成業列傳……………二〇八

森岡定志—清原滿治—中本吉三郎—小川春登—永田彌三郎—土井文二郎—中

第八節

ペンチユラ郡……………二二二

村福松—假家郁平—塚崎直喜

(一) オクスナード踏査日記……………二二二

(附)サチコヒ山中勞働日記……………二二五

(二) ペンチユラ郡日本人發展地の調査……………二二一

オクスナード市…サンタポーラ

(附)オクスナード驛助の始末、砂糖製造業及砂糖大根の事

(三) ペンチユラ郡成業列傳……………二二八

四島一二三—大友平蔵—古閑柳平—今井初次郎—坪井喜三太郎—後藤伴次郎上田久吉—徳山民助

第九節

サンタバールバラ郡……………二三三

(一) サンタバールバラ紀行……………二三三

(二) サンタバールバラ郡日本人發展地の調査(其一)……………二四〇

サンタバールバラ市…モンテシート…サンタグローブ島…コレタ…カーメンチユラ

(三) ガードロツプ紀行……………二四三

第五章 中央加州沿岸地方の踏査

第二節

- (一) サンプルイスオビスポ郡及モントレー郡……………二六一
 沿岸線路車窓日記……………二六一
- (二) モントレー紀行(附)モントレーの傳説少女ロレタの事……………二六四
- (三) サンプルイスオビスポ郡の調査……………二六九
- (四) モントレー郡日本人發展地の調査……………二七〇
 サリナス市…キヤストロビル…キングケシチー…メツツ…ソルダ…モントレー市…パシフィックゲローア
- (五) モントレー郡成業列傳……………二七五
 高尾庄太郎—四博夫—北與三松—平井廣治—圓名彌作—長尾助三郎—馬本政
- (四) サンタバーバラ郡日本人發展地の調査(其二)……………二四六
 ガードロップ(附)ガードロップ日本人社會の沿革
- (五) サンタバーバラ郡成業列傳……………二五一
 伊藤永司—藤室貞肥—朝倉仙太郎—森銀之助—田中梅吉—大石與次郎

第二節

- 治郡—新宅富藏—益井翁松—桑原寅四郎—森本熊吉—豊島凌吉—野田文作—新納吉太郎—石橋直藏—内田芳治郡
- (一) サンタクローズ郡及サンベニト郡……………二八五
 サンタクローズ紀行……………二八五
- (二) サンタクローズ日本人發展地の調査……………二八九
 ヲツソソビル市及其附近地…サンタクローズ市…サンオンロード…パハロ
- (三) サンベニト郡日本人發展地の調査……………二九七
 サンオン…ホリスター
- (四) サンタクローズ郡サンベニト郡成業列傳……………二九九
 井上龜二郎—東殿太郎—田尾方松—福本與之助—小川武一郎—藤本寅彦—山本又穂—森安丈之助—藤本正孝—谷村吉五郎—横田彦四郎—又野光治郎—行徳仙吉—島越文吉—木道仁吉—増木秀吉
- サンタクララ郡……………三二〇
- (一) サンタクララ郡日本人發展地の調査……………三二〇
 サンノセ市及其附近…モルガンビル…エデンビル…カヨテ…ギロイ…キヤンベル…ロスガトス…アルマ…サンタクララ…マウンテンビュー…アケニユールピソ…ミルピタス…サンニベル…ライト…サラトガ

第六章 桑港及其附近の踏査

- 第一節 桑港の記……………三三〇
- 第二節 桑港發達史……………三三五
- 第三節 桑港市の日本人社會……………三四一
 - (一) 發達の歴史と一般の現状……………三四一
 - 時代の變遷—在米日本人會—宗教團體及教育機關—同鄉人團體
 - (二) 日米貿易と桑港の輸出入業者……………三五七
 - (三) 市内營業の狀態……………三六一
 - (四) 桑港市内成業列傳……………三七一
 - 日本人營業地の範圍—協會社—銀行—新聞雜誌業—洗濯業—靴工—病院—活版印刷業—運送業—洋食店—美術店—食料店—菓子屋—旅館—日本料理店

(二) サンタクララ郡成業列傳……………三三〇

岡本新吉—白石兵介—中村熊吉—有田庄平—山川彌市—船引三—沖田福一
中敷谷藏—堀尾兄弟—隅田善之助—岩崎常二—藤川音吉—福井常三

第四節 灣東二郡日本人發展地の調査……………三九八

牛島藤樹—塚本松之助—堂本翠之進—小門龍松—安孫子久太郎—黒澤格三郎
東夕崎菊松—大久保逸次—青木道嗣—香川常吉—今井常吉—萩原眞—杉原軍
造—森川福松—貞永延輔—海田豐三郎—成宮喜太郎—小川多吉—杉山伊三郎
吉田金之助—高橋富藏—須田奥治—金澤今朝三郎—盛藤丹治郎—財滿孫次郎
森下龜太郎—永木要藏—森俊盛

(一) アラメダ郡……………三九八

オークランド市—パークレー市—アラメダ市—デコート—アルバラド—及其
他

(二) コントラコスタ郡……………四二二

ステージ

第五節 灣北三郡及びサンマテオ郡日本人發展の調査……………四二三

(一) ソノマ郡……………四二三

ペタルマ—サンタローザ—セバストポール—フルトン—ヒルツマア

(二) メンドシノ郡……………四一七

サンマテオ郡……………四一七

(四) 桑港附近成業列傳(其一)……………四一七

第七章 サクラメント平原の踏査

第一節 桑港櫻府間車窓日記

四三五

第二節 サクラメント河下紀行

四三七

第三節 ホルソムに遊ぶの記

四四一

第四節 サクラメント平原の地理

四四四

第五節 サクラメント郡日本人發展地の調査

四四八

(一) サクラメント市及市内日本人社會

四四八

(二) 市内日本人の營業

四五八

(三) 市外農園地方

四六四

(五) 桑港附近成業列傳(其二)

四二七

中飛樂太郎—岡田鶴三郎—上野恭三郎—青木實治—増田寅三郎—福本清作—鈴木
貫一郎—鹽澤徹四郎—高橋清齋—上野吉盛
堂本兼太郎—鍋田彌太郎—鶴岡英成—大石徳太郎—南野吉—青見兵松—熊本平八
大江初藏—田中米吉—中島良藏

(四)

櫻府成業列傳

四六九

フロリダ：エルクゲローブ：パーキンス：ミールズ：ローチヤ：フエヤ
オーク：メーヒュー：ホルソム：(附)ハツプスの事
桑原孫三—東臨惠吉—吉田公輝—野中俊三—津田伊之吉—吉田俊造—柴太郎
竹岡亥之吉—吉永萬植—岩立伍一—原田末松—松井嘉七—則近彦一—藤田龍
吉—宮崎勘次郎—藤井米吉—柿並岩吉—小田佐十郎—藤井正記—宮川常三郎
沖健二—辻道勝太郎

第六節

川下地方日本人發展地の調査

四八三

クラクスパーク：フリーポート：コートランド：グオーテン：オーナツゲローブ：
ライデ：アイルトン：ライヤール島：ブラダフオード島：ローアシャーマン島：フラ
ンクス島：ミッドルリバー：グイクトリヤ島：(附)アスパラガスの事

第七節

八郡日本人發展地の調査

四九一

(一) プラザ郡

四九一

ルミニス：ヘンリン：ニューキヤツスル：オーブン：オフイヤ：リンコルン：
(附)山中ノ絶景レーキターホーの記

(二) ユバー郡

四九八

メリスビル：ホイートランド

(三) サター郡

五〇〇

(四) ビュート郡.....五〇〇
オロビル...チャーコー...ピクス... (附)米作の事

(五) テハマ郡及其以北.....五〇五
レッドアラツフ

(六) コルサ郡.....五〇六
コルサ

(七) ヨーロー郡.....五〇七
ウイドランド...ヨロー...サクラメント市の附近地...ウインターズ

(八) ソラノ郡.....五〇九
グアカビル...エルマイラ...パレオ...スースン

第八章 平野成業列傳.....五一

第八節 サクラメント平野成業列傳.....五一
宮永虎彦一原田仁太郎一阪田兄弟一駒野清次郎一谷口清太郎一清地岩蔵一裕野龍雄一山本喜熊一立田二一渡井龜次郎一野澤杉松一宮本徳三郎一倉木乙八一稻葉彦太郎一森木政吉一土井秀雄一向井増太郎一藤本権吉一上野榮吉一川内藤太郎一清田菊太郎一吉村治三郎一八田重康一玉置於虎四郎一津田勇之助一中村文太郎一南出孫助一御前助太郎

第八章 サンオーキン平原の踏査.....五三二

第一節 平原の偉觀シラネバダの雪景を記す.....五三一

(附) バイセリヤ紀行.....五三三

第二節 サンオーキン平原の地理及産業.....五三七

(附) 国立公園ヨセミテの絶勝.....五三九

第二節 サンオーキン郡日本人發展地の調査.....五四二

(一) サンオーキン郡.....五四二
スタクトン市...ホルト...ニユーデヨンス...テヨーンズ...リーマイ...オーウー
ド...グイクトリヤ島...ユニオン島...ナイトン...オーグレイ...アンテガーク...
アラダホー島...フランクス島...リンジトラクト...ライトトラクト...エルムウ
ードトラクト...オーグテール...エスカロン...モンテレカ...モテスト...ローダ
イ...ウイッドブリツヤ...ニユーホープ...サートン...クレメント...アキヤンホ...
ゴールト

(附) 牛島馬鈴薯王の事業.....五五三

(二) サンオーキン郡成業列傳.....五五五

赤羽亥之助一石井曉一松本萬壽一沖常太郎一山内喜太郎一小田熊治一合田鏡

第四節

マセド郡及マデラ郡日本人發展地の調査……………五六〇

(一) マセド郡……………五六〇

リビングストン

(二) マデラ郡……………五六三

マデラ

第五節

フランスノ郡日本人發展地の調査……………五六六

(一) フランスノ市……………五六七

布市實業同盟―布市佛教青年會―獨立組合教會―美以教會―岡山縣人會―銀行及實業會社―新聞支社―病院

(二) 布市日本人社會の沿革……………五七一

(三) 布市附近農園の調査……………五七七

クローブス…ニアラー…セルマ…ホルス…デルレー…サンガー…パレア…リードレー…キンクスパーグ

(四) フランスノ郡成業列傳(其一)……………五八九

(五) フランスノ郡成業列傳(其二)……………五九九

神川理一―吉木光之進―小此文九郎―宮野信吉―松田立馬―毛保兄弟―松井菊松―森本鶴吉―利行泰蔵―淺田覺一―桂元輔―村島代治郎―岩崎喜市
眞宅嘉一郎―部野野雲之助―粟屋萬右衛門―竹本久米太郎―迫本兄弟―高田寅三郎―岡野玉治郎―河川治輔―平川初太郎―中島石井兄弟―中川久太郎―中川政一―岡田喜太郎―中田重太郎―筒井兼吉―叶谷兄弟―横見五六―石瓶兄弟―二宮音市―能崎三代吉―岡田實一―竹内源太郎―田上仁一―小田喜三郎―仁田米蔵―川手源市―西本和助―中村萬植―松尾平六―村上愛吉―樹本周次郎―谷川小三郎

第六節

キングス郡……………六二二

(一) キングス郡日本人發展地の調査……………六二二

ハンホード…アモナ…レモア
(附)ツラレ湖の本……………六二三

(二) キングス郡成業列傳……………六二七

武内留之助―大亦實蔵―板野伊太郎―近藤源三郎―福本宮太郎

第七節

ツラレ郡……………六三二

(一) ツラレ郡日本人發展地の調査……………六三二

バイセリヤ…シャイアントオーク…フアー…マースビル…エキスター…サルタ

ナ...オロン...リンヒー...カレンヤハースト...カウ井...エテム...ダイニュー
マ...ツラレ市

(二) ツラレ郡成業列傳.....六三九

東野市之進—星出新植—星出彦平—山本寛治—金子孝太郎—上原林五郎—藤
村高治郎—松浦勘次郎—前田寛次郎—山本房楠—岡崎金吾—洪川齋三郎—高
橋豊治—田上岩次郎

第八節 カーン郡

(一) カーン郡日本人發展地の調査.....六四九

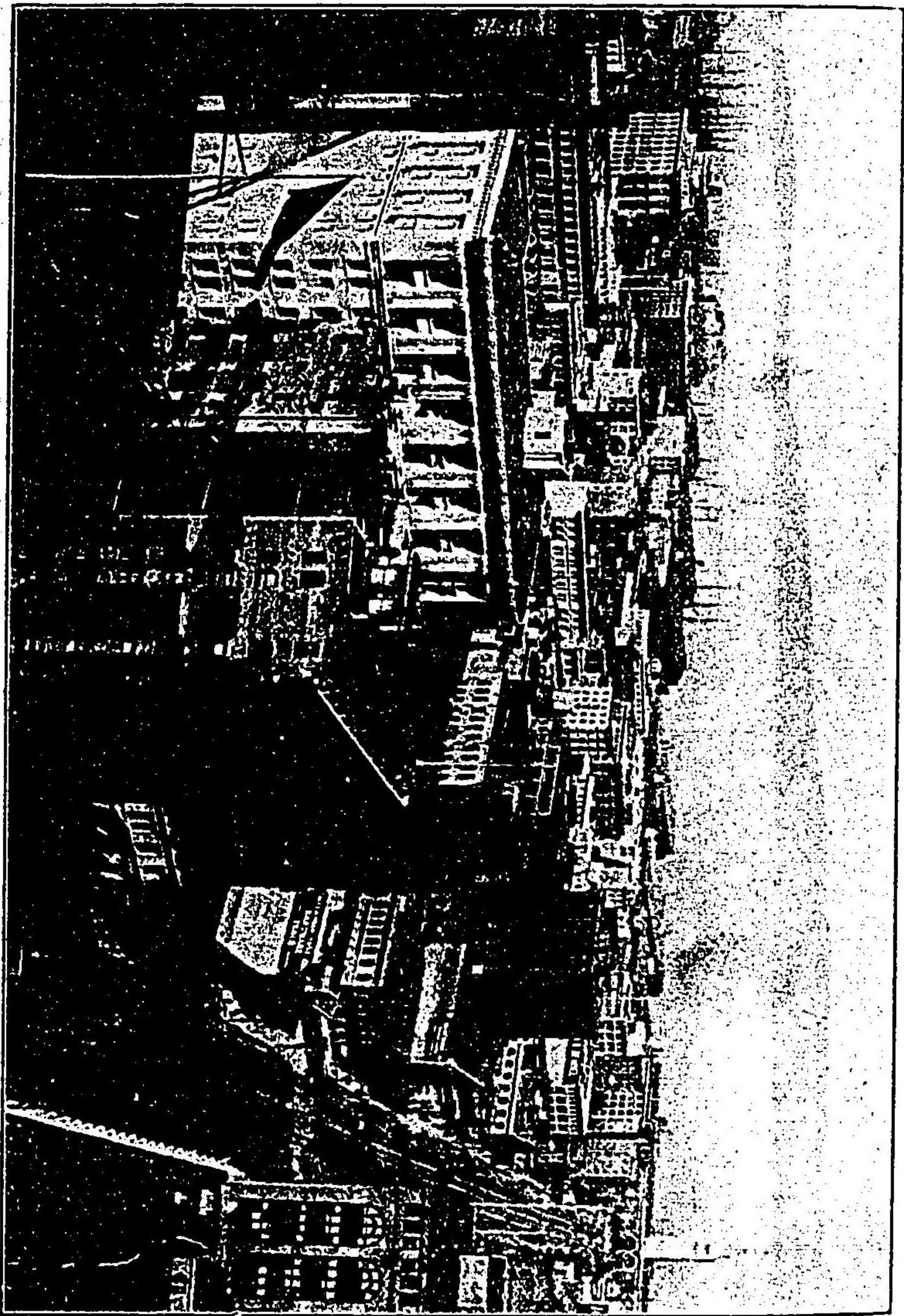
ベカスフ井ル下市...附近農園地

(附)石臘油の事.....六五四

(二) カーン郡成業列傳.....六五七

林政太郎—小野寺太郎七—三輪角太郎—岡野信助—三輪惣三郎—山下安次郎
松田多三郎—小形彦蔵—竹本房一—由良熊治郎—竹本静茂—長尾愛三

北米踏査大觀上卷目次終



サンフランシスコ市トウキョウ街トウキョウ橋

橫濱正金銀行
桑港支店長 藤平順三



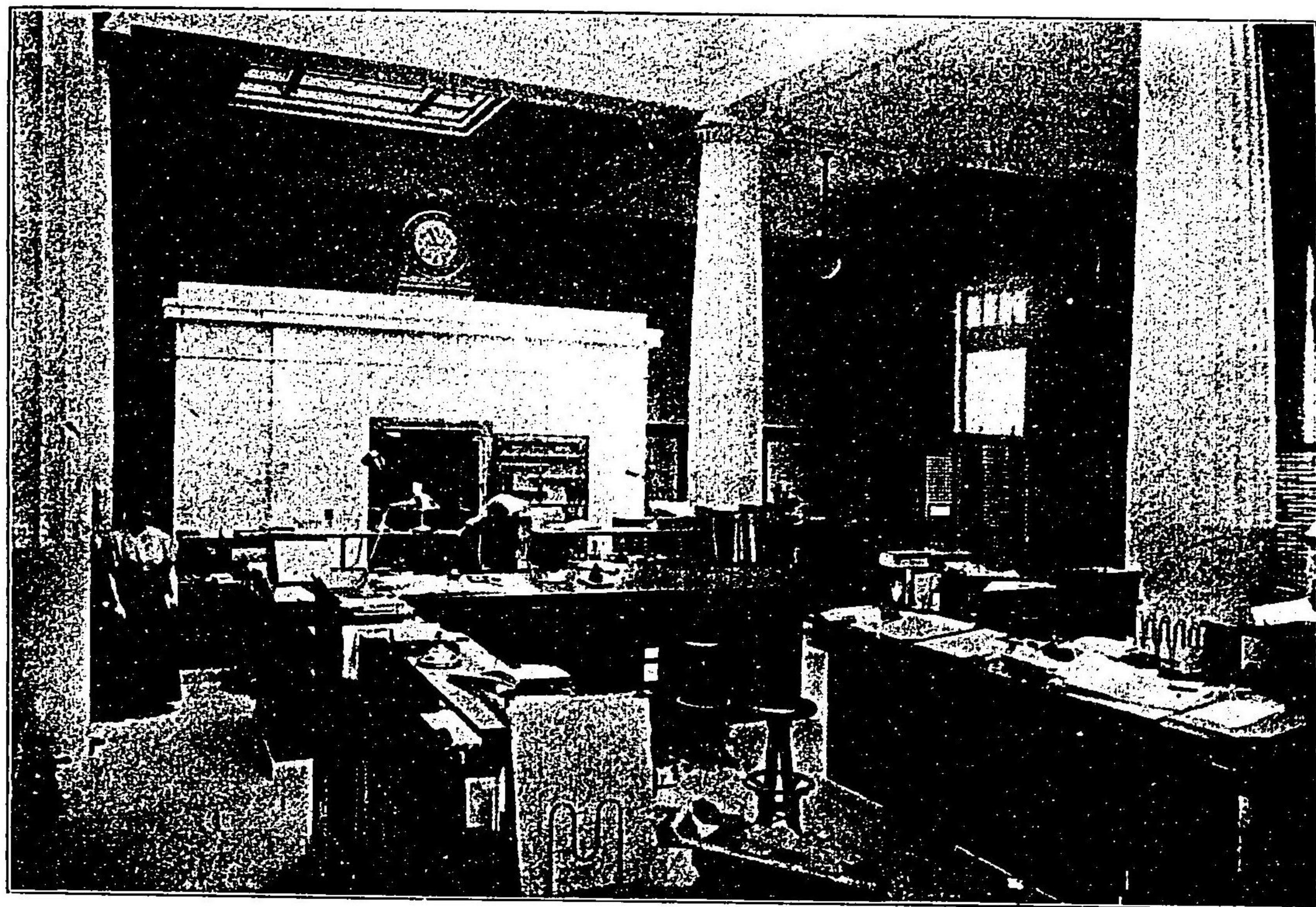
桑港總領事代理 永井松三



在日米人本會社元老 長澤 卅



在日米人本會長 牛島 附



部一の部内店支港桑行銀金正濱横



宅邸の王薯鈴馬島牛るけ於にーレクーバ



布瀑ルニウルディラフ 中勝景アミセコ



溪山大のテミセコ 中山ダバネラシ

北米踏查大觀

在米國 柏村 桂谷 著



第一章 緒言

言

西曆一千九百零七年之夏、余米國南加州の海濱オーションパークに在り、一日海濱の砂上に坐し、天空海濱の光景を對す、仰ぎ白雲心なくして浮び、碧波遙々として涯なきを觀るや、越標嶺に清く、芳氣として偉人の心胸に感觸し、人間の使命に想到す、謂らく抑も余は何の使命を帯びて米國に來りたるかと。

初め余の故國にあるや、米國山河の雄大なるを聞き、其富力の無限にして、文明の程度遙かに高きを想像したり、而かも一たび米國に來りて、日本人社會の實況を目撃するに至り、甚しく想像の事實に反するを知り、已にして米國に留まる事三年、一年は一年より、其事情の複雑せるものあるを感じ、始めて曩日の志想の單純にして觀察の皮相に過ぎざりし事を悟るに至りぬ、懐ふに足未だ米國の地を踏まざるものにして、米國の事に冷淡なるは數の免れざる所にして、譬へ米國の

地を踏むと雖も、僅々一二ヶ月の旅行は、却て極端の視察を爲して誤謬の想見に陥らざるものは稀なるべし、現に米人の漫に日本人排斥を唱導し、日本の常事者が、常に米國に對して畏縮退讓の失敗を演ずるもの、また其知見の深からざるに因らざるばならず。

抑も米國に於ける日本民族の發展たるや、我國有史以來、未だ類例のあらざる所にして、其發達も亦頗る近時に屬するものなり、吾人の國民は未だ殖民事業の歴史を有せず、吾人の政府は未だ海外に於ける日本民族の活動的眞價を解せず、彼等は海外に於ける同胞の實力を輕視し、其長所と弱所とを併せて之を不問に付し、延て國家百年の大計を過たんとするの恐なきに非ず、然れども徐ろに今後の太平洋問題と、世界的人類競争の前途に思ひ到らば、其消長得失の係る所、寧に輕々に看過すべからざるなり、其昔浦賀の港外、火輪波を蹴て到り、米國の水師提督ペルリ、我國に對して開港を迫るや、我國は遂に米國と修交條約を締結するに至り、爾後我國の盛に歐米の文明を輸入するや、ペルリは日本國民の恩人として感謝せられ、日米の國交和氣鶴然として殆んど一點の雲翳を有せず、然れども日清日露の戰役を経て、日東帝國の國威、隆然として勃興するを見るや、米國の日本に對する感情は頓に一變し、太平洋の水、春波洋々たりしもの、黒雲天の一方に現はれて、早くも風雨襲來の前兆を示すもの、如く、現時に於ける日米兩國の關係は、また昔時の如き單純なる交情を持續すべきに非ず、否米國にして一大反省を爲すにあらざるば、

兩國國民の間に、猛烈なる反撥力を挑發し來りて、終には前代未聞の大衝突を現出せんとするの恐なきにあらす。

吾人は固と平和を愛するものなり、然れども一國の屈辱を甘んじて、尙ほ且つ平和を愛すべきものに非ず、彼の米西戰爭の結果、亞細亞に容喙すべき階段を作りたる米國と、日露戰爭に依て、東亞の盟主たるべき資格を得たる日本帝國とが、太平洋をして人類競争の活舞臺たらしむるに至りたるは、宇内大勢の然らしむる所にして、新進の二強國が、互ひに其勢力を外に伸張せんとするより來る國民的衝突は、其形式の甚麼なるものとなりて現はるゝにもせよ、是れ天數の免れざる所なり、米國の前大統領ルーヅベルト氏が、「異人種の接觸は兩者の爲めに得策にあらす」とするも、相互の接觸は、宇内人類の當然免れざる運命にして、吾人は此等の接觸を回避すべきものにあらす、天は吾人に競争すべき資格を與へ、其勇者に勝利の榮冠を授け、其怯者に敗亡の恥辱を下すに非ずや、近時兩國の政府は、嚴重なる規定の下に、渡米の禁遏を爲したるが爲めに、在米同胞社會の發達を阻害したる事少くならずと雖も、是れ尙ほ金風蕭殺、枯葉地を拂ひたる樹木の、嚴霜積雪の下、徐ろに樹根を培養して、以て次回の春榮を期するが如く、一たび扶植せられたる大和民族の根底は、那んど容易に之を鋤去し得べけんや、然れども吾人は此際にして、米國に於ける日本人發展地の真相を故國に紹介するは最も急要の事に屬す、是れ在米日本人問題なる

ものは、今や一部出稼者の問題にわらずして、其關係する所實に深大なるものあればなり、而して吾人の米國に在るもの、是等の事實を提供して之が解決に努力するは寔に當然の義務にして、是れ余の驚才を顧みずして自ら此著を企てたる所以なり、爾來風餐露宿、日を費したる事殆んど二ケ年、稿漸く成りたるを以て之を一巻とし、遙かに母國の同胞に頒たんと欲す、天涯漂浪の身、南船北馬、客心轉々忽忙たり、奚ん予章句を銑鍊し、風流を點綴するの暇あらひや、讀者幸に之を諒せよ。

第二章 加州の地理と日本人發展地

余は踏査の實況を記するの前に於て、加州の地理と日本人發展地の概況を記せざるべからず、加州は太平洋沿岸、北緯三十二度五十分より、四十二度に達し、北西より南東に延びて、全長八百哩、幅凡そ二百哩、面積十五萬八千三百六十方哩あり、南は墨西哥其に接し、北はオレゴン州に界し、東はネバダ及びアリゾナ州に連る、其面積の大なる事、北米合衆國中第二位に位す、州の東を限りてシーラネバダの山脈あり、山峯相連ること四十三、其高さものは八千呎、低きものは五千呎を下らず、就中最も大なるものをシヤスタ山、ホワイトネー山と爲す、シヤスタ山は一萬四千五百十一呎にして、ホワイトネー山は一萬五千八百六十呎あり、此山脈中にはレーキタホー

と稱する大湖あり、清冽無比と稱す、またヨセミテの大山嶺あり、其奇勝國內に冠絶す、此山脈の西は、一大傾斜面を爲し、北はシヤスタ山の附近より、南はケーン郡に至る一帯の高地を形づく、其幅凡そ十二哩に亘りて、海面を抜く事三百呎乃至千五百呎の間にあり此地方頗る温帯地産の果物に富み、ヘンリン、ニューキャッスル等に日本人の果樹園を經營するものあり、また州の海岸を走る大山脈あり、諸多の小山脈を分派して殆んど州の全部に綿亘す、之をコーストレンジと稱し、連峯の高きもの六千呎に達し、低きも二千呎を下らず、此山脈の幅、廣き所四十哩に達し、狭き所二十哩に亘れり、山頂より海岸までの距離は平均五十哩にして、連山の間多くの原野ありて至る所生産力に富み、只だ極南の一部を除くの外、灌溉を要せずして果樹の栽培を爲し得るといふ、シーラネバダ山脈と、コーストレンジとはシヤスタ山を起點として、東西に分れ州の脊骨を爲して南進する事五百哩、兩山脈の相距る事凡そ百四十哩にして、二分せる山脈はケーン郡の最高地テハチベに至りて相合し、北緯三十五度の地點に於て、重疊竝立して高さ八千呎の山岳を起し、ポイントコンセブションより來る一帯の山脈、之を貫きて南東に走るあり、此山脈の南は乃ち南加八郡の沃野にしてローサンゼルス、サンバナデノ、リバサイド、オレンヂ、サンデーゴ、イムペリヤルの諸郡皆日本人の發展を見ざるはなし、テハチベ以北、二大縦貫山脈の間に開けたる長き大平原は、乃ちサンジョーキン河の兩岸を爲すものにして、桑港灣に注ぐサンジ

ヨークイン河口に至るまで長さ四百五十哩、幅員二百四十哩にして、面積一萬二千方哩、實に七
 百萬英町の地域を包容す、是れ加州に於て最も望を賜せらるゝサンジョーキン平原と稱するも
 のにして、日本人發展地の中、最も土地所有者の多きフランスノ、バイセリヤ、大和殖民地の如き
 また此中にあり、サンジョーキン平原の南に連りてサクラメント平原あり、延長百哩に亘り、
 北はレッドブラツフより南はサンジョーキン河に會するサクラメント河口に至りて、其幅平均
 四十哩、其廣袤六千二百方哩、四百萬英町の地域を包有して州中第二の大平原と稱せらる、此地
 方はサクラメント河及びアメリカン河の流域にして、土地膏腴、農産物の産出力驚くべきもの
 あり、然れども二大河の屢々氾濫するを以て、年々農家の收穫を流失するもの少からず、日本人
 農家の夥多なる事全加州に冠たり、多くは大農組織の借地農家にして、サクラメント市日本人街
 の繁榮は實に此等の農家に依て維持せらるゝといへり、此二大平原の外に尙ほ多くの平原あり、
 サンタクラ、平原九州中の重要農産地にして、桑港灣の南に位置し、東はハミルトン山を以て
 サンジョーキン平原に界し、幅二十哩、長さ七十哩を有し、其南端の狭き所は殆んど一哩に達
 せず、此平原中、サンノゼ市の附近及びアルビソ、ミルビダス等皆日本人の果樹栽培を爲すもの
 尠からず、サンノゼの日本人街は乃ち此等の中心として其發達を爲したるなり、またサクラメン
 ト平原の西に方りて、バカビル及びカベイ平原あり、ヨロー郡ソラノ郡を包容し、日本人の果

樹栽培を爲すもの多く、バカビル及びウインターに日本人の小市街を有す、此平原に隣り、ゴ
 ルデンゲート及びサンバプロ灣の北に方りて、ソノマ郡ナバ郡を包容する平原あり、土地最も
 富饒にして多く葡萄を産す、サンタローザの日本人部落乃ち此内にあり、更に州の北部に於ては、
 太平洋岸に沿ひて、クレマン河畔、トリニチー河畔の平原及びフーバー平原あり、シスキヨ郡
 にスコット平原あり、モダック郡にサーブライス及び、ラウンド平原あり、レージン郡にホーネ
 ーレーキ平原あり、此等は皆三十哩乃至六十哩の延長を以て相接し、其幅二哩乃至二十哩に及ぶ
 ものあり、何れも地層深くして地味肥沃なり、ブラマス郡よりシルラ郡に亘る一百哩の平原は最
 も菓物を産する事多し、然れども是等の地未だ日本人の事業を経営するもの少く、桑港灣東、ア
 ラメダ、コントラコスタ、兩郡の平野は土地の肥沃にして桑港の大市場に近きを以て最も有望地
 と稱せられ此地方日本人の野菜を爲すもの少からず、眼を南方に轉じて、コーストレンジと外
 洋の間、サリナス河に添ひてモントレイ灣に至る一帯の平野あり、延長百哩、其幅員五哩乃至十
 五哩にして、サンルイスオビスポ郡及モントレイ郡を包容す、サリナスは有名なる日本人の大根
 作地にして、ワツソンプルと共に日本人の在住者頗る多く、モントレイは日本人漁業者の最も
 多き所と稱せらる、獨りサンルイスオビスポの方面未だ日本人の侵入するもの少し、其南に接続
 して南加州の區域に屬する所、ベンチュラ郡にサンタポーラオクスナードの平野あり、サンタバ

八
ーバラ郡に、サンタマリヤ、ガードロップの平野あり、就中ガードロップは日本人の砂糖大根園に勞働するもの多く、サンタポーラにはレモン園の勞働者多く、オクスナードは有名なる砂糖大根の作地にして南加州中最も盛なる日本人の勞働地なり、其他ローサンゼルス平原、サンバナデノ平野は、南加州中最も富饒の地にして、リバサイド、オンタリオ、レッドランドは、日本人の蜜柑園に勞働するもの多く、何れもサンバナデノ平原に屬し、ローサンゼルスは南加州に於ける日本人發展の中心にして其發達の圓滿なる加州の隨一と稱せらる、またオレンヂ郡の平野には日本人のセロリ、砂糖大根の作多く、ローサンゼルス郡の中部を横斷せるサンギヤブレル山脈の北東よりケーン郡、サンバーナデノ郡に亘りてアンテロップ平野あり其東部は乃ちモザベの砂漠にして植物の發生を見る事なく只だ天竺の種類を見るのみ、サンゼセント平原はサンバーナデノ郡、サンゴルゴニオ山の東より、リバサイド郡を通過して、サンデーゴ郡の一部に開展するものにして廣大なる地域を有し、所々に山峯の起伏するものあり、此邊の地未だ水利を有せず、イムベリヤル平野はコロラド河の西、メキシコの國境にあり、加州中最も夏期暑熱の高き所にして、近時日本人の此地に瓜作を試むるもの多し。
加州の海岸は、長さ八百五十哩にして、其海岸線千二百哩あり、桑港灣は太平洋沿岸唯一の巨港にして、金門の海峡は眞に天然の要害を爲す、モントレイ灣は一の漁港にして風光また明媚な

九
り、サンタバーバラはポイントコンセプションの東にありてサンタクラズ、サンタローザの二島其前に横はり海波頗る靜穩なり、サンビードロ港はローサンゼルスの大都市に連續して將來貨物の輻輳するもの必ず多かるべく、サンデーゴは其歴史の古きに拘はらず、港内の水淺きが爲めに未だ充分の發達を爲さず、此中モントレイ、ポートルーサンゼルス日本人の漁業を爲すものあり、州内湖水の面積は、二千三百八十六方哩あり、ゾラサー郡及び、エルドラド郡に亘れるレーキタホーは、海拔六千二百四十七呎の山中にあり、長さ二十二哩、幅十哩深さ半哩あり、モダク郡に數個の鹽湖あり、六萬四千英町の總面積を有し、ゴース湖、ヒッド湖、クリアー湖、クレマ湖、ダンナー湖を其内の大なるものとす、レーヂン郡には二十二の湖水ありて常に水を湛え、其面積九萬四千英町あり、ハーチー及びイーグルレーキは其中の大なるものなり、レーキ郡に於けるクリヤーレーキは水上の風景最も美にして、長さ二十五哩、幅八哩あり、モノ湖、オーエン湖はネバタ連山の東側にあり、ツラレ郡にはツラレ湖あり、州中の最大湖にして、廣さ十六萬英町あり然れども此湖水は水量少く近時其湖面を縮少せり、州の南部にも湖水あれども、有名なもの少し、コースト山脈及シーラネバタ山脈の中にある湖水は、加州の全部に重要なる生産的の原料を興え、湖水の水力電氣に使用せらるるもの最も多し。
更に加州の氣候に就て記せんに、普通の遊散地としてのみならず、冬季の避寒地、夏期の避暑地

として、多くの人を吸収し、之をして健康ならしむるもの恐らくは加州の氣候に及ぶものなからん、此地は一年中最も太陽を見る事多く、晩春初冬の頃、東部に於て用ふる衣服は之を加州の冬の季節たる十二月に用ひ得べく、他の地は嚴霜結び、積雪地を埋むるにも拘はらず、此地は輕暖人に適し、野外花綻び、冬とは名のみにして只だ曇り日を除きたる春に過ぎず、海岸地は冬は他に比して温かに、夏は他に比して涼氣を感ず、是れ潮流と風の關係に因て然るものなり、加州全地の氣候は元と經度と土地の高度に因て差違を生ずべきものなれども、金門灣より來る太平洋の風は常に冷濕の空氣を齎らし、シーラネバタの山脈は此温氣を遮りて降下せしむ、此海風と此山脈とは常に加州の氣候を變化し、調和する上に於て、至大の關係を有せり、今加州の氣候帯を分ちて之を四區と爲す事を得べし、南加州は特種の氣候を有するを以て之を一區劃と爲し、テハチベ以北は之を三分して、海岸地、平原地、山岳地と爲し、平原地は北方シヤスタ山よりサクラメント、サンジョーキン平原を通過して、モザベ、コロラードの乾燥せる砂漠地に及び、此地帯は夏期雨を見る事なく、海岸地はコースト山脈以西一帶の沿海地を中心として、南はポイントコンセプションより州の北部に達し、四十五度乃至六十度の平均温度を有する地帯を包轄し、山岳地は乃ち州の東、シーラネバタの山岳地方を以て之に配す、而して金門灣の風が、中部及び北部加州の地に其氣候を變化せしむる例證を示さん、金門灣と相對するギープンポイントを中心とし

て南北に進行せんか、其進行するに従ひて温度の増加するを實驗し得べく、斯くて州の北に偏するシヤスタ郡、レッデングと、州の南部に近きベカスヒルドとは、相距る事三百五十哩にして、レッデングの平均温度六十四度、ベカスヒルドの平均温度は六十六度なり、而もギープンポイントに近きサクラメントの平均温度は六十度に過ぎず、南加州の氣候に至りては、更に別個の状態を呈し、其氣候の良好なる事世界中稀に見る所のものなり、ローサンゼルスの過去十二年間の平均雨量は十五吋にして一年の中、平均三百十六日は晴天なり。

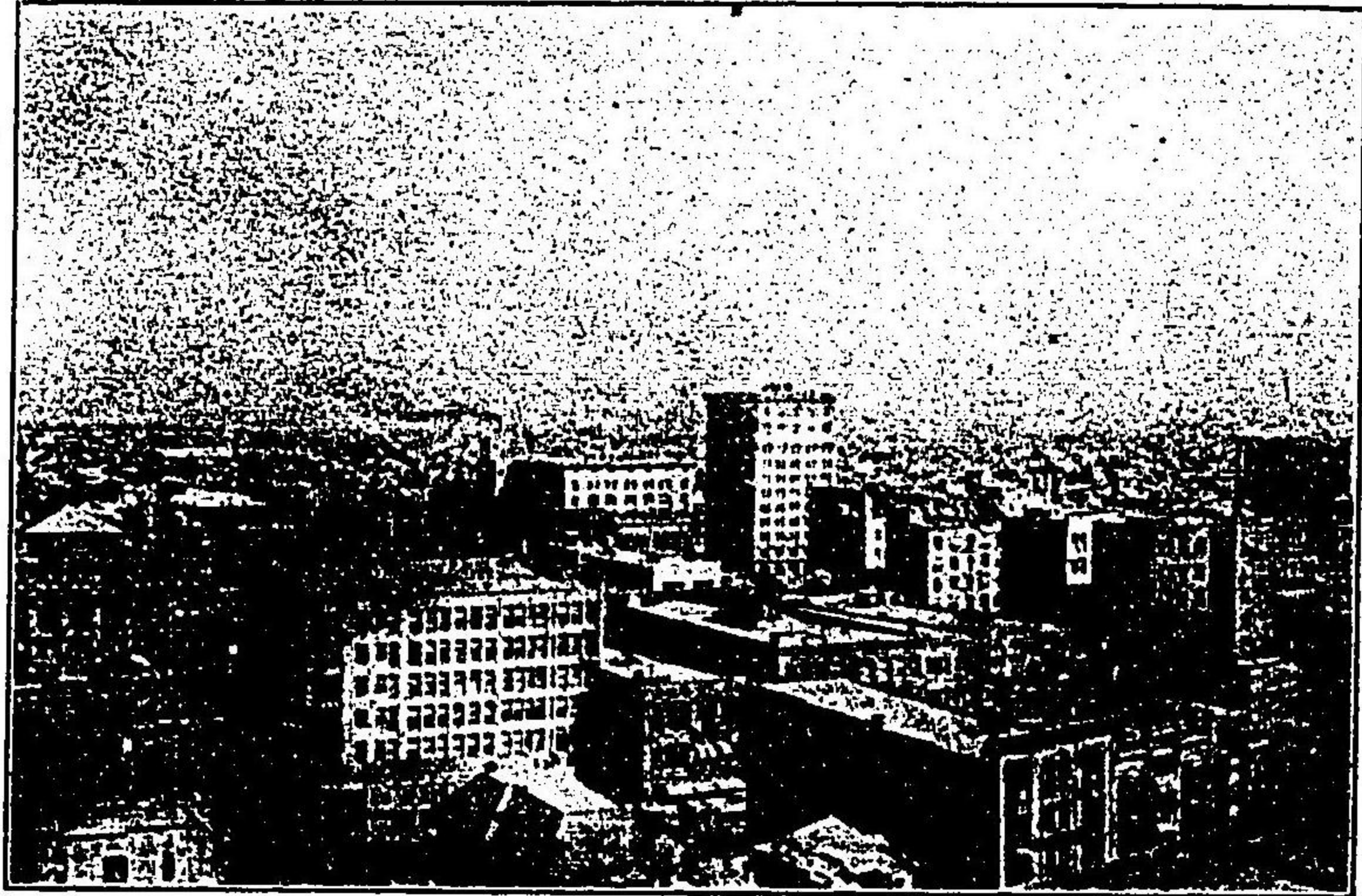
第三章 加州の沿革

米國太平洋沿岸の發達は、其迅速なる事世界無比と稱せらるゝは、蓋し過言に非ざるべし、然れども僅かに三百五十年前に溯れば殆んど無人の荒地に過ぎず、西曆千五百四十二年の春ボーチユガルの航海者ジョン、ロードリゲル、カンプリロなる者、二艘の舟を率ひてカリホルニア沿岸探險の途に上り、船の墨哥西其を發したるは其年六月にして、彼等はメキシコ、エリザリスコの小港ナビダットより出帆して、サンルカスの岬角を廻り、北緯三十八度の邊を海岸に沿ふて北西に進み、加州サンタババーラの附近に其風波を避けたる事あり、此時カンプリロ死し、副船長フェレロ代りて此艦隊を指揮す、フェレロは熱心果敢の人物にして、彼は乗組員の失望落膽するものを闕

まし、其探險を續けて更に北進し、千五百四十三年二月二十六日、彼れのストリーミーケープと名けたる北緯四十一度の海角に到達し、其五月一日、更らに四十四度の所に達し是より南方に廻航したるが如し、此際乗組の多くは船を去りたるも、フェレロは依然其艦隊を率ゐて、千五百四十三年四月十四日、ナビダッドに凱旋したり、此航海中彼の名けたる、ストリーミーケープは、彼の探險せる最北の點なるべく、現時メンドシノの海角と稱せらるゝもの或は此地點なるべしといふ、如何なる點よりするも、西班牙人は北緯四十度に一の殖民地をも有せざりしが如し、思ふに彼等は太平洋より大西洋への航路あらざる事を斷定せるもの、如く、フェレロの歸航せる後、西班牙人の暫く此方面の探險を爲したるを聞かず、其後千五百七十九年の春、英國の航海者サー、フランシス、ドレーキなる者、加州の沿岸を探險し、彼は現時の桑港と想像せらるゝ海濱に上陸し、正式に女王エリサベスの名に依て土地の占有を行ひ、ニュー、アルベニーの名を命じたり、其七月二十三日彼は此地を去り、後千五百九十六年、セバスタン、ビスケーノなるもの、メキシコ副王の命に依て、カリホルニア半島に殖民を計劃したるも、土地の生産力に乏しきのみならず、土民の暴戾なるが爲めに其企を抛棄し、去て上部カリホルニアの海岸を見舞ひて、巖にカブリロの發見したる同一の地點を發見し、カブリロのポート、サンミゴエルと名けたるをポート、サンデーゴと名け、ケーブ、ガララと名けたるを、ケーブ、コンセプションと名けたり、是れ今

より百六十年前、西班牙人の加州探險を爲したる最後のものと稱せらる、西班牙人の早く此沿岸に着目せる時に於て、ボデガといへる海濱に露國の殖民計劃を爲したる事あり、此殖民はカリホルニアに於る西班牙政府の代表者より抗議を申込みたるも、露國は此抗議を斥け、露國の代理官クスホッフは、カリホルニアに對する西班牙の權利を拒絶するに至り、西班牙政府の官吏は其主張を實行するの權力なく、露の侵入者は一千八百四十年自ら其地を去るに至るまで其地を占領したり、已にして西班牙の權威衰微し墨哥其共和國の獨立すると共に、全カリホルニアは二區に分れ、半島部を下カリホルニア、大陸部を上カリホルニアと稱す、是れメキシコの西班牙に對する獨立戰爭の結果に依れるものにして、千八百二十四年、メキシコの憲法を發布し、國會を開設するや、上カリホルニアは其國會に代議員を出席せしむるの權利を與へられ、同時に其地に在住する印度人の一部に公民權を附與し、西班牙の寺院に服従すべき義務を解放して其去就を自由にせしめたり、斯くて千八百四十六年五月、メキシコ共和國は、遂に北米合衆國と開戦の準備を爲すや、米國政府は、早くも其機先を制し、水師提督スロートをして太平洋艦隊を率ゐてメキシコを征討せしむ、此艦隊は米國が此方面に送りたる艦隊の最も大なるものにして、ストロー提督は進んで直ちに上カリホルニアを占領し、其港灣を封鎖したり、此戰爭の局を結ぶや、千八百四十七年兩國の政府條約を締結し、上カリホルニアは遂に米國の領土となるに至れり、思ふに當時

ロースゼン市の街の上丘よりロースゼン市の街を望む



ロースゼン市の西九街に添へる野菜市場

一四

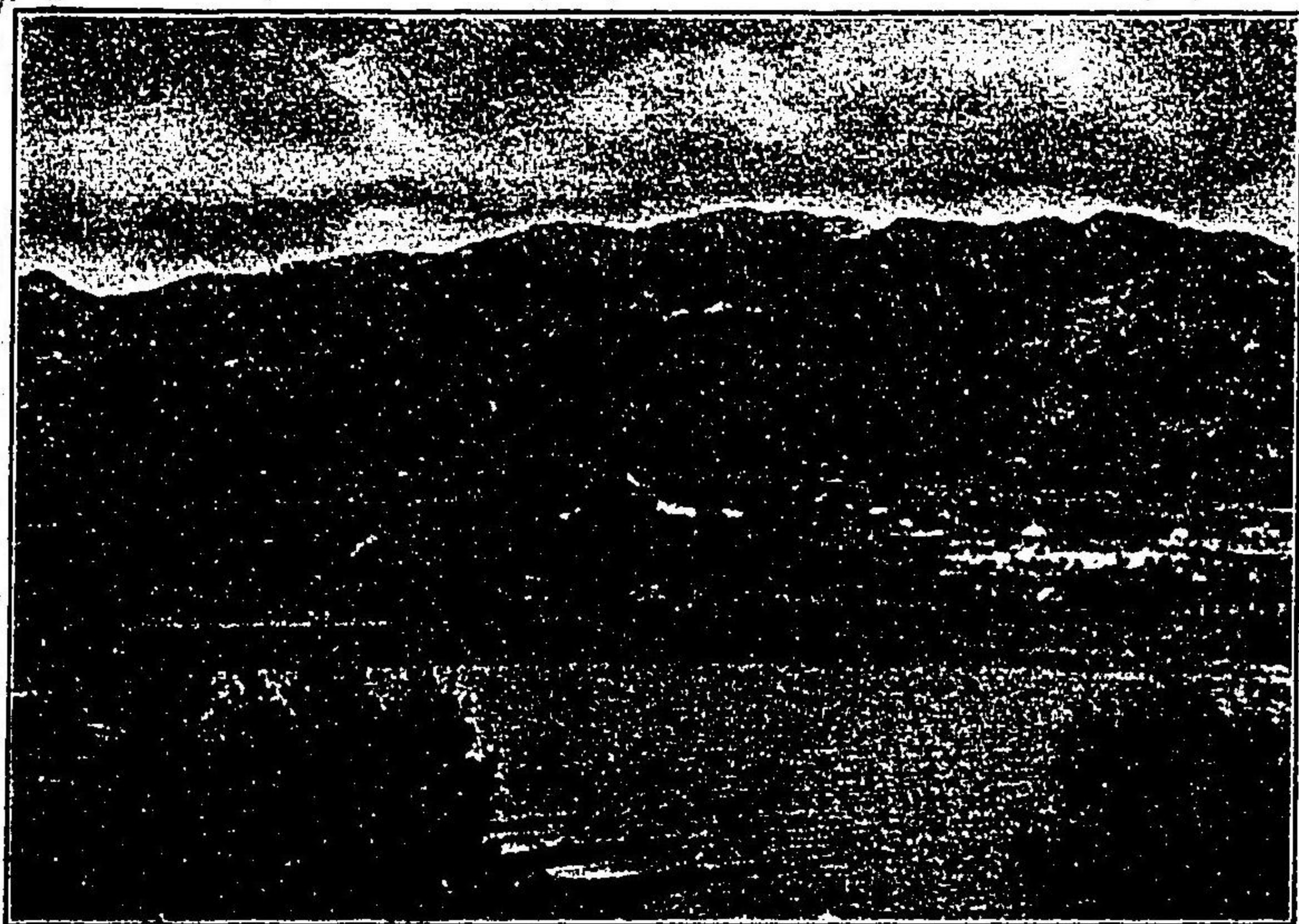
のメキシコ政府は上カリホルニヤを米國に附與するに當り單に商業上及び農業上の打算を爲したるの外、未だ斯の如き巨額の富を地中に伏藏せるを知らざりしなるべく、其買方の位置に立ちたる聯邦政府も此地が無限の富力を貯藏し、其河流が黄金の地層の上を流れつゝある事は夢にだも想像せざりしならむ、而して此條約締結の年、サクラメントの附近、アメリカン河の支流に沿ひたるコロマといへる地に、マーシャルといへる者金鑛を發見し、其採掘の巨額なる殆んど世界の人心を驚倒せしめ、世に之を加州の金鑛熱と稱せり、是より先きサンパナデノの附近に金及び銀の發見を爲したるものもあるも其最少く世人の注意を惹くに至らざりしも、マーシャルの金鑛發見は、實に加州開發の新紀元を爲したるものにして、加州は是より突飛の發達を爲し、此金鑛に誘引せられたる多くの移住者は乃ち現時の農園及果樹園の所有者たるもの多く、而して金鑛を以て名を知られたる加州は今や、農産物に富み、氣候の優りたる保養地として其發達の昌なる事実に驚くに堪えたり

第四章 南加州の踏査

第一節 概説

南加州とは加州の南部八郡を限り、便宜の爲めに特別の名稱を付したるものなり、是れ天然の地

景遠の一ロトマ中山連ルレプヤギンサるた看りよ近附ナデサバ



山腹に天文臺及び登山の電車線あり



紅萬紫千の園公ンヤシリエ 市スルゼンアスーロ

形著しく別個の状態を備へたるを以てなり、此地方は恰も我邦關東八州の地が、箱根の嶮に依て他と境を限り、中に廣大なる武藏野の平野を作り、隅田川の注ぐ所、東京灣の波濤かに、附近に横濱の港を控へて、山姿水態、天然の地形自づから他に異なるものあるに似たり、函嶮の嶮は、以てテハチへの嶮、高さ八千呎の山岳地に比すべく、シルラの峻脈は、富士帯の高峯巨岳と肩比するに足り、八郡の平地、畧ぼ八州の地積に均しく、サンタバーバラ、オーシヨンパーク、サンデーゴの海濱、鎌倉、江の島の風光に配して、夕陽の山色、月夜の水光、以て其美を争ふに足り、巴奈馬の運河開通するに至らば、サンビードルの港内、千楢林立して、遙かに横濱の阜頭と其覇を競ふに至らん、ローサンゼルス規模、其宏壯、美麗、繁華の度、加州の東京に擬して殆んど恥づべきにあらす、然れども桑港を以て浪華に比し、櫻府を以て京都に比するは果して其當を得たるものなるや否やを知らず、加州の開発日尙は淺きを以て、都會の資格、人口の密度は、未だ以て我國のそれに比すべからざれども、將來の發達と、富源の饒多なるに至りては、加州の都會或は我邦の都會に優るやも知るべからず。

南加州は北はポイントコンセプションの北、サンタマリヤ河を界として、東に二線を劃し、サンルイスオビスポ、カーン、インヨ一の三郡と相接し、東はコロラド河に依て、アリゾナ、チバタの二州に界し、南はメキシコと接続し、西は緩かなる灣形を爲して太平洋に莅り、其面積四

萬四千八百六十方哩にして、全加州の三割四分以上を占有す、此地の特色は、其氣候の他と全く異なる點にあり、海路を取りて南加に至るものは、彼のポイントコンセプションの脚角を迂迴する時に於て温度の著しく異なるを感ずといへり、是れ海上の風は、桑港近海に於けるが如く鋭からずして海潮の暖氣あるが故なり、加州が戶外の生活に適せるは一般の認むる所なれども、南加州の氣候は其中の最も健康に適するものにして、夏期の暑さ九十四度を越ゆる事なく、冬季は三十四五度を下らず、一般の醫師若くは衛生家は此地を以て米國中最上の適地たるを主張せり、今一年間に於ける氣候の變遷に就ていへば、春より秋に至る間、曇りなき天氣打續きて、夏期來るも雷鳴を聞かず、驟雨も來らず、八月九月に入りては、時々暑氣の昂騰して九十度以上百度に近き事なきに非ざれども、太平洋の冷氣常に之を緩和するを以て、ニューヨーク市に於ける同等の温度よりも、十度乃至二十度を下りたる程度を感ずるに過ぎず、而かも此地方は四季の區別明裁ならずして、春のいつ去り、秋のいつ來るかも知らず、斯くして十月頃に至り、初雨晴れたるあと、小山の上に綠色を染め出して、朝に夕に、いつしか春草の郊野に萌え出づるが如きを見るなり、日本にては風の吹き荒む十月雨時なるに、此地は夏の間枯れたる野面、此頃より降雨の爲めに色を帯びて、冬山の光景却て晩春の風色を呈し、吾等をして寧ろ奇異の感を抱かしむ、斯くして此雨は、二三日打續きて、二吋乃至三吋の雨量を示す、此時南風、海より來りて、地平線

上にある洋上の雲は、シーラチパタの山脈に登り來り、時としては、此初雨は變化して山上に雪を白ます事あり、此後は二三週間の晴天ありて、更に次回の降雨來り、此度は初雨よりも雨量多く、大抵山上に白雪を見る、此降雨は大氣の汚塵を洗滌して、世に知られたる南加州の冬の特に透明なる大氣を充たし、百哩の遠山、十哩の外にあるが如き觀を爲す、十二月の末には時として暴風の起る事あり、降雨は六吋乃至十時に達し、山頂は此時皚々たる大雪の光景を示すを常とす斯くて一月は清淨の天地、冷風面を拂ふて爽快云はん方なく優温なる太陽の光線、早春の綠野に照り直り、二月は十二月に吹くが如き暴風の來る事あり、三四月に至りては二三日の降雨、時々來りて、茲に一年の降雨期を終るものとす、然れども南加州の氣候は到る所必ず同一にはあらず沿岸は總て内地よりも涼しく、夏期は夜中海霧にて蔽はる、内地の高原地は、夏期百度以上の温度を見る事は稀ならずして、平原の地は、不時に降霜を見る事あり、而かも其降霜は一朝にして農家の作物を害し、彼等をして霜將軍の襲來を恐れしむる事、頗ぶる甚し、只だ地勢に依て冬季少しの霜害も見ざる地には、常に赤茄子を市場に出し、バナ、の美しく垂るゝを見る、若し夫れ春尚ほ淺くして、東風微暖を送るの時、肥馬に鞭ち、輕車を驅り、坦々たる車道行けども盡さず、仰げばシルラの一方、白雲烟霞の間に浮動し、麓には黒緑の柑園相連りて、花香衣袂を薫するが如き、眞に現世の樂園たる事を感じしむるなり。

最も吾人の驚くべき事實は、人力に依て成れる水道事業が、此廣大なる土地を開墾せる事にして南加州の灌溉事業を見るものは、人工に利用せられたる水の魔力がいかに驚くべき現象を呈出せるかを知るに足らん。現時の南加州は果實と花とを以て填飾せられたる一大花園なり、然れども若し人工を以て遠距離の水を之に誘致せずんば、南加州の大半は一の荒蕪地に過ぎず。南加州に來りて灌溉組織の實際に着目せるものは、文明に伴へる器械力の發達が砂漠を變じて沃地と爲し、蠻民のランツを變じて、煉瓦の高樓を現出せる事實の實際なるを感せざるはなからひ、而して此地方に於けるモサベ砂漠は、今尚ほ未開の地域として廣大なる面積を存するを見るなり、太平洋上より蒸發せる積層の雲は、サンアントニオ及びサンバーナデノの山頂を掠過して、茫々際涯なき大砂漠の空に達するや、此水氣は太陽の熱に依て直ちに蒸發し去らる、此地方は不毛の平原にして、禿質の山岳地を爲し、其地質はアルカリを以て蔽はれたる砂石質の地なり、山嶽は峻しき岩石より成り、草木極めて少く、屢々峻々たる圓錐狀の山峯、屹然として立ち、其峯頭、鋭く尖れるあり、中には地盤を抜ける巨巖の、斜めに生じて高さ幾哩に達するものあり、鈍く橄欖色を爲して葉の少きグレイシワードといへる植物殊に多く、砂岩の間には、奇怪なる状態を以て灌木の生ずるあり、彼等は到る所の地質に化せられて、或は蒼白となり、或は灰色となり、或は緑色となるなり、Yuccas (糸蘭性植物) Cactis (天人掌屬) の類、また其地質に従て色を異にせり、彼

等は畏るべき鬚を鑿ひて容易に他の動物を近づかしめず、就中 Joshua tree と稱するものは、其高さ二十呎に達するものありて、其形狀極めて奇怪なり、其枝端には恰も短劍を束ねたらんが如く、光澤ある綠葉の長く對出するあり、其質強硬にして、枝態の屈曲せるや一種の奇觀を爲す、砂漠地には他の植物の繁茂せざるにも拘はらず、此植物は到る所に成長して、彼等は此地方に富の全部を代表するが如く、而かも殆んど一定の間隔を以て相生する光景、荒涼殺伐の風景裏に、一種の光景を描出するを見るなり、此地方に於けるシャボラン屬は其種類極めて多く、其針の如く尖りて、其鐵の如く硬き幾多の綠葉は、千古幾年を通じて此地方の威嚴を保つもの、如し、鳥類には、Red-Runner, Cactus Wren, The Mountain Mocking Bird 等あり、また Mammoths なるものあり、彼等は水禽の種屬なれどもまた水なき地方にも生息し得る事を知るべし、少くも Spermophile 及び見下の White Chipmunk あり、彼等は穴中に居所を有するもの、如し、此等動物の外、蒼色の砂漠鼠あり、其背部に小鹿の如き毛あり、腹部は雪の如く白く、其眼は比較的大にして、長さ後脚と、著大なる頬袋を有す、蛇類、蟻類に至りては其種類の多く形狀の奇態なるを見る、彼等は此無人の地に一種の奮闘的生活を送りつゝあり、嶺山の探検者は、常に此地方を旅行し、忍耐辛苦窮乏の間に彼等の先輩がサクラメント、コロラードに於て、遭遇せるが如き稀有の運命を探りて倦む所を知らざるが如し、然れども此地方に於ける自然の寶藏は、固より吾人の

推測しがたき秘密に属するものなり、思ふに此地方には、鑛物の外に、將來農産物の大收穫を得る望なきに非ず、現にコロラード河畔に、カットンツリー及び柳樹の茂れるを見るべし、若し此河水を引きて土地を開墾せば、肥沃なる作地を得る事難きに非ずといへり、現時の河水は其一半は熱砂に吸収せられ、一半は空中に蒸發し去れり、此地の開拓さるゝや否やは、乃ち此河水の利用如何に在るのみ、此地は極度の乾燥地にして頗る人をして健康ならしむる地なりといふ、冬季は夜寒酷烈にして降霜あり、不意に天候險惡となりて大雪の降下する事あり、また午前は温暖を覺えて、午後に暑氣を感ずる事あり、冬去りて春暖の季節に至れば、暖き砂上に野花の大盛裝を來し二三週間、此砂漠は一大花園と化し、其美觀云ふべからざるものあり四五月の頃、強風砂を捲て至り大地を一掃し去る事あり、斯くて夏期は大空の雲裂け、雨水急瀉し來りて、砂石の間一夜に谷を生じ、附近の植物を流去する事あり。

更に南加州の海岸地が特殊の保養地とせらるゝ所以を記さんに、此海岸地は其空氣中に鹽化沃素を含む事多く、病後の回復期にあるもの、神經衰弱、不眠症の如きは此等の地にて平癒さるゝもの多く、リニューマチス、神經痛患者の如きは沿岸地より高地を擇ぶを可とし、加多兒、喘息、氣管支病の如き之と同一の地方を擇ぶべしといふ、肺病患者、胃病患者の如きも、また南加州の空氣に依て治癒せらるゝもの多し、今千八百九十七年より千九百六十年に至る十ヶ年間毎月

の温度の昇降を表示するに左の如し。

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
最高温度 八二、〇	最高温度 八一、六	最高温度 八三、九	最高温度 八四、九	最高温度 八〇、四	最高温度 九〇、七	最高温度 九〇、〇	最高温度 九四、二	最高温度 九五、〇	最高温度 九一、八	最高温度 八九、五	最高温度 八三、四
最低温度 三五、〇	最低温度 三七、一	最低温度 三九、一	最低温度 四〇、八	最低温度 四六、〇	最低温度 五〇、一	最低温度 五三、三	最低温度 五三、〇	最低温度 五〇、三	最低温度 四六、二	最低温度 四一、二	最低温度 三五、六
中間温度 五六、一	中間温度 五五、八	中間温度 五七、〇	中間温度 五九、四	中間温度 六一、二	中間温度 六六、二	中間温度 六九、八	中間温度 七〇、七	中間温度 六九、二	中間温度 六五、一	中間温度 六一、八	中間温度 五七、六

地質は砂土粘土、礫質壤土、砂質壤土、粘質壤土等ありて、半熱帯地の植物として生育せざるはなく、他の地方に適せざる幾多の植物及農作物を有し、産物の主たるものは農産物に柑橘類、蔬菜類、穀類、牧草類、砂糖大根、牧畜、家禽、蜂蜜等あり、製造物に、屠獸業、印刷出版業、機械製造業、製粉業、車輪製造業、家具製造業、乾酪及糖菓製造業、酒類醸造、鋸銅、鐵工、瓦斯製造等あり、鑛業に石腦油金銀銅及寶石あり、而して農産物は一年六十萬弗、製造業は五千萬弗、鑛業の中石腦油は一年二十萬弗の産額あり、金銀の産額は北加州に及ばざる事遠く、一年三百九十萬弗に過ぎず、然れども南加州全體に於ける生産額は千九百六年に於て已に一億四千九百〇八萬四千六百〇八弗の總額に達し之を其年の居住者概數七十萬に配當せば一人二百弗以上の生産額

を有するを見る。
 商業は、近時著しき進歩を爲しつゝ、あれども、まだ複雑なる商業取引の市場として世界に濶歩するの時に至らず、然れども、太平洋沿岸に位置して北はアラスカより南メキシコとの交通の要路に當れるを以て、ローサンゼルスを中心とせる貨物の集散少からず、輸出品の殆んど全部は此地方の農産物にして、工業品の如きは目下他より輸入せらるゝもの多し、今千九百七年南加州より輸出せる重なる産物の量を示せば左の如し。

柑 橘 類	三〇、〇〇〇貨車	麥 粉	四〇〇、〇〇〇樽
鐘 詰 類	一、一〇〇貨車	セ ロ リ	三、〇〇〇貨車
オリーブ(酸漬)	二、〇〇〇、〇〇〇瓦	キヤベージ	五〇〇貨車
オリーブ油	二〇〇、〇〇〇瓦	カリフラワー	三五〇貨車
大根砂糖	六九、三四三、一〇〇斤	胡 桃	七、五〇〇貨車
ワイン及ブランデー	一、二〇〇、〇〇〇瓦	乾葡萄及乾果	四三〇貨車
麥 酒	二一〇、〇〇〇樽	牛 酪	五、〇〇〇、〇〇〇斤
石 腦 油	三〇、〇〇〇、〇〇〇樽	乾 酪	七五〇、〇〇〇斤
豆 類	三〇、〇〇〇噸	鷄 卵	七〇、〇〇〇箱

各種の工業品は乃ち此外にして、鶏卵、牛酪、乾酪の如きは斯く輸出さるゝと共に州外より輸入するもまた多額に上れり、今千九百七年度に於て米國東部諸州、ミスシッピ地方、歐州より南加州に輸入せられたるものを表示すれば左の如きを見る。

銅 及 鐵 材	一五〇、〇〇〇噸	紙 類	一、八〇〇噸
雜貨及食料品	一〇、一〇〇貨車	衣服織物類	六、〇〇〇噸
藥 品 其 他	三、〇〇〇貨車		

外國貿易に至りては未だ寥々殆んど擧ぐるに足らず、千九百七年度に於ける外國への輸出は八十八萬弗輸入二百五十萬弗に過ぎず、是れ外國船の出入すべき巨港の未だ完備せざるに依る、輸入は年々増加を爲し、殊に日本品の増加率に至りては、最も刮目して見るに足るものあり、今千九百六年及千九百七年に於ける各國輸入の形勢を見るに左の如し。

澳 地 利	千九百六年	千九百七年
白 耳 義	六、三〇三	一〇、〇〇〇
丁 一 抹	二七、八八〇	六五、九〇三
佛 蘭 西	八五、九二一	二〇五、九六四

南米		北米		歐洲																
智利	墨西哥	加奈陀	英領印度	新嘉坡	英領東印度	蘭領東印度	日本	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞
一七、五五九	三、六〇九	二二、九七〇	六、八九四	三、一五〇	三、一三〇	一三、一五〇	四一、〇〇五	七〇、三一九	一、二七九	四九	一五六	一〇	一七六	八二九、二三二	一、五五九、三三二	一、四八八	一八八	一、五五九、三三二	一、五五九、三三二	一、五五九、三三二

南米		北米		歐洲																
智利	墨西哥	加奈陀	英領印度	新嘉坡	英領東印度	蘭領東印度	日本	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞	亞細亞
一七、五五九	三、六〇九	二二、九七〇	六、八九四	三、一五〇	三、一三〇	一三、一五〇	四一、〇〇五	七〇、三一九	一、二七九	四九	一五六	一〇	一七六	八二九、二三二	一、五五九、三三二	一、四八八	一八八	一、五五九、三三二	一、五五九、三三二	一、五五九、三三二

第二節 ローサンゼルス市街の盛観

ローサンゼルス市は南加州の首府にして、最も近時の發達に屬する新都會なり、其發達の迅速なる事、世界に其比を見ざる所にして、今より四十年前にありては、人口僅かに五千に過ぎず、而かも其居住者の多くは墨哥西其より移住せる西班牙人にして、彼等の生業は、革皮、羊毛、獸脂を産出するに過ぎざりしが、其後白人の來り住するに至りて、其發達著しく、千八百八十五年、南太平洋鐵道のユマ市に達するや、始めて東部米國の諸州と連絡を爲すに至り、千八百八十七年、サンタフェー鐵道の開通するや、此地の發達は、茲に新紀元を劃して、現時の隆盛を見るに至りたるなり、然れども最近の發達は、更らに驚くべき急速の程度を現出せるものにして、今より十三年前、市の面積は三十六方哩、人口六萬、市の課稅財産額四千八百八十一萬四千五百弗なりしもの千九百九年サンビードロ其他附近の自治體を合併して、現時の面積八十方哩、人口三十五萬、課稅財産額二億九千九百萬弗に達し、尙は年々附近の小都會を合併して、世界的大都會を現出せんとし、其勢の盛なる事、殆んど停止すべからざるが如く、將來發達の程度、今より豫想すべさにあらず、交通機關の此地を中心として、諸方に達するもの、南太平洋鐵道會社のサンセツト線、オグデン線、サンジョーキン平原線あり、サンタフェー鐵道會社のアルバータイ線、サンジョーキン平原線あり、ノートルキー鐵道會社のユタ線、及びチバタ線あり、其他附近の交通に便するもの才十數の線路あり、海上の交通には、桑港及びサンデーゴに往復する太平洋

沿岸汽船會社の航路あり、市街電氣鐵道の延長二百五十哩にして、市外線を合して七百哩に達し市街道路の延長四百十哩に及べり、市街地はローサンゼルス河の附近より起りて南に延び、東にポイルハイトの高地あり、北西に偏してヒル街頭の高地ありて、共に市街の眺望に富めり、最も般賑を極むるは第一街より第九街に至る間、メイン街、スプリング街、ブロードウエー街、ヒル街を通して、車馬喧轟を極め、往來繼るが如し、此邊の建築物は、七八階より九階十階のもの多く、巍々たる層樓街路を挟んで相並び、其狀恰も百仞の絕壁直ちに天際に迫るが如く、車道は土瀝青を敷けるアスハルト式にして、人道は玻璃大理石または種々の堅牢なる人造石を用ひ、其滑澤の美、玉を敷くが如し、士女の往來するもの、盛裝美服して、麗彩眼を眩せんとし、或は黄金の手環を飾し、珊瑚の頸飾を纏ふものあり、或は駝鳥の羽毛を冠し、翠紗の面羅を覆ふものあり、珠履を踏み、華裳を曳き、肥馬輕車に鞭ちて來るものあり、豪奢の代表たる高價の自動車を驅りて去るものあり、スプリング街と第一街の十字街頭、一日の間、電車の往復する事三千二百回と稱す、以て其熱踏の一般を推すに足るべし、夜に入りては、種々の電燈、燦爛として花の如く輝き、炎々として九天の雲を焦すに似たり、市民の邸宅は營業區域を離れて周圍の高地及び第九街以北に多く、街路整然として路の兩側に並び、家屋は何れも近世の模範式に依り、其建築は、煉瓦石造のものよりも、加州産の松樹または、レッドウッドといへる材木を用ひ、其構造

雅致にして、優美宏壯の風を備ふるもの多し、周圍に廣き庭園を廻らし、青草薺を爲し、綠葉窓を蔽ひ、堂々たる波斯棗あり、燃ゆるが如きジュレニヤムあり、冬期梢頭に臘臘の如き色を染め出す加州花あり、四時淡紅の葩を着くる薔薇あり、何れの邸宅にも水道より管を引きて、朝夕其必要に應じ、護謨管を接して自在に撒水を爲し得るの設備ありて甚だなる炎熱の時に於ても、園内の草木花卉の枯死する憂わらず、其生活の程度、我邦華族的生活の状態に劣らず。

ポイルハイト一帯の高地は、ローサンゼルス河の東に横はりて、殆んど市街の大半を眺望する事を得べく、眼下に、三大鐵道會社の列車、相輻輳して、蜿蜒羅列するを見るべく、附近に於ける各種製造所の烟突より騰上する黒烟、騰々として市街の上を蔽ひ、日の西に没せんとして殘照丘陵の上を射れば、寺院の尖塔に金色の十字閃き、暮靄遙かにロスニトス平原の彼方に横はるを見る、市の背景を爲す「シーラマドル」の高山は最も壯麗崇美の觀を備へ、日光と空氣の作用に依りて、時々色を變化し、朝霞暮雲、風景佳ならざるなく、殊に冬季山嶺に雪を冠するに迫んでは清空一碧、白水晶の如き幾多の峯頭を點出して、觀るもの其美の崇高に打たれざるなく、若しこれ、嫦娥空に懸りて、清夜此高山に對する時、猛虎一聲、山月高の詩情を忍ばしむるものあり、此山ありて、始めて羅府の壯大と優美を備へしむ。

市内公園の數十九、面積三千七百五十英町あり、就中東湖園は、市の東にありて、廣さ五十

英町あり、中に八英町の湖水を涵へ、湖邊に音樂堂あり、丘陵の邊、樹木林を爲し、養花園及び動物園あり、湖水に遊舟を棹すべく、規模大にして山水の配置自づから優雅の風景を爲す、西湖園は市の西にあり、園の廣さ三十五英町、其十英町を湖水と爲し、水面頗る快濶の光景に富み、花時園内の美花最も盛觀を爲す、ホーレンベツグ公園はポイルハイトにあり、二十六英町の地域を有し、翠柳枝を池塘に垂れ、長橋高く湖水に横はり、湖中に小嶼ありて青草之に繁茂し、水禽之に隱る、水深くして釣魚を爲すに適し、春光麗麗、堤上の美花、紅紫燦爛として眼之が爲めに眩せんとするの時、高橋の上、仰いて遙かにシーラマドルの連峯に對すれば、白雪の高山淡霞を隔て、雲際に聳ゆるを見る、エーコー公園は市の北西にありて、地域三十三英町、湖面十八英町を有し、池水廣くして風景頗る閑雅なり、エリシヤン公園は市の北隅、ローサンゼルス河の傍にある山地を包容して、車道を山上に迂迴せしめ、頂上より市の全景を展望し得べし、園地山ならざるなく、地域二百三十二英町、其風景奇趣に富み、規模頗る雄大なり、園内には、世界の花卉珍草を蒐め、其數三萬七千と稱す、今尚は開修中に屬し、完成の曉には、市内無比の大公園たるべし、其他中央公園、ブラザーパークの如きまた多くの來遊者を有し、其他シニートパーク、南公園の如き面積の大なるもの少からず。

工業地としての羅府

羅府の工業は、未だ東部諸州及び市俄古方面の工業と其生産額の拮抗すべきなしと雖も、發電力を起すべき水量の多きこと、安價なる燃料たる石腦油の潤澤なると、労働者の健康に適する最良の氣候を有するに依りて、其生産力、他に特絶し、殊に海運の便利あるが爲めに原料の運搬費を節し、製品輸出の運賃を減少する事を得るのみならず、東洋及南米貿易の今後有望なると共に此地は米國東部及び中部の工業地に比し、東洋及南米と近距離の間に位置するのみならず、ロッキーマン山脈以西、沿岸の各地に對しても、販路の有利なるを以て、今後此地に於ける工業の隆盛は殆んど疑を容れず、今千九百八年十一月羅府統計吏ライト氏の報告する所に依れば過去一年間、市の製造業の計數左の如きものあり。

鑄造及鐵工類	四、七四九、二三三	煉瓦	八二六、八六一
製粉並穀類	三、六九九、八一三	馬車及荷車	九六八、三〇〇
屠獸	四、七八一、〇一七	衣類	六四二、八〇〇
機械類	三、九九八、二三〇	香料	五四二、七二五
鐵管	一、〇四七、二八六	家具	六三〇、〇〇〇
糖菓類	一、〇五九、八一五	ラード	七二三、七五六

以上は其主要なるものにして、五十萬弗以下の製造品には製本、紙箱、木箱、ペン、烟草、クラ

ツカー、棉類、電氣用附屬品、寶玉、石鹼、舍利別、製革、製車器、モルト及び麥酒、革皮、橄欖油、製紙、漬物、橄欖酸漬、下水管、陶器、錫、鍍金等あり、此等諸種の製造業中、著大の發達を爲したるものは、建築材料の製造にして、煉瓦の如きは、目下其需用に逐はれ、殆んど蓄積するの迫あらずといふ、千九百五年の調査にては、南加州に於ける主なる製造品價額二千九百萬弗に過ぎざりしが、現時一年の製造品産額五千萬弗に上れり、斯の如く、羅府及び其附近に於ける製造業の發達は、此地の氣候が、特殊の天恵を有し、工場建築費を節減する事大なること、一には資本主に對する労働者組合の勢力尙は微々たるを以て、労働問題の煩累を蒙らざるが如きも、亦其原因たらざるべからず。

工業と最も關係ある電氣力使用の盛なる事、また驚くべきものあり、レドンドにある發電所は市俄古以西に於て、其電力の巨量なる事、之に優るものあらず、現時二萬五千馬力を供給し、またカトリーパー會社は、發電所を羅府より百二十哩の所に設け、其電力を羅府に送致する一萬一千馬力に上れり、またカーン河に添へるエヂソン會社は、現時一萬二千馬力の電力を供給すれども今後其規模を擴張して、四ヶ所に發電所を建設し、總計七萬馬力の電力を供給せんとす、其他に太平洋電燈及電力會社は、羅府市内に、二千二百個のアーケ燈を供給し、六千人の需用者に約一萬の電燈を供給し、附近の都市に約七千の電燈を供給す、市街に於ける電車の動力は、乃ち此會

社の供給するものにして、此會社は南加州の各地に八個の發電所を有せり、其外羅府瓦斯會社なるものあり、瓦斯及電力を供給し、市内に一萬六千の消費者を有す。

大都市計畫と三大事業

大都市建設の聲は、現下に於ける羅府市民の要求なり、而して此準備として市は三大事業を起して之が實行中にあり、三大事業とは乃ち新大都會の支關たるサンビードロ港灣の築港、人口の増加に對する、水の準備を充分ならしむべき、オーウエン河大疏水工事、附近を包轉して、其の交通の便利を完ふすべき道路の大改修是れなり、此三大事業は、市がサンビードロ及ウイルミントン、其他の地を其區域内に編入して大都會建設の地盤を作るに缺くべからざるものなり、現時合衆國政府はサンビードロ灣の内外に四百萬弗の費金を投じて其改築を爲しつゝあり、防波堤の費金は二百九十萬弗にして浚渫費は百六十一萬八千弗なり、此工事は一兩年の間に落成を告ぐべき豫定にして、完成の曉は防波堤は一萬千呎、水深二十五呎にして、外港は海面七哩の間、いかなる大艦巨舶をも碇泊せしめ得べく、内港は船渠を其内に含みて、東區を十一哩半、西區を五哩に限り、合計二十三哩半に達すべし、而して這是第一期計畫と稱するものにして、此二期の計畫を終りたる後は、更に第二期の計畫に着手すべき豫定にして、若し第三期計畫の實行せられたる際には、更に四十八哩の碇泊場を有するに至るべし、現時に於ける工事の擔任者は、合衆國技師ア

モス、エ、フリース氏にして、全部完成まで、防波堤築上に要する切石は三百萬噸にして、防波堤は水深五十呎の海底に達して、幅百七十九呎を有し、其頂上は二十呎の廣さを有すべし、石は外洋に面する方面に於て一個八噸のものを用的、港の内側は三噸を下らざるものとす、大なる石は一個二十五噸以上のものありて、平均一個十二噸なるべし、斯くして築かるべき港内の面積は、六百十五萬英町となるべし、内港の工事は合衆國技師ロバート、エ、クラフオールド氏の監督せる所にして、工事の設計は、千九百二年に發布せられたり、乃ち内港の入口より、ソートレーキ鐵道會社棧橋に至る間、四百呎の幅を有し、干潮時に於て二十哩を下らざる水道を築造するを以て、其主要なる工事を爲す、此工事の重なるものは、其所の泥土四百三十七萬六千立方ヤードを搬去する事にして、其費實に少からず、バルチモアの電氣機械會社は、九萬八千四百弗の浚渫器を使用し、大に其功を奏し居れり、更にオーウエン河疏水工事に付て記さんに、由來多くの點に於て天恵を有する加州が、其結果として降雨の最少きは争ふべからず、南加州を以て中部米國に比するに南加州の雨量は其三分一に過ぎず、故に農園及居住者の使用すべき水は之を地下より取らざるべからず、幸に此地の山脈地は花崗石の岩層を有し、平原地は砂礫土又は砂土なるを以て山脈地より流下する水は、平原地に浸潤して、多量の水を地下に有し、現に南加州至る所の地、地下より水を引きて、灌溉及飲料に使用する所少からず、現時に於けるローサンゼルス市の用

水は、市を去る八哩の所、ローサンゼルス河上流、パーバンク附近の河床より、地下水を引き、四千七百萬瓦の水を供給しつゝあり、市の西北高地、イバンホに在る貯水池は、面積九英町半にして、池上に巨大なる屋蓋を有し、米國中貯水池の屋蓋としては最も大なるものと稱せられ、二萬五千弗の費用を投じたるものなりといへり、然れども市の發達の熾盛なるや、斯る大貯水池も、今後増加する人口を養ふに足らず、是に於てか新に市の用水を得べき方策に付て種々の考案を費したるが、今後の水源を地下に求むる事は、結局附近農園の衰微を來し、市自身の不利益を來すを免れざるを以て、遂に南加州以外の地より之を求むるの方法を擇び、乃ちインヨー郡オーウエン河の流水を引用する事に決したるは、千九百五年七月、フレッド、イートンの市長たる時代に於て、當局者は遂に其計畫を市民に發表するに至れり、此設計に依れば工事の延長二百五十哩、其經費二千五百萬弗とす、是に於てか水源地の河水使用權、土地所有權を得るが爲めに、市會は千九百五年九月七日、市債一百五十萬弗を起す事に決し、乃ち千九百六年十一月、水力電氣の専門技師三人を聘して其技師長にはバナマ運河委員の一人たるフレデリック、ピ、スケールン氏を任命せり、同年十二月二十五日、委員長は、オーウエン河より得べき水量は二萬マイナーインチにしてサンフアナンド迄の工事及土地買入、用水權取得の總費用二千四百四十八萬五千六百弗にして、工事至難の場所を發見せずと報告したり、斯くて千九百七年六月二十二日、一部の妨

害ありたるに拘はらず、市民特別投票の結果、二千二百二十八票に對する、二萬千九百十八票の多數を得て、二千三百萬弗の市債を起すべき原案を可決したり、今此大工事設計の概要を記さんに、オーウエン河は、源を市の西北二百五十哩、シーラチバタの山中より發するものにして、此河流は山麓地に沿ふて流るゝ事百哩、市の北方二百哩の地點たる、海拔三千八百呎の所に達するや、二十三哩の間、運河及水管を設けて、種々の溪流を吸收し、斯くてオーウエン平原の、ハイウイ貯水池に達すべく、而して此貯水池は高さ七十五呎の堤防を有して、二百億瓦の水を貯へ得べく貯水池の潰裂を豫防する爲めには、二萬インチの排水を爲すべき設備を爲し、此貯水池の水は二十呎の直下を以て、ローズ平原に落し、以て強度の電力を起すに用ゐらる、其以南六十哩の間は、工事極めて平易にして、水は數個の隧道を通過す、パッドランドと稱する地點は、此工事中の難關にして、長さ十八哩の間、八哩の隧道と、一哩の鐵橋と、壓上管を設けざるべからず、水道は其れより、アンタロープ平原六十七哩を経て、フエアマウンツの貯水池に達し、五哩の隧道を潜行して、更に十六哩のサンフアナンドの貯水池に至り、爰にて市内給水の分配を爲す、フエアマウンツの貯水池より、十二三哩にして、水は一千五百呎の高さを落下し、此所にて九萬馬力の發電力を給する設計と爲す、此工事にして竣功せんか、市の供給水の外、附近農園の灌漑期に於て、優に十五萬インチの剩餘水を分配し得べく、此水道に依て、實に十萬英町の耕地を潤澤す

るに足る、其結果として、附近に於ける土地の價額を増し、引て市の繁榮を助くるはまた言を俟たず、而して若し、市内の人口二百萬に達して、尙ほ發達の必要を見んか、此農園に灌漑されるべき水は、以て増加せる人口の使用に轉換する事を得べし、何となれば、農園一英町に要する灌漑水の容積は、同一區域に住する人口の用水と、畧ぼ同一の水量なればなり、換言すれば、市發達の餘勢は農園を化して都市の居住地と爲し得べきなり、今此水道工事に關する目論見書なるものを掲ぐれば左の如し。

- 一九〇六年市の人口 二三五、〇〇〇人
- 五年間に於ける平均一年の人口増加數 二二、〇〇〇人
- 年一人の用水 一四四瓦
- 一九〇六年の用水量 二、六一一マイナー、インチ
- 一マイナーインチの給水人口數 九〇
- 毎年増加すべき需要水量 二五五マイナー、インチ
- 一九一二年用水量 四、一四一マイナー、インチ
- 給水より得たる一九〇六年度の純收入 八〇四、〇二〇弗
- 毎年の収入増加 七八、六六〇弗

- 一九一二年年度の純收入 一、二七五、九八〇弗
- 一九一二年度市内十萬インチの給水純收入 三、〇七八、〇〇〇弗
- 同電力の純收入 一、四〇六、〇〇〇弗
- 同灌漑用水の純收入 八〇〇、〇〇〇弗
- 一九一二年總純收入の總計 六、五五九、九八〇弗

而して工事は、工事の繼續期間必要に應じて、市債を發行し得るの方法を探り、其償却法は十年間据置として、而して其後償却するを以て、市民は六ヶ年間、市債の利子を償却すれば可なり、而かも人口及課税財産の年々増加するを以て、其賦課額は、課税財産價額百弗に付き、二十仙に過ぎずといふ、乃ち居住民は此大事業に對して、別段の負擔をなさずして、其便利を享くるのみならず、財産所有者は、此事業の爲めに地價の騰貴するを以て、巨額の利益を得るは疑を要せざる所にして、現時二千弗を償すべき財産は、工事繼續中に於て、僅かに六弗の課税を支拂ふのみにして、工事完成の曉には、其地を二千五百弗に賣却し、其差四百九十四弗の利益を得るは容易なりといふ、此疏水工事は目下工事中にして、已に困難なる場所の大畧を終りたるを以て、今後二年間に於て之が落成を見るは殆んど疑を容れず、更らに三大事業中、第三の事業たる道路開修の事業は、千九百八年七月十一日、ローサンゼルス郡、道路協議會を開きて、

一サンゼルス市を中心とせる、經費三百五十萬弗を支出し、郡内三百〇七哩の道路開修の決議を爲し、其經費は三十年償還の市債を起して之に當て、此間市民は現在の課税標準價額千弗に對して、四十仙を負擔するに過ぎず、以上を大府建設に關係を有する三大事業の概略と爲す。

第三節 羅府の日本人社會

日本人發達の歴史

ローサンゼルス日本人社會發達の濫觴を尋ねるに、同胞の中、何人が果して最初足を此南加州に投じたかは微茫として之を知る事能はざれども、桑港方面に於ける日本人の發達すると共に是等の勞働者は、漸次四方に蔓延して或はサクラメント河域に沿ふてサクラメント市、バカビル、スースン、チーコリの方面に至り、或はサンノゼ方面よりサリナス、ワツソンビル、モントレイ、キングシチーに達し、或は布市荷荷園の勞働者の漸次に其地を中心としてフアーラー、セルマより、バイセリヤ、ハンホード、ソラレに發展し、其遠く南に進みたるものはベカスヒルドに足場を留め、遂にテハチへの山脈を南に越へて、ローサンゼルスに來りたるものなるべし、固より最初の日本人が布市方面の高原地より南下したるものか、或はキングシチー、サンタマリヤよりサンタバーバラを経て沿海線路より東上し來りたるものなるかを知らず然れども此地が未だ日本人勞働者の來集地たらざる前、一二の日本人女郎屋なるもの、已に白人の間に巢窟を構へて、密

かに支那人、白人の客に接し居たるは事實として認むべきものなり、明治二十六年羅府在留の日本人サンバナデノ、リバサイド等に散在する日本人に通牒して、十一月三日、始めて天長節の祝賀會を開きたる事あり、是れ南加州同胞社會發展の紀元を劃するものにして、當時附近の日本人皆來りて茲に集まるもの四十一名なりしといふ、祝賀會の場所はスプリング街、國丸洋食店の中を借りて、式場及び宴會場に宛つ、而して此國丸洋食店なるものは、當時の女郎屋、關谷某の經營せる洋食店にして、同胞社會多人數を集め得べき場所としては、只だ此家屋ありたるのみといへり、而して未だ御眞影のあらざるを以て、發起人は或白人の畫家に依頼し、鉛筆畫にて、畏き御眞影を描き奉らしめたりと稱す、當時の發起人は和歌山縣人宮本清助、小畑甚之助其他在市の日本人營業者にして、其頃市内に於ける營業者は、森洋食店、秋田竹細工店、宮本竹細工店、奥平洋食店、遠藤洋食店、山勘竹細工店、鈴木竹細工店等其主たるものにして、其外には横山某の小洋食店、島田某のニューヨーク雜貨店あり、乃ち日本人の營業は四軒の洋食店と、四軒の竹細工店と二軒の雜貨店とありしのみ、又別に市街を離れて、遠藤某の植木屋二軒あり、其翌年二十七年の天長節は、山東紀一、碓滿次郎、別府鬼一、島田九一郎等發起となりて其祝賀會を擧ぐ、是等の輩は皆當時の學生にして、山東は大坂瓦斯會社の重役となり、碓は日露戰役に通譯官となり、別府は滿洲に死し、島田は佛蘭西に至りたるものなり、斯くて明治二十八年日清戰役

の配なるや、南加在留の日本人の集會を開き、八百餘弗の軍資金を獻納したる事あり、此時の記名百六十一名にして、殆んど其義舉に洩れたるものならずといふ、此年ブラザーパークの附近に木村某なるもの、始めて日本飯屋を開業し、風呂屋を始めたりといふ、明治三十年に至りては、同胞の來り住するもの大に増加し、漸く繁榮の狀態を現出するに至り、石阪陸奥有修俱樂部を組織し、小林忍日本人會を率ひ、吉田森三美以教會に牧師たりし事あり、美以教會の一派、別に日本人青年會といへるを組織し、美以教會の廢る、や、一時他の三團體は日本人社會の中樞機關となりて、此小社會に三派の分立を見るに至れり、抑も日本人來住者の速かに増加を來したるは、當時倉永、西村、脇本の輩サンタフィー鐵道線路に人夫を供給するが爲めに、種々の勧誘手段を以て、北加州の日本人を此地に送りたるもの、最も興て力ありたるが如し、當時北加州に於ける日本人の如きは未だ南加州の氣候を疑ふもの多く、北加州よりも暑氣の甚しきものと想像したるは免れざる事にして、彼等は勞働者を勧誘するにローサンゼルス地名を云はずして、假りに他の地名を以てしたりといふ、當時同胞の智識尙は幼稚なりしを察すべきなり、已にして明治三十三年の頃には、羅府在住の日本人のみにて、已に二千に達し、砂市桑港に上陸せるものにして、直ちにローサンゼルスに來れるもの少からず、此年五月桑港の日本人會は南加州聯絡の必要を感じ、清瀬龜吉、湯川貫一を派して聯合團體加入の必要を説かしむ、乃ち六月二十六日ター

ナーホールに於て七十餘名の集會を開き、日本人協議會を組織し、湯淺銀之助を理事に、澁谷清次郎を副理事に、竹川峰太郎、森文五郎を會計に、池内清光、泉田準城、伊藤竹次郎、田中重平、生田光次、駒井豐策、松井里治、飯島敬次、小野純夫、大山鐵之助、古屋孫次郎、谷文五郎を常議員に推舉す、此團體は浮浪漢の取締、風俗矯正の事に盡力し、三十八年十月二十一日加州州廳の社團法人と認定され、三十九年一月十九日役員を改選し、明治四十年一月十四日、第二回の役員選舉を爲し、澁谷清次郎を理事に、湯淺銀之助を副理事に、鈴木安次郎、竹川峰太郎を會計に、小室篤次、泉田準城、駒井豐策、伊藤竹次郎、宮村猪平、森文五郎、稻澤謙一、井上昌、谷文五郎、山本晋太郎、池内清光、鈴木啓次郎、柏村一介、大橋康之甫、飯野甚内を常議員に選舉し、此年加州聯合日本人會代議員會を此地に開設するあり、斯の如くにして、社會的機關の漸く整頓すると共に、農園及び市街の營業の發達また大に見るべきものあり、加之、此年桑港の震災ありたるが爲めに、該地を去りて此地に來住するもの頗る多く、同年八月現在の日本人營業數及び團體等左の如きを見る。

- 銀行支店三、會社四、新聞社及支社五、雜誌社五、教會七、縣人會一〇、雜團體九、學校六、
- 旅館六四、下宿屋三二、靴工一三、大工及ペンキ塗師八、寫真師及畫工七、桂庵菜二三、運送
- 業九、病院及醫師七、產婆三、印刷所四、美術雜貨店四、竹細工店四、食料及び雜貨店二一、

酒卸賣三、洋食店三一、喫茶店二、日本料理店六二、豆腐屋二、射的場一、玉場三一、湯屋四
 五、小間物店七、植木屋一九、洗濯業七、書籍店五、時計店六、通辨及周旋業七、人夫請負業
 八、果物野菜店三七、菓子屋七、魚屋四、製麵業二、洋服裁縫店一〇、掃除屋一〇、シガース
 タンド七、自轉車店一、散髪店一〇、賣藥店二。

而して日本人營業者借家料の總額一ヶ月四萬二千五百九十弗と稱し、市内日本人の人口は、男五
 千三百八十二人、女九百十人、市附近に於ける人口は、男三千八百八十六人、女百九十六人に上り、
 其勢の昌なる事、眞に人をして驚駭に堪えざらしめたるが、明治四十年來、米國經濟界の不況
 と、日本人勞働者の布哇轉航の禁止、及び勞働者渡米の嚴禁せられてより、此勢頓に挫折し、
 明治四十一年の春より、四十二年の春に至る間、一般の日本人社會は大恐慌を來し。倒産、破
 産頻々として起り、一部の徒は四散八落して行く所を知らざるもの多し、斯くして明治四十二年
 三月二十九日、桑港金門銀行の不始末ありて、同胞預金者の取付け急激なりしが爲めに、銀行は
 遂に破産するに至り、此年十月十八日、日米銀行、また其影響を受けて破産を爲すに至り、同胞
 社會の其影響を蒙る事實に甚しく、市内營業者の過半は、殆んど其打撃を蒙らざるなく、其慘狀
 聞くに忍びざるものあり、然れども已に地盤の半ばを造りたる日本人社會は、此大海汰に依りて
 今後其根底を深ふするものなきにあらざるべく、一時多くの廢業者を見るに至りたる後、更らに

徐々として其根底を扶殖するに至らむ、然れども要するに、日米間外交問題の解決如何に依て、
 其盛衰を見るは數の免れざる所なり。

明治四十一年八月の現在調査に依れる、ローサンゼルス市及び郡内の日本人在住者は、五千二百
 五十四人にして内男四千〇八十五人、女四百八十三人なりとす、此中職業を類別すれば左の如し

教役員(牧師及僧侶)	五人	果物蔬菜業者	一〇人
其妻	四人	其妻	七人
教 師	三人	花 園 業 者	四六人
學 生	一二〇人	其 妻	二〇人
商 店 員	五四人	職 工	五人
料 理 人	五五人	白人家庭内勞働者	八二〇人
其 妻	一五人	其 妻	九五人
農 業 者	一七〇人	白人の家屋の掃除業者	六五人
其 妻	一二〇人	雜 業 者	七三人
鐵 道 人 夫	一三七人	計	一、八九七人
藝妓及酌婦	七三人		

公共機關

社會的公共の事業は頗る單純にして、在留の同胞社會は、米國法律の制裁を受くるの外、政治上に於て、何等の權利をも有せず、また行政上に於て自治の權能を有するものにもあらざるを以て、一般に通ずる利害問題としては、只だ日本人排斥問題の起る毎に、其防禦的運動を爲し、其他には國民的交際の注意を興へ、道德の制裁を實行するに過ぎず、然れども凡俗人情の同じからず、言語文字の異なる間に立てるが爲めに、英語教授を爲す諸教會の事業は、早くより發達して、其數もまた少からず、而して是等の公共機關と相并んで、内外の事情を紹介し、社會に感化を興ふべき言論機關は、其發達殊に著しく、現時同胞社會唯一の制裁力たり、亦縣人會、同郷人會の如きは、一局部に於ける少數の同志が、其恩籍を興え、緩急相拯ふの便利を得んが爲めに組織せるものにして、其活動の見るべきものなしと雖ども、彼等團體の共同貯蓄増加すると共に、公共機關の不備を補ひ、漸次に同胞社會に於ける起業の後援たるに至らんとするの傾向あり。

△羅府日本人會 羅府日本人會の目的は、在留日本人の權利を伸張し、福利を増進し、體面を維持するを以て主なるものとす、組織は在米日本人會及南加八郡に於ける各日本人會と聯絡して、同胞に對する大問題に就ては、常に同一の歩調を取り、會員は毎月五拾仙の會費を納め、役員任期を一ヶ年とし、毎年在米日本人會年會への代議員を出席せしめ、領事館は在米者の出願

に對して此團體の保證を必要とするに至り、會の基礎大に其鞏固を加ふるに至れり、今明治四十一年中に於て、此團體の取扱ひたる事件の一覽表を掲ぐれば左の如し。

明治四十一年度

羅府日本人會庶務一覽表

居住證明	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
營業證明	九	七	三	二	三	五	五	三	三	七	三	七	四六
農業證明	一六	五	九	一〇	一五	二	六	五	三	四	九	九	一三
身分證明	四	三	五	三	七	二	七	一	四	八	六	一〇	四
迎妻證明	一	一	二	一〇	九	六	三	二	一	三	三	三	四二
英文證明	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	二	一	五
雜證明	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
出生屆	一	一	一	一	一	二	一	一	六	五	七	四	二九
死亡屆	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六
役員會	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
													四

て、夙に蠶雪の苦學を積み、基督教の蘊奥に達し、英語を操つる事流暢にして、在米の教役者中最も重きを措かるゝものなり、此教會の會員は、男百三人、女十人にして、ウインタースパーグに附屬傳道館あり、また英語夜學校を置く、ベツレヘン教會は、明治三十五年ミセスハリソン之を創め、其翌年之を教會組織と爲し、馬場勝次郎入て其教授を助く、明治三十九年附屬小學校を設け、山本しか女其主任となり、明治四十一年婦人ホームを設け、山本壽夫妻之が監督たり、同年九月白人のベツレヘン教會と從屬の關係を絶ちて、獨立の教會となり、目下三十名の會員を有す、組合教會は明治三十七年ミセスハーウードの創立せるものにして、南オリブ街にあり、信者三十四名を有す、現時白人の組合教會より獨立して、日本人の教會たるに至る、聖公會は、明治三十九年四月ミセスバタソン之を創め、會員男三十名、女六名を有し、附屬の英語學校を有す、基督教會は、明治四十一年ガイ神學博士の創立せるものにして、専ら日本人の布教に努む、博士はよく日本語に通ずるもの、常に多くの聽講者を引けり、是等の諸教會は時に聯合の祈禱會及び協議の集會を開きて、宗教的感化に勤め、また堀見小笑子を會長とし、白人の婦人矯風會と氣脈を通じて、日本婦女の矯風に盡力せる、羅府婦人矯風會なるものあり、基督教徒の活動斯の如き間に立ちて、また羅府佛教會なるものあり、明治三十七年八月本願寺派の教師、泉田準城に依て組織せらる、會員六百三十名を有し、英語夜學校を開き其附屬たる佛教婦人會は、六十三

名の會員を有す、此婦人の團體は、其事業として小兒保育所及小學校を経営す。

△同郷人團體 日本人社會の發達今日の如くあらざりし時に於て、同郷の出身者相寄りて、相互の慰藉を求め、吉凶相問ふの情誼的團體を生ず、多くは其名を縣人會と稱し、他に種々の名稱を付す、鳥取縣人會、鹿兒島縣人會、豊前縣人會、福岡縣人會、福島縣人會、岡山縣人會、長野縣人會、京都縣人會、和歌山縣人會、滋賀縣人會、熊本縣人會等あり、此外に防長興産社あり、此社は防長人士間に、勤儉貯蓄の美風を奨励し、餘裕を貯蓄して、有益なる事業の基礎を造るを以て主たる目的とし、之を實行するが爲めに防長二國の出身者を糾合せんとするものなり、明治四十一年一月一日の創立にして一株十弗の額面とし毎月二弗五十仙の拂込を爲さしめ、十弗に滿つる毎に一枚の株券を付與す、而して此株券は或條件の下に同縣人内にて賣買讓與する事を得、評議員十二名を定め、現時積立金已に千弗以上に達す。

△青物市場と日本人野菜業者 排日問題の聲を聞くものは、黃白人種の遂に融合すべからざるを速断するものなきにあらざれども、南加州に於ける日白兩人種の實際の圓滿にして、何等の障害を見ざるは頗ぶる吾人の意を強ふせしむるものなきに非ず、而してローサンゼルス市に於ける新青物市場の組織は、此人種的偏見を去りたる最も希望ある現象の一とせざるべからず、初め羅府の野菜市場は、エスビー停車場に近きセントラル街にありたるが、白人及び伊太利人の如きは、

常に日本人に對して親切なる取扱を爲さず、同胞の之が爲めに不便不利を見る事一日に非ず、南加州に於ける日本人野菜耕作者は、之を憤慨して期の到るを待ち居たるが、遂に野菜組合員の主たるもの驟起して、新市場設立の運動を爲さんとするに至り、久保常三、阿部録郎、泉常吉、久保吾市、中川福太郎及び南加農業組合の顧問たりし法學士澁谷清次郎等、相諮りて日夜の運動を爲し、遂に米人間に勢力あるフランクシンブソンと連絡を通じ、更らに支那人、伊太利人、露西亞人、等の野菜業に關係ある、五人種合同の一人新市場を設置する事に決し、明治四十一年の秋末より、西第九街とサンビードル街の角に、五英町の敷地を求め、シチーマーケット、オブ、ローサンゼルスと稱する市場を開始するの計畫を建て、資本總額を三十萬弗とし、此内十萬弗を白人より、五萬弗を日本人より、五萬弗を支那人より支出し、其組織は一株一弗の株式と爲し、社長にシンブソンを推し、清人何利を第一副社長に、伊太利人クウンヤを第二副社長に、日本人澁谷清次郎を秘書役に、露國人ルイヒルコビツクを會計に選定して、明治四十二年の六月二十一日市場の建築を起し、今や畧ぼ建築物の落成を見るに至りたり、是れ未だ加州日本人社會に於て曾て見ざる、一個有望なる現象と云はざるべからず、現時此新市場に關係を有する各國の人種には、伊太利人、希臘人、アルメニヤ人、佛蘭西人、露西亞人、支那人、等ありて、之に米人と日本人を加ふれば、殆んど世界各種の民族を網羅せるものにして、是れ黃人排斥熱の盛なるカリホ

ルニヤの地に於て、注意すべき一個の奇現象なりといふべし、此中にて米人は多く市場の取引に關係し、歐洲人殊に伊太利人、希臘人は果物の生産者として立ち、日本人及支那人は蔬菜、蕪、馬鈴薯、セロリ、トマト、等の耕作者たる位置に立てるもの、如し、實際の取引は明治四十二年六月二十一日より開始し、市場は毎朝二時より四時の間最も繁劇を極め、荷車の輻輳するもの四百餘臺、支那人の市内に行商するもの三百餘名、仲買店の數二百軒、地方農園よりの出荷者凡そ百五十餘名、日本人の仲買業者二十二軒を有す、此市場一日の賣上高は七萬五千弗以上、十萬弗以下にして、附近野菜耕作區域二千英町、其生産高七十萬弗乃至百萬弗、彼等の所有財産二十二萬五千弗以上に達すと云ふ、而して新建築物は三棟となり、周圍はセメントの構造にして、大なる分は間口百尺、奥行二百八十二尺、其他は間口四十尺、奥行四百十六尺と、間口四十尺に、奥行七百三十四尺の建物二棟あり、野菜市場として其構造の壯大なる、市俄古以西、斯の如きものあらずといふ。

市内營業及職業の狀態

メイン街以東、ローサンゼルス河に至る間の、東第一街を中心として、南北サンビードル街、北アラメダ街、及び其附近の街區に散在するもの、之を總稱して下町と名く、東第一街のみにて、日本人の營業者百以上に達し、日用雜貨、食料品販賣店を始め、旅館あり、新聞社あり、活動寫

眞あり、魚市場あり、書林、藥舖、時計店、洋服店の如き、軒を并べて殆んど日本人の營業者ならざるはなく、始め北アラメダ街は、日本人發展の中心たるの觀ありしも、二三年前より、其位置資格の優れたる、東第一街に移轉するもの多く、今や此街區は日本人社會に於ける重要な事務を營み、其勢力の大部分を集中するに至りたり、東第一街の膨脹すると共に、ヒル街以西、中央公園の附近より、西第六街を通して、南フラソ一街に至る間、また日本人營業者の點々として出現するものありしが、此邊を中心とし、第七街、第八街、第九街の一部、また日本人の旅館、玉場、桂庵等を開業するものあり、此方面を上町と稱す、明治四十二年、野榮新市場の西第九街に建設せらるゝや、青物問屋、飯屋、雜貨店また此附近に開業せられし此附近日本人の一街區を形づくらむとするが如し、彼等は主として日本人相手の營業を爲すものにして、此外白人相手の洋食店、西洋湯屋、美術販賣店の如きは、日本人街を離れて、白人街の間に營業を開始し、美術店の大なるものは、其店頭の美、白人の店舗に譲らざるものあり。

△食料店及雜貨店 米、薄油、味噌、罐詰類、干物類、其他日本人向きの食料品一切、炊事道具、食器、等の販賣を爲すものにして、其數凡そ二十二軒あり、就中亞細亞商會は、其創業久しくして、資本金七萬弗を有する株式會社なり、是等商店の顧客は、地方農園の勞働者なるを以て、近年渡米者の減少と共に、一時其不利益を蒙らざるを得ず、其重なるものを擧ぐれば左の如し。

- | | | | | |
|-------|------|------|------|--------|
| 亞細亞商會 | 石光商店 | 中野商店 | 松尾商會 | 堀兄弟商會 |
| 小島商店 | 三村商店 | 紀伊商會 | 日本商會 | 羅府日米物産 |
| 尾崎商店 | 吉備商會 | 竹本商店 | 伊藤商店 | 金井商店 |

△旅館 旅館營業の種類に二種あり、ボーデングは食事を供し、寢臺を貸し、普通二人寢臺十五仙、賄料一食拾仙、ラーデングは食事なくして一室を貸付し、一泊五十仙乃至二十五仙とす、主として白人を宿泊せしむるものあり、多くは日本人相手の營業なり、此營業は比較的着實なる事業なるを以て、他に比して信用ある事業なりとす、借家料は一ヶ月五十弗乃至百弗にして、二十乃至七八十までの室を有す、營業者の數は凡そ九十五軒あり、其重なるもの左の如し。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------|
| 東洋ホテル | 旭屋旅館 | 南海屋 | 廣嶋屋 | 東郷旅館 |
| 山口屋 | 田村旅館 | ホテル大和 | 帝國ホテル | 駒井旅館 |
| 高田旅館 | 糸嶋 | 天滿屋 | 中國屋 | 大濱旅館 |
| 山下旅館 | 千廣旅館 | 羅府旅館 | 發備旅館 | 安原旅館 |
| 東旅館 | 立野旅館 | 吉備旅館 | 活水館 | 千歳 |
| 筑紫館 | 中野旅館 | 薩州 | 福岡屋 | 岡山旅館 |
| 明治館 | 山陽館 | 佐々木旅館 | 富山旅館 | 富士山館 |
| 浜華ホテル | 南加ホテル | 日本旅館 | 豐州館 | 小羊館 |
| 比富美旅館 | 紅葉館 | 八獄館 | 成功館 | 穗崎旅館 |
| 股陽館 | 備中旅館 | 熊野旅館 | | |

△洋食店 對白人の營業にして、日本人の顧客は十分の二に過ぎざるべし、營業所の位置に應

じて、其客筋を異にす、日本人の此營業を爲すや、其量を多くし、其價を廉にし、勞力を惜まずして白人の同業者と競争するが故に、一般労働者を始め、來り食するもの多く、一食十五仙及び十仙の別あり、營業者の數二十五軒にして、重なるものは左の如し。

- リーモンド洋食店 ブラウンストン洋食店 ニューイーグル洋食店 オハイオカフヒー
- アスター洋食店 ニュー横濱洋食店 メーリン洋食店 パシフィック洋食店
- サンライズ洋食店 ブラザー洋食店

△湯屋 始めは西洋風呂のみなりしが、近時日本風呂を營業とするものあり、西洋風呂は一度の入浴料十五仙、日本風呂は、五仙及び十仙の二種あり、此市の日本風呂は、北加州のものど趣を異にし、大抵一人入の湯槽を設けて、其混浴の弊を避けたるが如し、營業者の數は凡そ二十六軒にして、其重なるものは左の如し。

- 仁の川湯 きよ湯 ホネツト湯 錦湯 東洋湯
- 富士湯 セントラル湯

△玉突場 大なるものは、九臺十臺の玉臺を据へ、小なるものは、商店及び旅館の傍らに、二三臺の玉臺を置きて他の兼業とするものあり、白人、メキシコ人、日本人等、場所にて其遊客を異にす、營業者の數三十五軒ありて、其重なるものは左の如し。

- 中田玉場 日米玉場 金門玉場 羅府玉場 楠木玉場

中川玉場 秋田玉場

△桂庵業 市内日本人の勞働を要するもの多く、桂庵事業從て盛なり、設備の簡單なるを以て、開業に容易なれども、白人及び日本人勞働者の間に、充分の信用を得るに非ざれば、終始の利益を見る事能はず、其數十六あり、重なるものは左の如し。

- 森山桂庵 指宿桂庵 マークス桂庵 小羊桂庵 エービーシー桂庵

△洗濯業 多く白人の需要に應ずるの營業にして、其數十二軒あり、電氣及び蒸氣機械を使用し、五六人乃至十四五人の傭人を要す、注文取り、配達は箱馬車にて之を爲す、日本人の此事業にて成功せるもの少からず、歐米人は夜具衣服の清潔に重きを置くを以て、洗濯もの、注文は頗る多く、殆んど日本内地の想像に及ばざる所なり、加州各地に於て白人同業者が、日本人排斥の下に、日本人洗濯業者の妨害を爲すは珍らしからざるも、此地は人種的の感情圓滑なるを以て、未だ斯の如き妨害を蒙りたる事ならず、現時十二ヶ所の洗濯所あり、其重なるものは左の如し。

- ホーム洗濯所 サウス洗濯所 パシフィック洗濯所 テンプル洗濯所
- サンライズ洗濯所 セントラル洗濯所 横濱洗濯所

△洋服裁縫業 主として日本人の需用に應ずるものにして、日本人營業中才か利益ある事業なり其數十二にして其中の重なるものは左の如し。

△美術店 純然たる對白人の營業にして、日本人街に商店を有せず、深く白人の間に入りて、營業し、店頭之美なる事他に比類を見ず、一時意外の利益を得たる時代ありしも、千九百七年頃より、米國經濟界の變調を來たしたると、日本人排斥熱の餘波に依て、甚しき影響を蒙り、千九百八年及び千九百九年に亘りては、破産または閉店を爲すもの多く、現時は僅かに其餘息を保つもの、如し、然れども此地は東部米人の來る事多きを以て、暫く現時の難關を經過せば、漸次に其景氣を回復するに至らむ、目下十二軒の商店あり、其重なるもの左の如し。

ワイエム商會 大和商會 日 光 佐藤商店 東洋商行

△竹細工店 美術店と殆んど其運命を同ふせり、一時流行の時代ありしも、現時殆んど微々として振はず、獨立の竹細工業者は只だ一軒にして、他は殆んど美術店に合併せられたるが如し。
△花屋及植木屋 市街附近に花園を有し、毎日之を切出して、花屋に卸すものを切花屋と稱し、種々の植木、鉢植等を培養して、庭木の注文に應じ、または顧客の來り買ふを待ちて販賣するもの、之を植木屋といふ、此事業は相當の資本と、長時間の經營を要するを以て、大抵五六年を経て利益を得るに至る、其基礎一たび定まれば、利益を得る事少々に非ず、是れまた同胞の營業中健全なる事業の一なりとす、殊に此地は霜害少く、冬期花卉の供給を爲し得るを以て、他に比し

て便利と利益とを享くる事少からず、現時是等の營業者二十三名にして、其内二名は切花屋、二十一名は植木屋なり、其重なるものは左の如し。

鎌田芳太郎 市野忠平 小橋甚之助 貴志捨藏 東京植木屋
平原小三郎 財滿植松 貴志七郎

△野菜仲買者 野菜市場の構内または、其附近に店を有し、野菜の賣買に従事す、現時六軒の營業者あり、其重なるもの左の如し。

森北商會 泉市川商會 ラゲナ農産商會 ニエーマーク農産商會 金松農産商會
サウスウエスト農産商會

△書籍店 日本人に對する營業にして、書籍の販賣は、日本に於ける定價のまゝを以てするが故に、關稅及び運送費を要するも、實際の賣價は日本金の二倍に相當し、營業者の得る利益少からず、只だ其仕入品に對し、信用上の取引を爲すに不便なるを以て、開業日淺きものは資本の運轉に困難する事あり、専門の書林としては文林堂、佐藤書店、錦江堂あり、他は兼業者に過ぎず。
△靴修繕業 他よりも多額の賃金を得るものは此の營業にして、日本にて靴修繕に經驗なきものも、一年以上靴工の徒弟となり、之れに従事するもの少からず、中には學生の學資を得んが爲めに、一時之に従事するものあり、加州の同業者は同盟會を組織し、此地に其支部あり、同會は滿一ヶ年の修業せる徒弟に對して、規定の試験を爲して其開業を許し、二年以上のものは無試験に

て獨立開業を承認す、現時市内に十七名の靴工あり。

△大工 一日八時間にして日給三弗なり、同業者は一の組合を設け、其歩調を一にせり、現在の組合十一名なり。

△菓子屋 日本人菓子屋にはまだ營業者の大なるものあらず、凡て日本菓子の如きは、之を日本内地に比すれば賣れ行き乏しく、是れ小兒婦女の少きと一般に、生活程度高きが爲め、自然此種の需用少きにも因るべし、煎餅は白人の需用ありて相當の利益あり。

△通辯業 英語に通せざるもの、日白兩人種の間立ちて個人的交渉に當り、または民刑事の事件に對して其手續を爲し、其辯護の勞を取るものとす、彼等は大抵白人辯護士を背後に有し、事件に對して報酬を求むる事日本に於ける代言事務と同じ、中には不良の徒其間に妄利を馳する事なきにあらざれども、學生の餘暇を以て之に従事するものあり、日本人社會の秩序整頓するに此等の事業も漸次に眞面目を現はし、大に往時の如き惡弊を減ずるに至れり。

△運送業 馬車にて、旅客または労働者の出入に付て、荷物運搬の業務を爲すものにして、日本人は其言語の異なるを以て之を白人の運搬業者に依頼するよりも、大抵日本人の運搬業者に依頼するを以て、また相當の利益あり、小資本を以て其業を始め得るが故に、勤勉なる營業者之に依て資産を作りたる例少からず。

△日本料理店及飲食店

全然日本人社會の營業にして、白人方面より見れば寧ろ奇異の感を得ずものあり、此社會は日本人社會の幼稚時代にありては、種々の弊害を生じ、無頼の徒は此所を巢窟と爲し、時に幾多の罪惡を生じたるも、近時大に改良せられ、其秩序の整頓すると共に、眞面目なる營業者を生ずるに至り、客室の裝飾、料理の仕出し等も、今や殆んど日本内地に譲らず、現時料理店として、酒類販賣の鑑札を下附せられたるもの二十二軒にして、其他のうどん蕎麥屋、飯屋等を合すれば、殆んど五十軒以上になるべし、此營業は、所謂水商賣なるを以て、其開廢頻々として朝夕を測らざる状態なり、只だ其營業久しく、名代の料理店となれるものは、其基礎容易に動かす、永く其株を襲ひて、營業主の交代する事あるのみ、是等の料理店は、大抵一軒二三名より七八名の酌婦を備ひ、是等の酌婦は藝妓と同じく客に侍して三弦を操り、よく酒客をして錢囊を倒せにせしむ、而かも十中の八九みな有夫の婦なるを以て、日本内地に於ける藝妓の如く、公然の秘密として酒客の枕邊を拂ふが如き事なく、却て淫猥の風習を有せず、人氣の盛なる料理店は一夜にして百弗の上り高を得る事珍らしからず、松亭または梅花の如きは現時最も人氣ある料理店にして、萬歳亭、八重園、一樂、新富、若福等また客足の繁きを見る、壽し屋としては大和すし、港すし等あり、飯屋には福富、明光、日吉、梅月等其内の人氣あるものなり。

羅府市内日本人成業者列傳

△中野喜代太郎 羅府市内の商業家中、先づ指を屈すべきものを中野喜代太郎と爲す、廣島縣山縣郡川迫村字川戸の産にして、明治十年四月生る、家元と富裕なりしも、十歳にして父母を喪ひ十三歳にして商家の見習ひとなり、具さに辛酸を嘗む、已にして丁年に達するや、陸軍歩兵第十一聯隊第一補充兵に編入せらる、已にして明治三十三年一月、渡米の志を起してタコマに上陸し、砂市を経て桑港に來り、鐵道工夫の募集に應じて、ニューベル地方に勞働し、間もなくアリゾナ州セルグマンの方面に入りしが、更らに中央加洲アモナに至りて果樹園に勞働し、また布市に至りて支那人の農園に働きたるが、熱病に冒されて療養する事二ヶ月、去てまた鐵道及び大根園に勞働したるが、キャンプトンの地にて再び病に罹り、南加大學醫科の施療所に入りて療養する事一ヶ月、其れよりスメルズに至りてセロリ耕作地に働きたる、暫くにしてサンタモニカ足立某の花園に勞働し、再び布市に至りて家内勞働の傍ら英語を學びたりしが、偶々悪友に誘はれて支那人の賭場に遊び、一夜にして四百弗を失ひ、窮乏落魄の餘、徒歩してリバサイドに達し、奮然勞働に従事する事五十日、遂に四五十弗の貯蓄を得て羅府に出で、滞在中始めて商業に従事せんとするの志あり、乃ちソルトンの鹽田、及びサンタモニカの花園に働く事前後四ヶ月、多少の貯蓄を得て羅府に來り、明治三十五年、藤井吾一、岡本初太郎と共に支那人街の附近に小さな餠頭屋を始め、然れども、藤井岡本は、其年十二月に至りて其共同を辭し、中野は爾後獨力を以て此營業

を維持し、餠頭の外、煎餅を焼きて營業意外に繁榮し、忽ち巨額の資産を作り、明治三十六年九月、東第一街に五千弗にて土地及び家屋を買ひ、其二十四日、旅館及び商店を開業し、家業更らに繁昌して、現時の基礎を作るに至れり、彼れ當時の事を語りて曰く、余一日煎餅の鑪を眺めんとしたるに、第七街の鑪製造所に至り、遙かに山脈の市街を隔て、相連るを見、獨り肯づいて曰く、彼の山脈陽地を受けて一大平野に對す、是れ將來發達の氣運を有するの地にあらすやと、余の此地に永住の決心を爲したる實に此日にありと、已にして明治三十八年ロンドンに一英町百五十拾弗の地拾五英町を求め、またロングビーチに森岡榮吉と共に、千六百五十拾弗一ロットを求め、此等の土地、現時何れも地價の騰貴したるを以て二倍以上の價を有す、近年米國經濟界の恐慌を生ずるや、此地日本人の商況また不振の状態を呈したるが上に、明治四十年十月七日、火災のために一萬弗の損害を受く、而かも彼れ平然として動かす、白人の建築技師に命じて家屋の新築を請負はしめ、八千九百弗の入札にて四階の大建築を爲し、諸般の經費を合算して一萬三千餘弗を投じたりといふ、而かも白人の建築請負者は、此工事に於て千四百弗の損失を爲したりといへば、實際の價格は一萬四千弗を値すと云ふべし、彼れ性義氣に富み、不幸の徒を憐みて陰徳を施す事少からず、明治四十年、妻かつ子を迎へ共に家業に努む、かつ子は、故國に於て大學藥劑科を卒業せるもの、貞淑にしてまた令聞あり。

△西村幸太郎 羅府の日本人社會に於て、温乎玉の如き人物あり、之を西村幸太郎と爲す、其容貌圓滿の諸相に富み、其風采紳士の態度を備へ、其心事の潔白にして、能く人に對するの同情を有し、其舉措の沈着にして、周圍をして敬意を起さしむるもの、在米同胞中、彼の如きは稀なり、彼は山口縣玖珂郡新庄村の産にして、明治二十六年渡米し、桑港に於て一時洋食店を開きたるも、未だ經驗なかりしがために失敗に歸し、明治二十八年羅府に來り、半ヶ年勞働を爲して、多少の經驗を得、間もなくスプリング街にグラントレストラントといへる洋食店を開業したるが、明治三十二年父の訃音に接したるを以て、之を他に譲りて歸朝し、明治三十四年再び渡米して南加洲に來り、サンバナデノ市に於て、或白人旅館に働くこと二年、再び羅府に出で、東第五街のイーグル洋食店を買ひて之を經營したるが、營業大に繁昌して巨額の資産を作り、其餘力を以て附近の西洋湯屋を買ひ、イーグルバツスと稱して多くの入浴者を有し、其利益また少からず、斯くて明治三十九年、イーグル洋食店は、千五百弗にて之を他に賣渡し、西第七街なる郵便局の附近に白人の經營せる洋食店ありたるを買ひ、新イーグル洋食店と名け、現に之を經營せり、其後イーグル湯屋も、多くの利益を得て之を他に譲り、現時は専ら方を洋食店の業務に盡しつゝあり、彼れ已に資産と經驗とを有し、而かも其妻ゆく子また淑徳ありて、使用せる傭人に對する事最も親切なり、是に於て彼等の其徳を慕ふて長く留まるもの多く、白人の一たび見棄てんとしたる洋

食店も一たび彼れ的手中に歸すれば、忽ちにして人氣を吸收する事殆んど驚くべきものあり、彼れ故國にあるや、曾て郡書記を奉職し、また村の助役に選舉せらる、また羅府在留の山口縣人、相集まりて縣人會を組織するや、一たび其會長に擧げられ、妨長興産社の起るや、其理事に推さる、同縣の青年、彼れの援助に依て業を爲したるもの少からず、相和して縣人の杖と稱す、其營業上の成功、他に其類尠からずと雖も、在米多年、厭ふべき輕薄の氣風に化せらるゝ事なく、其人格の益々圓滿なる點に於て、吾人は多く彼を推さるべからず。

△脇 嘉吉 山口縣大島郡和田村の産、慶應二年生、明治二十二年布哇に渡航して勞働する事未だ一ヶ月ならざるに、早くも衆人の信用を得て、教生會といへる團體の取締に推さる、居る事一年にして南米に渡航し、ペリユーに入り、ブラジルに至る、彼れの南米に入るや、チーフシチヨージと稱する西班牙種屬の富豪に傭はれて、料理人となり、一二ヶ月を経て百二十五ペソ（一ペソは凡そ日本金の一圓に當る）の月給を受くるに至り、給料の外多くの特別收入ありたるを以て、僅かに十一ヶ月にして、三千八百八十五ペソを剩し得たりといふ、西班牙人の食事に贅澤なるは人の知る所にして、料理人の給料の如きは、常に多額を支出するを厭はず、チーフシチヨージは附近の大資産家にして、三プランテーション（四十五平方哩）の珈琲園と、三千の牛車及び六千の牛を所有せるを以て、脇にして久しく此内に留まりたりむには、其貯蓄必ず大なりしなら

む、然れども彼れ久しく外人の傭奴たるに甘する事能はず、主人及び家族の切に彼を留むるをも肯かずして此内を去り、自ら洋食店を開業し、毎月三百七十五ペンの借家料を支拂ひ、十人の傭人を使用し、盛に營業に従事したりしが、其結果十一ヶ月間に三千餘ペンの損失を爲すに至れり、乃ち明治三十一年南米を去りて、海路桑港に來り、轉じて南加州に入り、種々の家内労働に従事し、明治三十五年十二月一旦歸朝し、翌年六月再び米國に來り、羅府北サンビードロ街に山口屋旅館を開業し、以て現時に至れり、彼は旅館營業の傍ら、明治三十八年八月七日、羅府毎日新聞といへる日刊新聞を起し、自ら社長となりて之を經營したるが、明治三十九年四月、之を他に譲渡し、明治四十年イムベリアル平原に二百英町の瓜作を爲したるが、此事業は一萬二千弗の損失となり、またモネタの地に七英町の蕓園を經營して三千弗の損失を爲したりといふ、然れども山口屋旅館は依然として其信用を維持し、明治四十二年十二月、北サンビードロ街の擴張を機として、家屋を新築せしめて、借家料百五十弗を拂ひ、傍ら山口屋商店を開きて和洋食料品及び雜貨の販賣を始め、防長米の如きは、之を本國より直輸入し、大に業務を擴張して其事業の基礎牢として抜くべからざるものあり、彼の如きは一敗を経る毎に、更らに其勇氣を發揮し來るものといふべし、彼れ長く南米に留まりたるを以て、西班牙語を操ふる事頗る流暢なりといふ。

△浦田毛佐次郎 南加州に於ける洋服店の泰斗を松浦洋服店と爲す、松田午三郎浦田毛佐次郎の

共同經營に屬するものにして、松田はワッソンビルの支店を經營し、ローサンゼルス本店の經營は浦田毛佐次郎之を擔任す、浦田は長野縣信濃國小縣郡上田町の産、明治四年を以て生る、其小學校を卒業するや、早くも洋服裁縫師たりむとするの目的を有し、郷里上田町に於て、洋服の見習たる事一年、更らに横濱に出で、長命格之助といへる洋服裁縫師の弟子となる事二年、それより越後高田町竹屋洋服店の裁縫主任たりし事八ヶ月、已にして二十歳に達するや、郷里に歸りて始めて洋服店を開き、間もなく東京に出で、服部洋服店に於ける事一年半、後北神保町に獨立の開業を爲したるが、明治二十七年、陸軍經理學校縫工長賀來宜の紹介に依て縫工科助教に任命せられ、在職四年にして職を辭す、此際功勞に對し金員及び木杯を下賜せらる、已にして熊本に至り、第六師團所屬陸軍經理學校の支校長進藤秀松、彼を紹介して第十九聯隊の被服調達を請負はしめ、また同地の大洋服店主田中某は、浦田のために必要なる資金を辨じて、熊本縣廳の被服を一手に引受けしむるに至れり、當時熊本師團に於ける各聯隊の縫工長は、經理學校在職の際浦田の曾て養成したるものにして、彼は内外に多くの援助者を有し、一時保證金三萬圓を積みみて、外國より羅紗の直輸入を爲さしめむとするの計畫ありたるも彼は事業のわまりに大なるを以て、躊躇して之に應ぜず、偶々對馬に於て縫工養成の計畫ありて、彼を其教授に採用せんとするの意あり、彼れ乃ち吉村縫工長の紹介に依り、該地の招聘に應じ熱心に其教授を爲しつゝあり

しが、曾て東京陸軍經理學校の縫工長たりし松田午三郎は、此時已に官を辭して米國にあり、荐りに書を寄せて浦田の渡米を促したるを以て、彼れ終に渡米の志を決し、明治三十五年四月、砂布に上陸して、ローサンゼルスに來り、同年七月一日、松田と共同して、東第一街に松浦洋服店を開き、漸次に信用を得て、營業年を遂ふて繁榮し、明治四十年三月、ワッソンビルの支店を開業し、明治四十二年十一月本店の移轉を爲して大に規模を擴張し、現時店員に白人三名、日本人九名を使備し、今や桑港以南、松浦洋服店の名を知らざるものなきに至り、浦田毛佐次郎の名、羅府日本人成功者の一に數へらる、現時彼れは、ダンデーの地に一英町二百弗の地、三英町半を有し、ベカスヒルドの附近に、一英町七十弗の地、四十英町を三人にて共有し、土地賣買株式會社の株券百十五株を有せり、而して彼れが其洋服店より得る毎月の收入實に尠からず、彼れ孝心頗ふる深く兩親已に黃泉の客となりて、彼れ常に風樹の感に堪えざるが如し、父會て邸宅を改築せんと欲し之を果さずして逝く、彼れ之を嘆き、乃ち建築費を送りて其志を繼がしめ、父また郷社上田神社に七五三柱のあらざるを以て之を寄進せんと欲したりと聞き、別に金を送り、百八十圓にて花崗石の七五三柱を建立したりといふ、嗚呼此篤志の父にして、此孝子あり、抑も何等の美談ぞや、在米幾多の成功兒、徒らに黄金を積んで、人情の如何を顧みざるが如きもの、また鑒みる所なかるべからず。

△守山純一 長崎縣北松浦郡平戸村の産、明治九年生る、父を守山乾と稱し、舊平戸の藩士にして家代々槍術の師範たりしといふ、王政維新の後、父乾捕鯨事業に關係して巨額の資産を失ひ、不幸病に死するや、一家赤貧洗ふが如し、純一幼にして孤となり、夙に家運を挽回せんとするの志あり、漸くにして土地の中學を卒業し、裁判所の書記となり、又學校教員たりし事あり、然れども避遠の地、男子志の伸びざるを知るや、意を決して東京に出でんとし、而かも旅費なきを以て、半ば徒歩して漸く帝京の地を履む事を得たり、彼の帝都にあるや、荐りに現代の名士を訪問して、其見聞を博ふせんとす、品川彌次郎、頭山滿、杉浦重剛、増島六一郎、勝安房等、當時一代の英豪、彼殆んど之を訪はざるなし、已にして寫眞業を修めて、支那大陸を漫遊せんとするの意あり、乃ち杉浦重剛、増島六一郎の紹介に依て、小川一眞の内に入る、當時小川は米國市俄高の博覽會より歸朝せしを以て、大に寫眞術の改良をなし、更に寫眞版製造術を研究せんとするの際なりしを以て、喜で此青年を引取り、彼をして専ら製版術の實地的研究に當らしむ、現時我國に於て寫眞版製造業漸く盛ならんとするもの、實に茲に淵源す、已にして守山は更に此技術の蘊奥を究めむが爲めに米國に渡航するに決す、乃ち別を名士に叙し、勝伯爵の邸に到る、伯爵其志を壯とし、一首の和歌を題して彼に贈る。

ちよろづの道はあれども世の中は誠のはかに行く道もなし

と、乃ち横濱を解纜して桑港に着す、于時明治三十一年十二月なりとす、彼の桑港にあるや、學
 僕となり、ストージ博士に就て英語を學び、餘暇を以て寫眞製版の實地的研究に熱中したり、已
 にして氣管支病に罹り治せざる事二年、遂に病の爲めに當初の志を抛ち、アラメダ市に於て一
 時洋食店を開きたりしが、明治三十六年ローサンゼルスに來り、間もなく田和亥之吉等と共に基
 督教青年會を創りて十三人の會員を募り、幹事に推されて熱心に同胞社會風紀の矯正に努め、一
 ケ年にして七十餘名の會員を糾合する事を得たり、乃ちストージ博士に乞ふて一人の牧師を送ら
 しむ、是に於て萩原信行聘に應じて來る、是れ實に現時此地に於ける長老教會の前身なりとす、
 已にして彼は此教會の幹事を辭し、西第六街に美術雜貨店を開き、盛に桂庵業に従事し以て今に
 至る、彼資性沈毅よく人を知るの明あり、營業多年内外の信用を得て其利益また少々に非ず、蓋
 し羅府桂庵業者の最も盛なるものなり。

△森文五郎 和歌山縣那賀郡長田村の産、明治二年生る、明治二十五年渡米し、種々の家内勞働
 に従事し傍ら英語を修む、始め桑港にありしが、後フレソノ地方に入り、葡萄園の勞働を契約し
 或は葡萄園の毛上を買ひて七八千弗を利したる事ありといふ、已にして中澤某、福島雷二郎等と
 共同にて、食料雜貨店を開き、三年の間其營業を繼續したるが、之を中澤に譲りて南加州に來り、
 谷文五郎と共にローサンゼルス市スプリング街に竹細工店を始め、營業する事二年、後同志五

人の共同にて亞細亞商會を始め、主として食料品を販賣す、創業以來森は常に主任として其業務
 を支配し、明治四十年資本を増加して七萬七千弗の株式組織とするや、彼は社長として現に其業
 務に當り居れり、羅府に於ける食料店少からず、而かも其資本の巨額亞細亞商會に及ぶものな
 し、創業以來此商會が健全なる發達を爲し、其營業の愈々盛大なる、實に彼の手腕に因らずんば
 わらず。

△山本音太郎 和歌山縣東牟婁郡大島村の産、明治十年生る、十八歳にして米國に來り、ツイク
 トリヤに上陸し、桑港、サクラメント、バカビル等の農園に働く事四年間、明治三十二年コンコ
 ールドに於て四百エーカーの大根園を請負契約して不作の爲めに大失敗を爲し、其れより羅府に
 來り四人共同の事業として旭屋旅館を始め、後此關係を絶ち、アリン街に大和屋旅館を開業し
 たるが、明治三十八年ローズ街に移りて大和ホテルと改め、翌年更らに其傍らに大和屋旅館を開
 く、全體の借家料百九十弗に上れり、彼れまたニューマーケットの地所五英町を買ひて、之にオレン
 チを植付けたるが、土地の騰貴したるが爲めに現時一英町七百弗を價すといへり。

△福島源太郎 米國に於ける書籍販賣の事業たるや、母國に於ける書肆の營業と其趣を異にす、
 其創業の困難なると共に、基礎の鞏固なるに従ひ、其利益また大ならずとせず、現時羅府に於け
 る書林營業として成功せるもの、之を福島源太郎と爲す、彼は熊本縣球磨郡人吉町の産、明治七

年生る、三十三年渡米の志を起して桑港に上陸し、サクラメント地方に労働する事二年、明治三十五年羅府に來り、翌三十九年九月東第一街に文林堂といへる書林を始む、當時日本人の在留者尙は多からず、母國の仕入先きに對する信用も頗る薄弱なるを免かれざりしなり、彼が當時に於ける苦心慘愴、轉た同情すべきものあり、彼は一時鹿兒島縣人宮之原嘉吉を以て、其營業の一部に加入せしめ、彼をして其販賣の事に當らしめて、己は激烈なる農園の労働に従事し、時にはスメルザの水田にセロリを切り、時には、モチタ、トロピコの農園に莓を摘み、時にはフレスの炎暑を冒して葡萄酒の労働を爲し、以て此營業艱難の時代を経過するを得たり、已にして宮之原は事情の爲めに歸朝し、爾後福島は全然獨立して最初の志を繼續し、以て現時に至れり、開業以來店を移轉せる事四回、毎に其規模を擴張して營業の盛大を見るに至り、現に桑港以南、日本人の同業者中、最も信用ある書林たり、艱難汝を玉にすとは蓋し彼の謂なり。

△二野川良一 ローサンゼルスに於ける湯屋の成功者として二野川の名を知らざるはなし、彼は廣島縣高田郡三田村の産にして明治十四年生る、其兄を喜太郎と稱し、明治三十三年渡米し、明治四十年歸朝す、彼始めローサンゼルス、メーン街に風呂屋を開業し、暫くにして之を他に賣渡し、其買賣の差額に於て利益を得たる事少からず、已にして南メーン街と東一街とに新規の湯屋を開業したり、良一の渡米したるは明治三十八年にして、此二ヶ所の湯屋は、兄弟の共同營業たり

りし事二年、喜太郎の歸朝するや、良一其後を繼いで獨力其營業に當れり、東一街の湯屋は浴室十個にして店前を理髮所として、専ら日本人向きの營業と爲し、南メーン街の湯屋は、其名をリバーバスと稱し、十三個の浴室を備へ、店前に高價なる十個の理髮椅子を据へ、シガースタンド、靴磨臺の設備を爲して各擔任者を定め、理髮所には白人の理髮師七人をして之を擔任せしむ、場所はローサンゼルス市内の最も繁榮なる地點にして、店內裝飾の美なる恰も玉を飾けるが如きものあり、創業の經費六千弗と稱し、現時一ヶ月の收入七八百弗より千二百弗の間あり、由來沿岸の日本人社會は、常に同胞間の營業を主として未だ白人向きの營業を有するもの少し、彼れの如きは此點に於て特種の成效を爲したるものといふべき也、性温厚正直にして知る者其成功の偶然ならざるを稱す。

△指宿藤三 鹿兒島縣始良郡敷根村字麓の産、今より十四五年前渡米してツイクトリヤに上陸し此地に留まる事一年、爾後家内労働及び農園の労働を爲して桑港に在る事一年、スタクトン地方に在る事三年、羅府に來りたるは明治三十四年にして、間もなく薩州旅館を始め、桂庵業を兼ね、多くの労働者が指宿桂庵の周旋にて其労働口を得たるもの果して幾干なるかを知らず、現に羅府に於て守山桂庵と共に最も信用あるものなり。

△小畑甚之助 和歌山縣海草郡松江村の産にして、元治元年生る、明治二十五年二月米國に來り

てサクラメント地方に入り、農業に従事する事八ヶ月、去てサンオーキン平原を視察し、南加州の有望なるを觀取して、徐ろに永住の計を定め、ローサンゼルス、ゼファソンの地を下して此所に花園業を開き、種々の花卉を培養して之を市街に鬻ぐ、當時日本人の此地に来るもの少く、偶々之の亦も、單純なる労働者に過ぎず、而かも彼の花園業に従事するや、非常なる熱心を以てし忽ちにして其盛兆を呈するに至りたるを以て、白人の同業者之を妬み、相共に彼の花卉を買ふ事を爲さず、彼れ早くも這般の消息を察し、勤めて恩恵を彼等に通し、彼より買ふべきものは利を厚くして之を取り、彼等に賣るべきものは利を薄くして之を賣り、斯くして業務次第に盛大となり、現在の資産三萬弗に上り、更らに其近傍ストロベリーパークの地十エーカーを三千二百五十弗にて求め、當時地價の騰貴せるを以て、五千弗の價額に相當すといへり、彼此地を開きてまた花園となし、其實弟龜吉をして其經營に當らしむ、此價額一萬五千弗と稱す、南加州に於ける日本人の花園業者少からず、而かも率先此地に入りて白人の間に競争し、多年一日の如く其事業に勉勵して此地方に數萬の資産を起したるもの彼を措て他に求むべからず。

△松尾繁一 長崎縣口津港の産、明治九年七月一日生る、家代々商を業とす、明治三十七年七月桑港に上陸し、サクラメント、フレズノ等に於て農園の労働に従事し、九月南加州ローサンゼルスに來りて此所に留まり、家内労働または商店内の労働に従事し、明治四十年三月田邊常吉

と共に、自由堂といへる書籍文具店を開きたるが、營業の基礎未だ鞏固ならざるに、米國經濟界の變調を來し、一般の商業界其影響を蒙りたるを以て、彼の苦心いふべからざるものありしが、而も自ら信ずる事深く、一意其業務に勉勵して、敢て屈撓する事なく、田邊の其共同を辭して去るや、彼れは獨力其經營に當り、之を松尾商店と改稱して、現時は主として西洋雜貨の販賣に従事し、傍ら市俄高に於けるゼーエルラーといへる洋服店と特約して、洋服の調達を爲し、現時一年の總收入三萬弗内外なりといへり、彼の故國に在るや、屢々遊蕩を事としたるも、渡米以來決然として其品性を改め、彼を知るもの恰も別人を見るが如しといふ、營業の規模未だ大ならずと雖ども、其商才に富めると、其業務に熱心なるとは、人をして彼れの前途に望を囑せしめずんばあらず。

△堀利一郎 岡山縣吉備郡日美村の産にして、明治十三年生る、明治三十三年渡米し、ワイオミング州に入りて鐵道に働きたりしが、後ちアイダホに至り、ボカテラ附近の鐵道キャンプに入り、不馴の労働に艱難辛苦を嘗むる事二年、それより羅府に來りて種々の労働に従事し、西湖園の附近一白人の家庭に三年の労働を繼續して深く其信用を受け、此際第一組合教會に入りて英語を學び、基督教の感化を受けて其信者となりたるが、明治三十九年、貯蓄金七百弗を資本として東第一街に雜貨店を開きたるに、營業繁榮して、今や羅府日本人社會に於て屈指の大商店たる

に至れり、故國より妻及び二弟を呼寄せ、已に一子を擧ぐ、現に岡山縣人會の會計たり。

△佐々木久助 廣島縣山縣郡加計町の産にして、元治元年生る、明治三十五年、布哇に渡航し、砂糖園の勞働に従事したりしが、三十八年九月、桑港に上陸して直ちに羅府に來り、一時或る劇場の勞働に従事したりしも、間もなく之を止めて、ペナピスタ街に旅館を開業し、半ヶ年にしてポイド街に移り、九ヶ月にしてまた其所を去り、ウォール街にある白人の旅館を買ひ、毎月百弗の借家料を支拂ひて之を佐々木旅館と稱し、傍ら東第四街に常盤湯といへる風呂屋を経營せり、曾て此地の旅館同業者は、宿泊者に對する賄料を一食十五仙に定めむとするや、彼は田村和一郎と共に、十仙賄の得策にして、一般の利益たる事を主張したるも容れられず、乃ち多數の同業者に拮抗して、田村旅館と共に十仙賄を斷行し、遂に他の同業者をして、止むを得ず彼れの十仙主義に降伏せしめたるが如き、以て其剛膽不屈の性格たるを知るべし。

△中村彦市 廣島縣安藝郡府中村の産にして、慶應三年生る、明治二十九年布哇に渡航し、藥舖を營業する事五年、明治三十六年桑港に上陸し、米國の事情に通せざるが爲めに勞働に従事する事一年半、後ち羅府に來り、資本金貳千五百弗にて、北サンビードロ街に藥舖を開業し、米人の藥劑師を僱聘して其營業に従事し、傍ら風呂屋を營業して収入少からず、此地の信用を有し、現に廣島縣人會の會計たり。

△富山三平 山口縣大島郡和田村の産にして、安政六年八月三日生る、明治十四年山口師範學校を卒業し、縣下の小學校及び福岡縣門司市丸山高等小學校等に於て教鞭を執る事前後十年、年功加俸を得、地方正教員の免許狀を受く、已にして海外に志を起し、明治三十二年三月布哇に渡航し、ヒロ市西本願寺出張所日本人小學校に招聘せられ、暫く兒童訓陶の任にありしが、後之を辭して一時商業に従事し、偶々米國加州の有望なるを開き、三十九年二月桑港に上陸し、三月七日ローサンゼルスに來りて、ポイド街に旅館を開業し、其營業は妻女をして之に當らしめ、己は白人の商店に備はれて其店務に従事し、爾後三年八ヶ月の間、曾て一日の缺勤を爲したる事あらずといふ、以て其志望の正確にして意志の鐵の如きものあるを知るべし、性温厚篤實にして早くより基督教の感化を享け其戒律を實行して曾て怠る所あらず、其今日ある固より偶然にあらず、現に羅府美以教會の會計に選ばれ、日本人禁酒會評議員及羅府日本人勞働協會參事員を兼ねぬ。

△森澤市松 和歌山縣東牟婁郡田原村の産にして、明治五年生る、明治二十六年ヴィクトリヤに上陸し、叔父某のサクラメントに在るを頼り、行て伐木の勞働に従ふ事六ヶ月、更にバーナスの地に入り、鐵道に働く事三十八ヶ月間、更らに石炭坑夫たる事六ヶ月、其れよりフランスノに入りて葡萄酒園に働き、また附近の牧場に在る事暫くにして、再びバーナスに歸り、友人と共に鐵道に働く事また五ヶ年、大に監督者の信用を得たるも、友人の爲めに監督者との間に不和を生じ、去

てマセドの地に働く事八ヶ月、更らにネバタ州ライバーに至り働く事三ヶ月間、其の監督者の亂暴に堪えず、密かに其地を去りて加州に出でんとす、乃ち悉皆の貯蓄七十三弗を懐にし、荷物は毛布に捲きて先に送り、機を見て瀛車に飛乗を爲し、走る事百十數哩、一停車場に着するや、發見せられて引下され、如何ともする事能はず、偶々一白人の飛乗を爲すものあり、彼に告げて曰く、見よ彼の菓物を積めるは、櫻府の列車なり、公彼列車を逸する事勿れど、森澤曰く然り、多謝すと、乃ち其車中に入り、靴を脱ぎて之を枕とし、短刀を手にして其中に寝る、列車の運轉する事終夜、彼れ思へらく、已に、櫻府に着したるべしと、何ぞ圖らむ、列車は同一の停車場にありて、只だ其附近を運轉したるに過ぎず、已にして瀛車の漸く發するや、彼は列車の間に入り、僅かに身を支えて走る、貨車には石炭を積みたり、瀛車の振動する毎に、石炭の細片は彼れの頭上に落ちて積むこと一寸、身體疲勞して綿のごとし、然れども若し睡魔の爲め其握りたる手を放たんか、彼は直ちに轢死せざるべからず、斯の如くして走る事また幾百哩、已にして瀛車の櫻府に着するや、飢を凌いで白人の洋食店に入る、洋食店の主人、驚き且つ笑つて曰く、足下食事の前、先づ其鏡を見よと、何ぞ圖らむ、石炭を浴びたる彼の顔面、黒きこと墨のごとし、是れより徒歩してビグスに至り、二十日間勞働したる後、アモナ、フレスノ、ブラードリー等にありしが其れよりフレスノ、葡萄園の勞働を契約して始めて三百弗の利益を得、更らに五十人の勞働者を率

ひて、サンバナデノに來り、勞働する事三ヶ月、偶々サンタファイー鐵道會社に、日本人勞働者を採用せんとするの風説あり、乃ち行て之に交渉し、配下の五人を選擇して働かしめたるに、其成績の可なりしを以て、遂に其年二十五人の勞働者を使用せしむるに至れり、是れ現時サンタファイー停車場に於ける森澤キャンプの濫觴にして、其翌年は四十人となり、翌々年は六十人となれり、其後サウサンバシフィック鐵道會社、また日本人勞働者を採用せんとす、彼は乃ちサンタファイー鐵道工事の元請人たる白人某の紹介に依て、其配下の勞働者を使用せしむるに至る、乃ち現時に於ける彼の配下は、サンタファイー鐵道に百十人、サウサンバシフィック鐵道に百三十人を使用しサンタファイー停車場のキャンプは自ら之を支配し、サウサンバシフィック鐵道の勞働者は、之を二キャンプに分ち、其一を従弟田村仙太郎に監督せしめ、一を岡山縣人岡崎友治郎に監督せしむ、之を名けて第一第二第三とし、第一キャンプは勞働者の日給一弗六十五仙にして、大工鍛冶屋の働さわるものは百弗乃至百三十弗の月給を得、ツラツキウオークを爲すものは、七十弗乃至八十弗のものあり、第二キャンプは機械場の掃除を擔當するものにして、日給一弗五十仙を支給せられ、第三キャンプは月給五十弗を給せらる、其外サンデーゴに日給一弗七十五仙にて十八人、リバサイド郡ビニューモントに日給一弗六十五仙にて五人、アリゾナ州インデオに日給一弗六十五仙にて五人、其他ソートレキー鐵道會社のブルマン列車の掃除人夫として月給五十弗の者九人、

エスビー鐵道ブルマン列車の掃除夫として十八人を入る、森澤の爲人、其意志の剛健なると共に、體力また人に超え、體量七十斤、よく普通労働者三人前を労働すといふ、白人關係者の信用頗ぶる厚く、毎年基督降誕祭に於て、贈物の代價五百弗を下らず、曾て其長男の死去するや、十數臺の馬車其葬儀に列し、諸方よりの贈花一車に滿載せられたりといふ、彼れ曾てサリナスの附近ゴンドラスに於て、西班牙人の怪力あるものと力を角へて之に勝ち、白人見て之に驚き、更らに四方に廣告し、五十弗を賭して、日西兩勇士の角力を興行したるが、森澤無双の金剛力を振て之を倒し、賭する所の五十弗を贈與せられ、彼れの勇名四隣に震ひたりといへり、豈に快男子にみらずや。

△田中重平 宮崎縣 東臼杵郡富高村の産にして、明治六年五月生る、曾て九州學院醫學部、東京慈惠醫院、東京顯微鏡院、櫻井病院産科實地演習講習科、國家醫學會等に於て、諸科の醫學を修め醫師開業試験に及第して、内務省醫術開業免狀を受け、明治三十二年より郷里に歸りて醫業に従事する事五年間、明治三十六年渡米して羅府に來り、ドクトル、テーラーの助手となりて日本人部の診療を擔當したりしに、他の猜忌を受けて法庭に召喚せられたる事あり、是より發憤して南加州大學醫學部に入り、孜々研鑽の結果、三十九年四月、加州醫術開業試験に及第して、加州政廳よりの開業免狀を下附せらる、是れ千九百一年加州醫術免許規則改正後、日本人として始めて醫術の免狀を得たるものなりといふ、現時羅府、アメリカ街に業を開き、最も同胞社會の信頼する所たり。

△川崎雪太郎 廣島縣佐伯郡草津村の産にして、明治十七年生る、明治三十五年布哇に渡航し、留まること二年餘、三十七年桑港に上陸し、間もなく羅府に來りて、其父川崎市右衛門の經營せる一心亭といふ料理屋を繼ぎ、忽ちにして巨額の資産を作り、明治四十年、北サンビードロ街に於て最も人氣ある料亭新富といへるを譲受けて、營業頗ぶる繁榮し、四十二年四月、日本人ホテルの新築せらるゝや其二階の全部を借受けて、新に松亭といへる料理屋を開業し、常に多人數の宴會を引受け、現時日本人社會に於ける大宴會は常に此料亭に於て催されざるはなし、彼れ故國より料理屋としての經驗を有し、最も同業社會に信用せらる。

△山本善三郎 和歌山縣西牟婁郡三舞村の産にして、明治三十三年渡米し、北加州の地に於て鐵道及び農園に働き、明治三十五年羅府に來り、鐵道列車の掃除人夫及び砂糖大根園の労働に従事して資本を作り、三十六年南海屋といへる旅館を開業し、本館及び支店に對し借家料毎月百四十五弗を支拂ひ、他に資本金千五百弗にて南海玉塲を開き、現時アメリカ街附近にて旅館業者の成功者とせらる。

△高木梅軒 香川縣三豐郡二宮村の産にして、幼にして備後尾の道にあり、宇都宮龍山に就て漢

學を學び、曾て京都同志社にありしが、明治十八年渡米し、間もなくノーマンスクールに入學し、二年にして之を卒業し、其後桑港に於て白人齒科醫の家に勞働するに至り、始めて齒科醫たらむとするの志を起し、已にして羅府に來るや、齒科大學の教授、ドクトル、アランの紹介に依て南加大學齒科に入學し、登雪の苦學を積む事三年、遂に之を卒業し、齒科醫學士の號を與へられ千九百一年、加州政廳よりの齒科醫開業免狀を下附せらる、是れ加州に於ける日本人公認齒科醫の嚆矢なりとす、頗ぶる漢詩に長し、近時また寫眞術を研究す、在米詩人として加州の同胞社會彼の名を知らざるものなし。

△移川時治 宮城縣登米郡綿織村の産にして、明治十年生る、明治三十二年英領加奈太に上陸し、鮭漁に従事する事二年、是れより北加州に來り、ニードルスのハベハウスに勞働し、南加州羅府に來るや、イムベリア、カフヒーのバーテンダーとして働く事四年、此間ベラスコ劇場の掃除方を受負ひて配下に三人の勞働者を使用す、彼れの勞働に従事するや、堅忍不拔の精神を以て之に當り、三四年間、一日として市内遊覽の閑時日を有せず、偶々一週間の休暇を得たるを以て公園に散策せんとし、アスコット公園と記したる電車を執りたるに、此パークハ普通の公園に非ずして、一の競馬場なりしなり、然れども已に其門前に至る、乃ち好奇心に驅られ、一弗の入場料を投じて入て之を観るに、白人の觀客、馬を買ふと稱して金銭を出すあり、彼また何の故たるを知

らず、然れども之に倣ひ、金を出して余にもまた馬を買はしめよといふ、事務員彼に向て曰く、足下何れの馬を買はんと欲するかと、彼れ答へて曰く、我之を知らず、只だ足下に一任するのみと、事務員笑つて金を受取りて去る、此日彼れ僥倖にも此賭戲に於て四十弗を贏ち得たるなり、是より後六週間、彼れ競馬熱に浮かされて千三百弗を消費するに至れり、ベラスコ劇場の支配人ブラコード、屢々彼れに意見を加ふれども肯かず、已にして寫眞術を學びむとするの意あり、或日四十弗の寫眞器械を求む、ブラコード彼に向て曰く、足下競馬を廢めて之に代ふるに寫眞術の研究を以てせよ、余また其便宜を與へんと、是に於てか彼れ始めて寫眞に熱心し、更らに白人の寫眞師ハウスレーなるものに就て六週間五十弗の謝禮を爲して、遂に其奧秘を聞き、全力を擧げて其研究に従事したるが、果せるかな技大に熟し、偶々紐育セブンデー、アト、ゼ、アスター座の名優フロンセス嬢の羅府ベラスコ劇場に來るや、ブラコードの紹介に依て彼女の撮影を爲したるに、非常なる賞讃を博し、嬢は多數の寫眞を注文して、其紐育に歸るや、之を知人に配布して日本人寫眞師の絶技を賞揚したりしかば、移川寫眞師の名は忽ち該地の梨園に喧傳せられ、爾後東部の俳優より、彼に對して寫眞の注文を爲すもの多く、現時羅府に於ける三ヶ所の劇場、また彼に寫眞の注文を爲すもの少からず、一時セントラル街に開業したるも、現時病の爲めにベラスコ劇場の樓上に事務所を置き、主として白人よりの注文に應じ、而かも業務多忙を極めて其收

入少からずといへり。

△沖常四郎 廣島縣の産にして、明治十年生る、明治三十三年タコマに上陸し、南加州に來り、ガードロップの地に入りて大根園に勞働したりしが、病にて其地を去り、後ちフランスノにある事二年、明治三十五年オクスナードに至りて、勞働者の爲めに共同宿舍を始めたるも、勞働同盟派の紛擾の爲めに、去て羅府に來り、アツブランドに蜜柑園の勞働を契約し、五十人の勞働者を率ゐて始めて日本人のキャンプを此地に建て、白人勞働者の迫害に抵抗して遂に之を維持し、後ち之を直原敏平に譲りて羅府に出で、ジャクソン街に旅館及び商店を開業して盛に營業に従事し、またサンデマスにレモン園のキャンプを有して數十人の勞働者を使用せり。

△安井保次郎 廣島縣安佐郡口田村の産にして、明治九年生る、明治三十一年四月グイクトリヤに上陸し、ポートランドにて鐵道に働く事二年、其れよりソノマ郡サンタローザに入りて暫く家内勞働を爲したりしが、後ちオハヨー洋食店を開きて失敗し、更らに桑港に出で、コックとなり、三十六年羅府に來り、ブラザー街に洋食店を開きて、之をスター洋食店と稱し、營業を繼續する事已に七年、借家料七十弗を拂ひて、八人の傭人を使用し、現時羅府に於ける洋食店成功者とせらる。

△白根景一 廣島縣比婆郡山内東村の産にして、明治二十年四月生る、明治三十九年桑港に上陸

し、ワイオミング州に入りて鐵道働きに從事したりしが、其れより南加州に來り、また勞働する事一年半、偶々北サンビードロ街に果物店を開業し、傍ら食料雜貨の販賣を爲し、またラグナの地に現金にて土地六十英町を借り、一大野菜園を經營せり、商店の營利少からざるのみならず、野菜園の利益また巨額に達せりと云ふ。

△時津新太郎 福岡縣朝倉郡三輪村の産にして、明治二十九年桑港に上陸し、一時王府に於て洋食店を開き、經驗なきために失敗して、後ちインヨー郡の鑛山に勞働する事一年、明治三十六年羅府に來り、ブラザー公園の附近に時津湯を開業して現時に至り、羅府日本人湯屋業者の最古の營業者と稱せらる、一年の收入五千弗にして、現に羅府湯屋同業組合の組長たり。

第四節 ローサンゼルス郡踏査日記

余の北米大陸、日本人發展地の踏査は、西曆千九百八年五月十五日を以て其端緒を開きたり、余は長途の旅行を爲すに先ち、附近の小旅行を試みんと欲し、午前八時羅府を發し、太平洋電鐵會社の電車にてホイデヤ方面に向ひぬ、此地は羅府を距る事二十一哩の南東にあり、人口凡そ四千餘、始めクエーカー派の教徒、此地に殖民地を拓きたるものにして、今尙は清淨閑雅の市街たり、附近にオレンヂ、レモン、胡桃の園地多く、市街は背後に丘陵を負ひ、前にロスニトスの平原を控へ、丘陵の所々に油井ありて、高さ木柵の突立する光景頗る奇なり、園地は初夏の翠葉淡烟

を帯びて、一面の青色、恰も海の如く、市街稠密にして、紅瓦の日光に映じ、白亜丹壁の樹陰に隠るゝありて、風光最も佳美なり、丘上に登りて西北を望めば、遙かに煤烟の横はるもの、是れローサンゼルス市の街なるべく、麓に牧場あり、牛羊群を爲し、日光を浴びて、或は立ち、或は臥す、黄藤萬丈車馬喧嘩を極むる大都會を去りて、此地に來りたる余は、始めて武陵の春色に接したるが如き感なくんばならず、此地の南四哩の所に、グリッフィンウエル氏の農園ありと聞き、歩いて之に達す、日本人の労働者數十人ありて、廣島縣人近藤静人氏のキャンプなりといへり、此夜キャンプに一泊し、一同相會して談話を開く。

五月十六日、午前八時近藤キャンプを發し、徒歩南行してオレンヂ郡の一部、ラハブラに達す、地は丘陵の上にあり、附近は皆未開の原野にして、四五軒の板屋造りあり、前島義三郎氏を訪ひて此地の事情を聞く、山上より遙かに太平洋の水、雲の如きを見る、此地農園として可なるか否やは尙疑問に屬するが如し、夕方近藤氏のキャンプに歸る、ラハブラとホイテヤ其間八哩にして農園半ば開拓せられ、日本人の所々に農作を爲すものあるも、其數未だ十人に達せざるべし。

五月十七日、近藤キャンプのクックに影山氏といふあり、卓上に麥酒を持ち來り、余の爲めに、祝盃を舉ぐ、余其好意を謝し、其郷里を問へば長州安岡なりといふ、氏家を出で、已に十餘年、布哇より米國に來り、此キャンプのクックたる事已に六年、貯蓄また少からず、始めて余の親友の

親屬たるを知る、恰も故國の知友に遇ひたるが如き感あり、此日土居唯夫氏、近藤氏に代り、余をして彼等の仕事場たるパーキングハウスを見せしむ、グリッフィンウエル氏の農園にはレモン園頗る多く、此キャンプの労働者は、レモンの摘取りと、其箱詰の労働をなすものなり、園内労働者の摘み來りたるレモンは、電氣仕掛の洗滌器にて之を洗ひ、其大小を分撰して、一定の箱に詰め入るゝものとす、詰め終りたるレモンは、之を積み重ね、周圍に厚き布を垂れて空氣の侵入を防ぎ、レモンの黄色となりたる頃市場に輸出するものとす、其仕掛の大なる、一見驚くべきものあり、余は午前十時近藤キャンプを辭し、途次月藤友一氏のキャンプを訪ふ、此日月藤氏は不在にして、樽本幾太郎氏あり、就て此地の事情をきく、キャンプは蜜柑園の中にあり、樽本氏は此キャンプに労働の傍ら、野菜の耕作に従事するものなり、已にして此所を辭し、徒歩してホイテヤの市街に出で、電車をとりてローサンゼルスに歸る。

五月二十日、ニューマーケットの日本人農村に至り、新谷立助、中川福太郎氏を訪ふ、此地はローサンゼルスを距る事三四哩、附近悉く日本人の菜園業者なり、最も有望なる野菜の耕作地といふべし、此日調査を終りてローサンゼルスに歸る。

五月二十一日、ボモナ地方に向て出發す、ノートレーキ鐵道の汽車に乗り、ローランドといへる所にて下車す、此地は新開の菰耕作地にして、モネタ、トロピコより來りて菰園を始めたる日本

人頗る多く、皆一二年前の居住者なり、紅玉散亂たる美觀を爲せる庭園の、青葉の下には、梨の花に似たる愛らしき、小さな花の咲きたるあり、一二の農家を訪問し、午後四時停車場より再び汽車に乗らんとす、一人の青年、脚氣病に罹りたりとて顔色の悴憊せるものあり、是れ天涯の客土、激烈なる競争場裡に倒れんとする者、轉た同情に堪えず、醫師に頼むべき注意を告げ、慰藉して別る、間もなく汽車は來りぬ、乃ち之に乗てボモナに向ふ、農園の盡くる頃より牧場多く、叢中黒きもの、蠢動く有り豚のアルハルハ杯食ひつゝあるものなり、不意に一群の駿馬、草の影より見はれたるあり、汽車の音に驚きけん、駭を風に靡かして走り去るなり、夕陽廣き牧場の草原を射て、馬群の右に落つ、スバトラの驛を過ぎてより菜花の高く延びたる中、農夫の器械を入れて之を刈り取るものあり、其光景自ら羅府附近の農園と異り、四時四十三分ボモナに到着す、此地は羅府を去ること東三十四哩、ローサンセルス郡に屬すれども、サンバナデノ郡の境に接し、別個の市街地をなす、南加州に於ける有名都會にして人口凡そ一萬あり、オリブ、蜜柑、アツブリカット、ブルー等果樹園多く、鐵道及び水利の便ありて、市街整然、風景幽雅の地たり、背後にシーラマドル連山の高峰、サンバナテノ山の高く雲際に聳ゆるあり、光景最も雄偉なり、余は汽車を下り、屢々白人に道を尋ね、三哩ばかりにして三上太一氏のキャンプを訪ふ、老樹の蔭翳として高く天を摩するの下、古き家屋の軒傾きて蒼然たるものあり、

是れ乃ち三上キャンプにして、十數人の健兒は今し此日の戰場より引き上げたるばかりにして、布袋を掛け、革の手袋を穿ち、椽側に腰掛け汗をふきつゝ今日の働さを語り合ひつゝあり、茶色の鍔廣帽を取りて、余に握手を求めたるは三上氏にして、一見舊知の思ひをなすは余等海外に在るもの、常なり、乃ち食卓を共にして夕飯を喫し、燈を剪て談深更に至る、三上氏は曰く、今より六年前加藤某なるもの勞働者を率ゐて此地に入り此家屋を本陣として、諸所の農園に勞働し、當時アツブランド方面に於ける白人勞働者、其勢力範圍に日本人勞働者の侵入せるを怒り、武器を以て屢々其キャンプに襲來せり、加藤は固より剛膽不屈の快男兒なり、彼已に暴を以て來る、彈丸硝藥、以て彼等に酬ゆべきなりと、乃ち市に出で、十數挺の銃器を求め、一朝事あらんか、血戦して其運命を賭せんぞと、彼等其氣勢に避易し、爾後また來り襲ふことなく、始めて日本人の勞働區域を開拓するに至れり、其後加藤は受負事業に失敗し、勞働者の給料を奪ひて逃亡を爲したるも、彼れの本陣たりし此家屋は、現に存在して吾等の本營たり、是れ此地方に於ける日本民族發展の歴史的紀念物にあらずやと、時に夜已に深くして老樹風に戦ぎ、星光破壁を洩れて四顧寂寥たり、海外の一角、此の如き同胞の活歴史を聞く、余深く感懐する所あり、此夜三上氏のキャンプに一泊す。

五月二十二日 三上キャンプを辭し、細川キャンプを訪ひ、更に垣内キャンプを訪ふ、途中市の

背景を爲す高山の頗る壯嚴なるに驚きぬ、圓錐狀を爲せる二ツの高山は、巍々天半に聳えて、山勢恰も一氣呵成の筆に成れる富岳の面影を有し、同胞は之を名けて双子山と呼ぶ、其奥に屹然たる一大高山の聳ゆるものあり、乃ちサンバナデノ高山にして、海拔一萬呎、群峰の間に蟠踞して頂上常に白雪を戴き、一年の中、只七八兩月に亘りて少時之を見ざるのみと、市街を距る事二三哩の如くなるも、其麓に至る距離四十哩ありといへり、烟霞茫茫として、朦朧たる巨怪の屹然として横はるもの、如く、仰げば隆然として高く、更に蜿蜒として其脈派を分ち、其怪異の狀妖魔の雲に隠るゝが如く、其崇高の威儀、神秘の風手を備へ、高さ一簇の白雲、一端を山頂に觸れて、且つ散じ且つ纏はるを見る、余の垣内キャンプに至るや、傍らに矢島石藏氏あり、余に語て曰く、余夙に彼の高山に向て探險を試みんとしたるも、未だ同志を得ず、山の彼方は無人の地入百哩にして、所謂モサベの砂漠に連り、山中には老樹古木の幾千年を経たるかを知らざるものありて、カリホルニヤライオンの巢窟地たり、二週間の食料と十二挺の獵銃を準備せば、以て此壯快なる希望を果すを得べしと、細川垣内の二氏は此地方のオンチ園に日本人労働の受負を爲しつゝあるものなり、地方の事情をさ、更に廣瀬重氏のキャンプを訪はんとす、垣内キャンプを辭したるは此日の午後六時にして、人家の稀なる原野を横斷し、サンタフィーの鐵道を踏切り、ユカリタスの並び立てる道路を山地に向て進む、顧みれば暮色已にボモナ、バレーの上に落ちて、

柑園の一端已に人家を辨せず。

草まぐら、旅には歸る家なきに、暮るゝと見ては何いそぐらむ。

垣内キャンプに留められたる余は、未だ廣瀬キャンプの何れにあるを知らず、天涯の孤客、始めて彼の鴨立澤の秋の哀れを歌ひたる旅僧の心事を解しぬ、ユカリタスの並木道は已に盡きぬ、山野未だ一軒の家を認めず、高山暮雲に包まれて、獅子の棲むてふ荒野は、近く眼前に迫りたり、若し宿るべき家なくんば今宵こそ岩枕草褥の覺悟なかるべからずと、尙ほ林端に添ふて行くこと暫くにして、始めて郵便筒の路傍に建てられたるを發見しぬ、近きて諦視すれば英字にてヒロヒと記せり、林を穿ちて入り、主人に面會して此内に一泊す、廣瀬氏のキャンプは、此地方に於て最も設備の整へるものにして、其園主をリチャードソンと稱し、日本人の労働者を愛して新築のキャンプを作り與へたりといふ、此夜廣瀬氏と語る、氏は好學の青年にして、室内に多くの書籍を藏む、此夜宗教談あり、文學談あり、微月樹林の間を洩れて、四顧頗る靜閑なり、深更に至りて寢に就く。

五月二十三日 朝廣瀬キャンプを立ち、八時三十分の汽車に搭じ二十分にしてサンデマスに着す、此地はレモン、オレンジの産地にして、人家百内外あり、佐藤光偉氏のキャンプを訪ふ、此キャンプは假りにテンツを張りたるものにして永住的のものにわらず、他に日本人のキャンプ三ヶ

所ありといふ、原上樹木少く暑氣最も甚しきを覺ゆ、午後五時再び汽車にて、アーウインデー
ルに下車す、此邊の地は、一帯の沃地、苺及び野菜園多く、所々にオレンヂ園あり、サンガブレ
ル平原に屬す、此夜町田榮次郎氏のキャンプに一泊す、苺の收穫期なるを以て十數人の労働者此
内にあり、此夜鈴木美朗氏また來りて此地の状況を語る、町田氏のキャンプに一泊す。

五月二十四日 二三の農家を訪ふ、苺園には労働者の苺を摘むもの多く、所々に苺の箱の積重ね
られたるあり、二哩を歩いてコピナに至り、二三の農家を訪ひ、午前十一時電車にてローサンゼ
ルスに着す。

六月三日、此日ローサンゼルスを發し、ロングビーチの方面に向ふ、此地はローサンゼルスの
南二十二哩の海濱にして、ニューポート及びサンビードロ港の中間に位置す、人口八千南加の好
遊地と稱せらる、其の附近バーネットの地、日本人のバイオレットを作るもの多し、余は太平洋
電鐵會社の電車を取り、五十分にしてワイロースに下車し、右に向ひて行く事半哩にして、バー
ネットの農村に出づ、附近の地勢を見んがために小丘の上に登る、丘の南は乃ち渺茫たる太平洋
にして、一帯の人家左右に開展し、隣次して相密接す、西に岬端あり、遙かに煙の騰れるもの
乃ちサンビードロ港たることを知るべし、更に歩を進めて丘の頂上に達すれば、帯の如くなりし
太平洋の水は、次第に其幅を擴大にして、青波漫々、水色天に連り、縹渺として極まる所を知らず

東は長堤、曲浦霞に入りて香烟縹緲たり、眼を陸に轉すれば、茫々たる平野、山影の雲に隠れ、
黄田青剛、相映じて長彩を爲すもの、乃ちロスニトス平原全部の光景にして、ニューポート以北
サンデアナ、オレンヂ、アナハイム、フルトンよりホイデヤ、フロレンスの市邑皆此内にあり
て、護謨樹の長林、黒く其間を點綴す、西北はカヘンガ平原の一部を展望してハリウッドの山脈
微茫として其西を限るあり、ローサンゼルス以南海陸の眺望を指顧の間に收め、廣大なるパノラ
マの光景を占有するもの此丘上に優るものなかるべし、此所に信號臺あり、丘の北は緩き傾斜面
をなして、冬季降霜なく、苺及び野菜類の其期節に先ちて最も早く市場に上るものあり、白人の農
家、胡瓜の走り物を出して巨額の資産を起したるものあり、日本人の花園を経営し、バイオレット
の栽培をなすもの、また此降霜なき土地を利用せんとするものにして、ルーベリーと稱する苺の
如きは、南加州中此地を以て最も早出の産地とせらる、余は丘を下り、今井鶴吉氏を訪ふて、此
内に一泊す。

今井氏のキャンプは乃ち信號丘北方の斜面にありて、此夜新月小丘の上に懸り、大陸の平野夜烟
淡く横はり、遙かに三十哩を距て、ローサンゼルスの火光赤く空を彩るを見る、夜色淡々、野村
の光景いどいど艶なり。

六月四日 今井氏馬車を用意し、余を誘ふてロングビーチの海濱を觀せしむ、今井氏の愛兒に四

歳の男子恒男といふものあり、父に抱かれて一行に従ふ、白人の小兒は八九歳ばかりなるが、小學校に行くとしてまた之に便乗す、朝陽麗かにして、途塵揚らず、十四五分にして白人の小兒は學校の前にて下車し恒男は余の膝にてうとくと寝り始む、已にしてロングビーチに着す、海濱の長砂珠の如く、碧波日光に映じて珊瑚の如く清し、市街は煉瓦の高樓彩瓦を登み亞字の欄干翠簾を捲く、長橋長さ百間、堂々波上に臥し、さすがに南加州海濱中の有名なる市街地と知らる、行く事三哩、市街地は已に遠く距りたるも、長濱盡くる所を知らず、水禽の波際に餌を啄むあり、波に崩されたる堤の側に、幾多の小孔ありて、多くの燕之に出入し、颯々飛去、飛來する光景頗る奇なり、海濱を去りて公園に遊び、更に市街を遊覽して午後二時今井氏のキャンプに歸り此日電車にてローサンゼルスに着す。

六月五日 市内ウエストアダムスの日本人農業地を視る、電車は市街の盡くる所に止まり、余は歩いて金丸伊之介氏のキャンプを訪ふ、農園には人参、蕪、大根、を始め其數二三十種あり、始め支那人の野菜業を始めたるもの、現時殆ど日本人の手に歸し、支那人の農家今只だ二軒を殘せりといふ、郊外の野趣人を喜ばしむるものあり、金丸氏の内には數人の労働者、葱、蕪等の野菜を取揃へて、市場に積出すべき準備に忙はしく、賄場には其妻女の子守車に嬰兒を載せて、炊事に忙はしき杯、我國農家の繁忙に異ならざるも床し。

此日午後、更に市内ロスフェルトロードの日本人農家を訪ふ、此地は市の南方、エリシヤンパークの崖下に添ひ、ローサンゼルス河の畔にあり、附近の風景頗る奇勝に富む、高橋の河に架せられたるあり、崖丘の高く聳ゆるあり、河流淺くして、傍らに養鳩園あり、是れ米國にて有名なる大養鳩園にして、飼養する所の鳩十萬、一日の飼料として穀類三噸を費し、其群るや雪の如く白く、物に驚けば飛で空に去り、廻飛してまた歸り來る、羽聲高く響きて絹を振ふが如く、鳴聲相和して轟々白を磨するが如し、養鳩園の西は乃ち日本人の農村にして、また多種の野菜を耕作せり、其距離の青物市場に近く、土地の肥沃なるを以て、野菜業者の此所にて成功せるもの少からずといふ、一二の農家を訪問して歸る。

六月六日 グリーンメドの野菜地を訪ふ、此地はローサンゼルス市の接續地にして、市の南にあり、其農業の狀態之をウエストアダムス等に比して稍々大農的に傾き、ヘイ、アルフルハ、馬鈴薯等を産出すれども、また野菜の耕作に適せり、此地にて南加州農業組合の組長久保常三氏を訪ふ、談話頗る興あり、坐に一人あり、眼光人に異なり、余其名を問ふ、答へず、只だ曰く、僕足下を知らば足れり、僕の名は足下之を記するに足らずと、已にして夜深更に達す、余辭して歸途に就く、久保氏の令閨燭を乗つて門に送り、久保氏余の爲めに馬車を用意す、二人車中に相語りて行く、四顧寂々、路邊の柳樹暗く、遙かに市街の電燈紫色を放ちて點々し、火光紅く天に映す

るを見る、余久保氏に彼無名氏の事を尋ね、久保氏曰く、彼は有名なる禪僧の農奴に變ずるものなり、故ありて踏跡すと、在米同胞の間、奇傑の野に隠れ、達才の市井に放浪するもの擧ぐるに違わらず、彼れまた何の期する所ありて然るやを知らず、已にして電車の停車場に迷するや、久保氏と相別れ、午後十一時家に歸る。

六月八日 市を距ること北東三哩にして、日本人の養鶏園を有するもの多し、フルーツランドと稱す、此日其地を訪ひ、久司喜一郎氏の内に一泊す、氏は曾て組合教會に於て余と友たり、此地の養鶏園は、胡桃園を利用し、其地代は胡桃の收穫を以て之を補ふ、是れ最も經濟的の組織にして、同胞養鶏家の成功見るべきものあり、此日途中葎園の傍らを通過し、不意に藤原兼松氏に邂逅す、氏は元と組合教會に於ける知友なり、今配下に十数人の勞働者を率ふ、此夜行きて其キャンプを訪ふ、氏は庭前の卓上に麥酒と鐵詰とを持來り、余を留めて、盃を舉げしむ、夜氣正さに凄涼、滴露衣を拂ひ、星斗欄干たり、庭柳枝を垂れて余等の頭上を蔽ふ、藤原氏は身長五尺四寸、ナイトガウンを被りて卓の傍らに立ち、自らビールを抜き鐵を切て余に贈ひ、傍らに二三の配下ありて之に侍す、キャンプの内には勞働界の健兒已に軒燈雷の如きあり、是れ一個海外勞働者奮闘の縮圖に非ずや、十時久司氏の宅に歸る。

六月九日 フルーツランドを去りて隣村ラグナに至る、ラグナは日本人野菜業者の多き地にして、

斯業の成功者少からず、板野富五郎氏を訪ふ、氏は始めて此地に野菜業を開きたるものにして體力剛健、よく柔道に長ず、野菜耕作に關しては最も經驗を有するもの此地の事情を語るに精細なり、午後二時辭して歸路横濱兄弟養鶏園を觀る、佐古田氏の經營せるものにして、現時三千五百羽の家禽を有す、羅府市街の北東、南ノート街にあり、已にして別を告げ、夕方に歸る。

六月十日 ハリウッド方面を視察す、此地は羅府を距ること九哩、カヘンガ平原の一部にして、土地清淨、風光麗美、白人の邸宅多く、日本人の發展地といふべからず、一キャンプの密相園勞働者の外、二三の野菜耕作者及び、洗濯所、下宿業者、日稼業者あるのみ、北は丘陵を負ひ、西南はカヘンガ平原を控へ、遙かにブレヤデルレー、ツエニス、オーシヨンパーク、の海濱に通ず、丘陵起伏の狀態頗る雅趣を呈し、恰も自然の公園を見るが如し、山の所々には四阿を設け、阪路曲折として之に通ず、而かも老樹深林の陰鬱たるものなく、短草稚樹砂石の間に生ずるのみ、此山脈は西北に走りて雄峻の山岳地となり、中にローレル山の險壁あり、邸宅區域には彩樓美閣あり、佳厦靜亭あり、垣々たる石路あり、家々の庭上、鮮紅濃紫、華を競ひ妍を闘はす、綠葉屋を透るものは、幽閑の情掬すべく、美花柱桁を纏ふものは、絢爛眼を幻せんとす、香芬風に薫じて滿地爲めに覆郁たり、春光閑なるの時、鳥聲自ら閑なり、朝には珠履露を拂ふの佳人あり、夕には花下月を踏むの紳士あり、吾人は我國奈良平安時代に於ける殿上人の住居のいかなりしかを知ら

す、然れども米人の理想とせるパラダイスなるものは、乃ち斯の如き淨土にあらざらむや、米國の地元と粗大豪宕の風景に富む、而も南加州の地、此優婉の雅地あり、是れ余の意外に感したる所なり、余一二の同胞を訪ひ、夕方コングロープより電車を取りて歸る、時に殘照雲に映じ、暮烟連丘の上を鎖して、ハリウスの街區恰も畫裏の光景を示し、遙かにローサンゼルスの電燈紫光閃々たるに對す、余恍惚として窓外の光景を顧みること久し。

六月十三日、バサデナに至る、此地は羅府を距る事九哩、人口二萬八千あり、シーラマドル連山の麓、サンギヤブレ平原の一部にして、南加州中、最も華麗の都市と稱せらる、レーモンド丘上、レーモンドホテル巨城の如く聳へ、附近の平野に黒緑の蜜柑園多く、紫霞遠く霞雲、綠草幽かに烟るを見る、ユカリタスの林、野を横ぎりて東に延び、白雪を戴きたるサンアセントの山、碧玉の如き空を掠めて、遙雲の間に漂ふが如し、サンバナデノ、サンゴルゴニオ、サンアントニオの諸山、何れも高さ一萬呎、其東南に方りて、連峰みな白帽を冠し、品々として日光に映するの美觀、是れ乃ち南加州特種の光景なりとす、レーモンドホテルの外、グリーンホテル、バサデナホテルの如き、又此地の大旅館にして、巍々堂々、壯大優美の觀を極む、市内の居住者は大抵富豪にして、社會的、生活の程度頗る高く、坦々たる街路四通八達して、輕便玉車、附近の名勝古跡を探るに適す、マウントローは此地の勝地にして、シーラマドルの山腹に電車を通じ、

遊客の登山に便ならしむ、山の高さ六千呎、麓より千四百呎の所にケーブルカーを設け、更に三千呎の間、山腹を迂迴して、電車線路を作り、之に登るもの、漂々乎として羽翼を九天に打つ感あらしむ、山の八合目の所に一の待合所ありて、宿泊及食事を爲すの便に供せり、山深くして老樹深溪を埋め、白雲下りて山氣人に迫るを覺へしむ、ウキルソンパークは、山中の清境にして、夏時此所にキャンプを作りて、静養日を消するもの多し、此地毎年一月、有名なる花行列を舉行す、是れ冬寒の季節、此地方唯一、美花の暖風に笑みるを示さんとするものなり、此日滿都の士女、千紫萬紅を折り來りて車馬を滿飾し、列を爲して市街を通過す、華燿幻麗、燦然眼を眩せんとし、東部の客之を見て節物其趣を異にするを驚かざるはなしと。

此日余は、市内の營業者一二を訪問し、更にサンタニータに至りて同胞の莓園を見、サンギヤブレの一部を通過して羅府に歸る、サンギヤブレは、加州の歴史に關係せる古跡を有するの地なり、千七百七十一年、ファーザー、ジュニバル、セラは、熱心なる信徒を率ひて此地に來り、印度人の一部落を發見して寺院を建つ、サンギヤブレの古寺なるもの乃ち是れなり、曾て墨其西哥人の市街地を此所に建設するや、寺院は其中央に位置し、後ち墨其西哥の勢力を失墜すると共に、此地今は荒草の古墳を埋むるを見るのみ、寺院の附近に、古き葡萄の蔓あり、是れ加州開發の當時、僧侶の栽培せるものにして、加州に於ける最初の葡萄なりといへり、此寺院に附

屬したる古き磨屋に付て小説的口碑の存するものあり。

千八百十八年、墨其西哥領、ブエノス、エーレスよりの巡邏船、サンタバーバラの沿岸を封鎖し、白人の侵入に備へたりしが、偶々一舟あり、沿岸に來りて岩礁に觸れ、舟の覆没せんとするや、數名の乗組は海中に投じ陸上に向て其危難を逃れんとす、巡邏船は之を見て信號を發し、サンタバーバラに於ける寺院の兵士は、直ちに警を聞きて海岸に來り、海中に溺れんとする侵入者を射殺したり、此時一人のアリヤン種族と一人の黒奴、辛くも海岸に泳ぎつきて墨其西哥兵の爲めに擒にせられ、將さに樹枝に縛して當時の酷刑に行はれんとす、此時ドンアントニオルーゴなるものあり、彼はローサンゼルスに於ける墨其西哥寺院の僧職を有するものなりしが、今まさに焚殺に付せられんとする一白人の凡骨ならざるを知り、衆を宥めて之を救ひ、馬に騎らしめて相共にローサンゼルスに歸り、之を配下の伐木隊に編入してシーラマドルの山下に送り、寺院建築に用ふべき材木の伐出に従事せしむ、此白人はいつしか、其勞働に馴れて、周囲の尊敬を得るに至り、後ち寺院に附屬せる風車磨屋の建設せらるゝや、彼は其建築を擔任したりといふ、現時、古寺の傍らに大なる石臼の破片あり、乃ち當時の遺物にして、之をチャップマンの石臼といへり、墨其西哥人の仲間は、此尊敬せる白人の爲めに妻を求めむとし、サンタバーバラの附近に一富豪の娘あり、眉目他に優れたるを以て、行て之を求め、騎を并べて彼

女を其中に護衛し、寺院に至りて結婚の儀式を舉げしめたり、チャップマンは此時黒き墨其西其婦人を娶りてより、長くシーラマドル山下に其家庭を保ち、地民の爲めに其名を記憶せらるゝに至りぬ。

第五節 ローサンゼルス郡日本人發展地の調査

ロスニトス方面 羅府の東南より太平洋に沿へる廣き平原あり、之をロスニトス平原といふ、サンギヤブレル河、ローサンゼルス河、共に此平野を貫流して太平洋に入る、ホイテヤ、ドーチー、ノーウオーク、アルテシヤ、カムプトン、フロレンス、ハイチス、ラグナ、モンタプロ、フルツランド、ガーテナ、モネタ、ベリ等を包容し、土地最も肥沃にして、日本人の農家到る所に散在す、就中主なる發展地は乃ち左の如し。
『ホイテヤ』 ローサンゼルスの東南二十一哩にして、土地高燥、清潔なる市街地を有す、胡桃、蜜柑、レモンの産地にして、日本人の農業發展地といふよりも、レモン園及び蜜柑園の勞働供給地といふを得べし。

明治三十五年十二月十四日、福岡縣人堤虎次郎、十人の勞働者を此地に入れ、グリツフインウエルのレモン園に勞働したるを始めと爲す、堤の去るや綿谷種太郎、三佐々川一太郎等之に代り、明治四十年七月、三佐々川の歸朝するや、近藤靜人之に次で勞働者の監督を爲すに至り、其他月

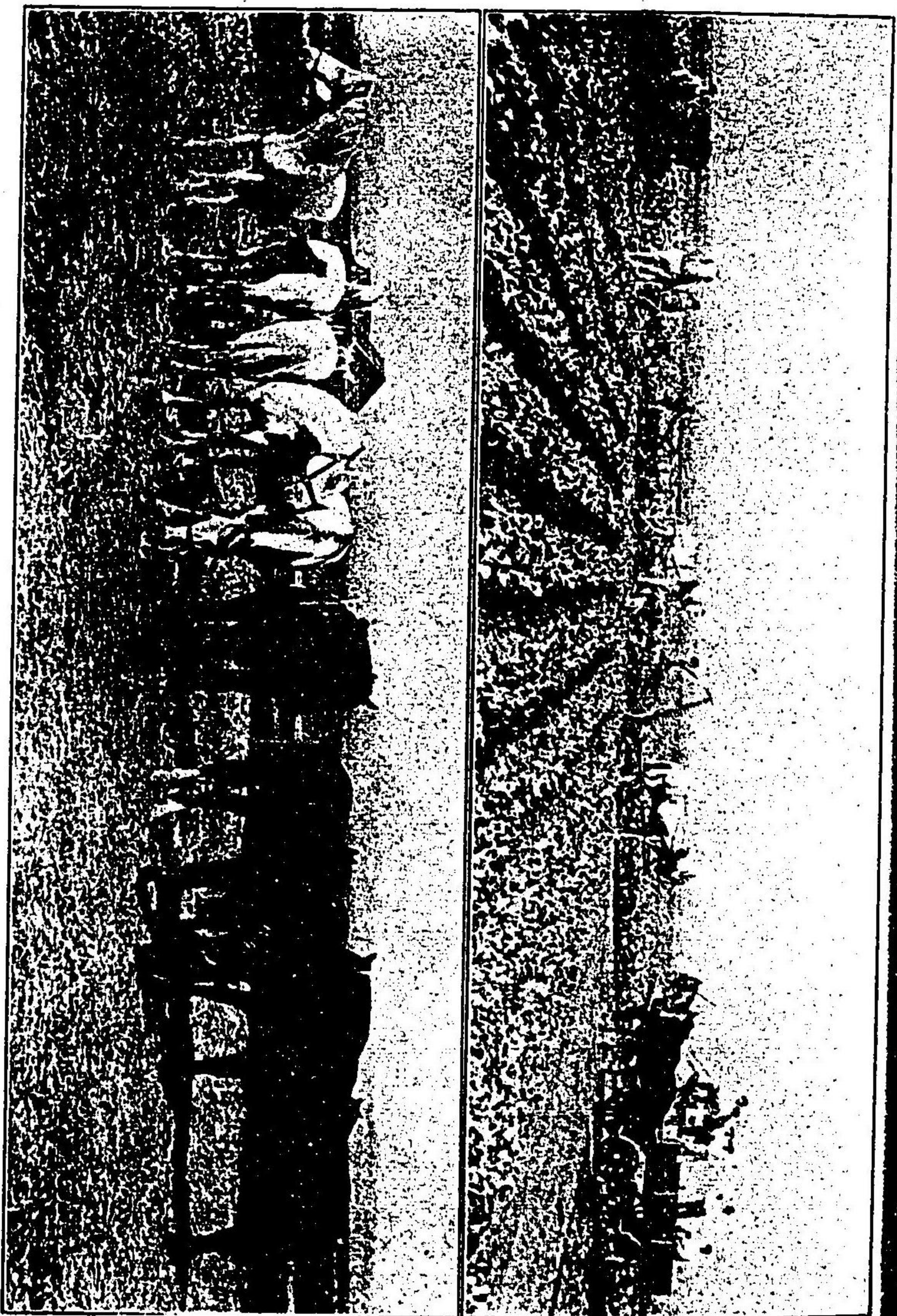
藤、波多野等のキャンプまた其附近に起り、之と共に此等労働者の中、農園の經營を爲すものあるに至れり、現時此地に於ける農園労働の受負契約者は近藤、月藤、波多野の三人にして、其他に野菜耕作を爲すもの二組あり、現金借地總て六十五エーカーにして、他に一の養鶏業者あり、労働請負者の姓名、及び其キャンプ労働者の數概略左の如し。

近藤 淨 人(廣島縣) 労働者 六十人乃至百人

月藤 友一(廣島縣) 労働者 十人乃至三十人

波多野 熊次郎(廣島縣) 労働者 七人乃至十五人

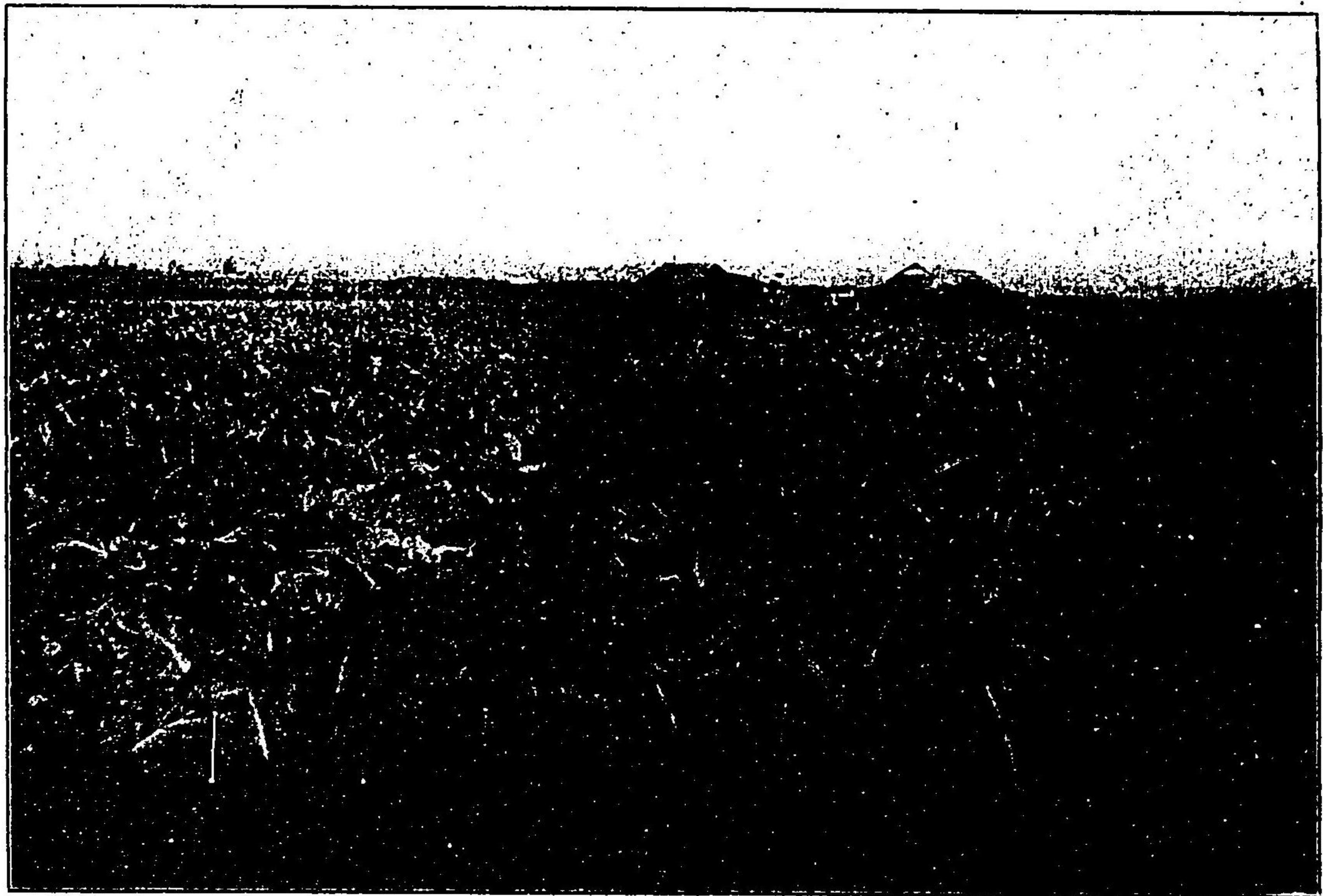
「ニューマーク」地方 リベラ、モンテプロ、ニューマーク、ピコは相隣接して殆ど一村の狀を爲す就中ニューマークは、羅府附近最も野菜業の盛なる地にして、また日本人部落の最大なるものなり、故に此邊を總稱してニューマーク地方といふ、此中ピコ、ニューマークにはソートレーキ線路の停車場あり、羅府の南東三哩半の所より三四哩の間に發展し、ホイチャと羅府との中間に位置して市場の便宜を有し、有望なる地方を以て目せらる、土地温暖にして降霜少く地味肥沃にして諸種の作物に適し、サンギヤブル河水を供給する會社ありて一般の給水を爲す、就中ピコ附近は一日の給水料二百五十時、日中一弗、夜中二十五仙にして、其他は一時一仙の水代を支持はざるべからず。



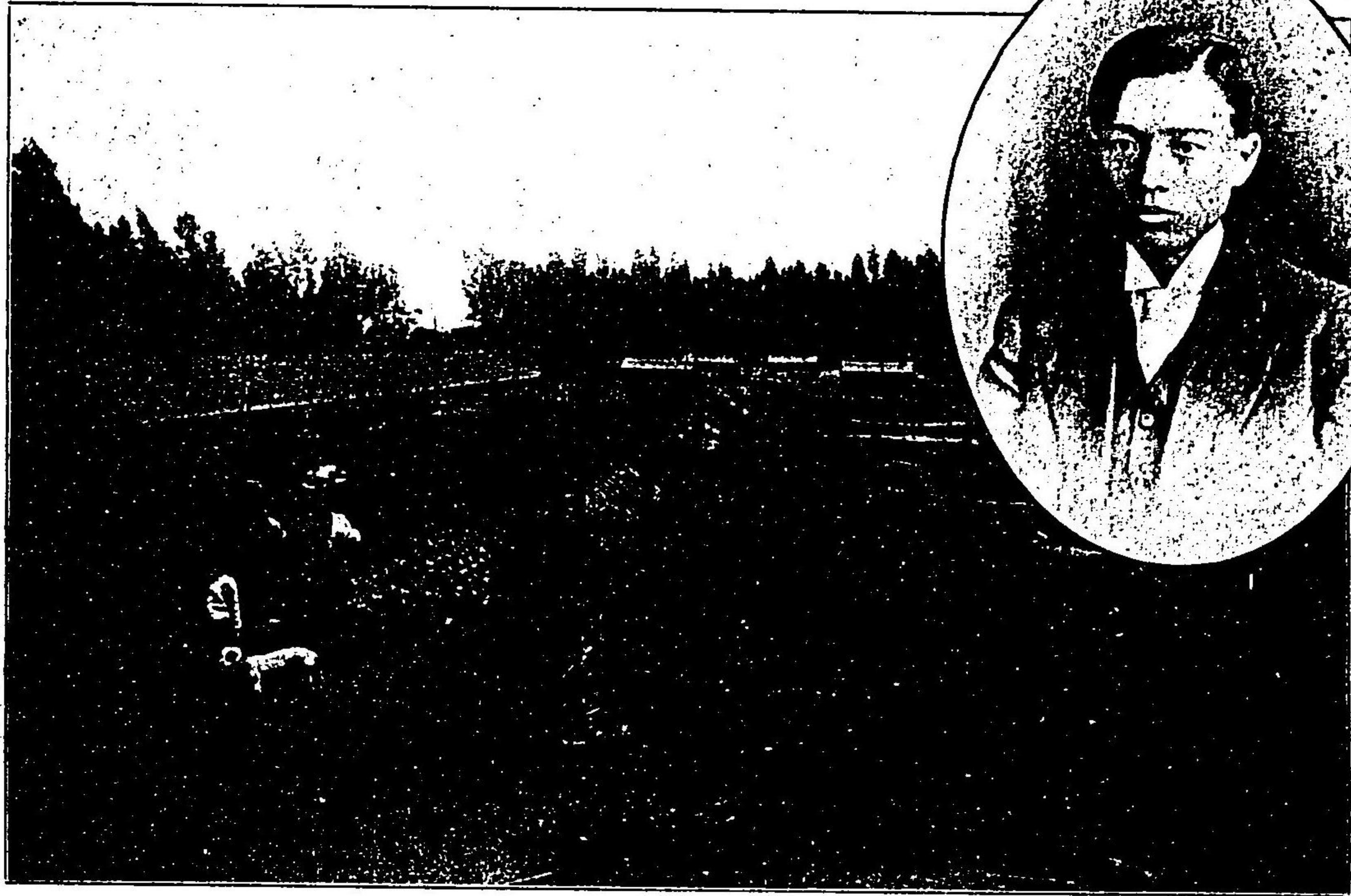
馬車の使用及び農具農園辛唐の盛園耶大直塚大 ロナタノモ近附スルゼンアス一ロ



ブンヤキ園菜野 籠長村野 ナガラ



(む望をブンヤキりよ園一ツラフリヤキ) 園農の邸次阪上檀いナガラ近附府羅

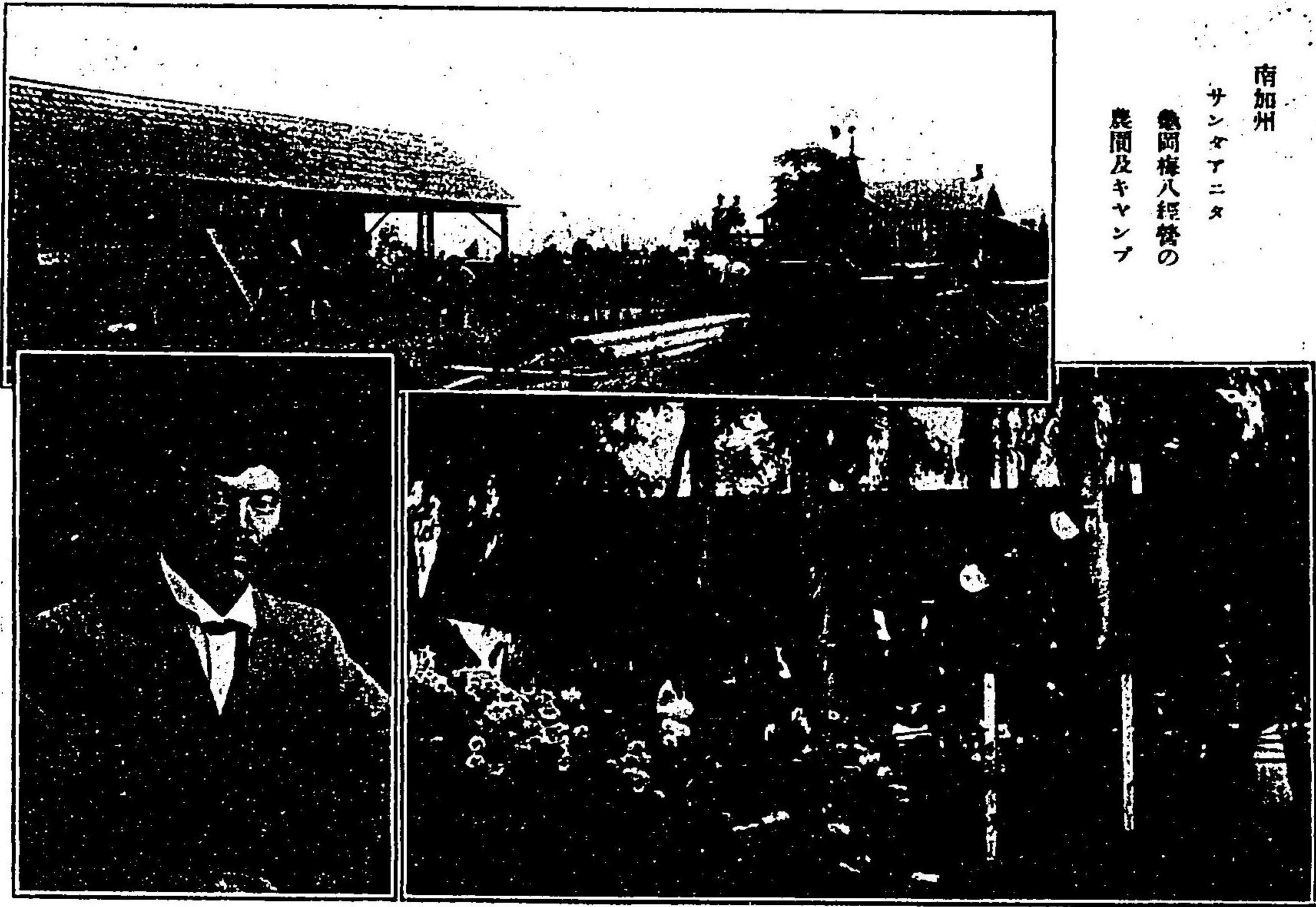


聞豚養に井園鶴養の熱經耶次多西小 ドンラツールフ近附府羅

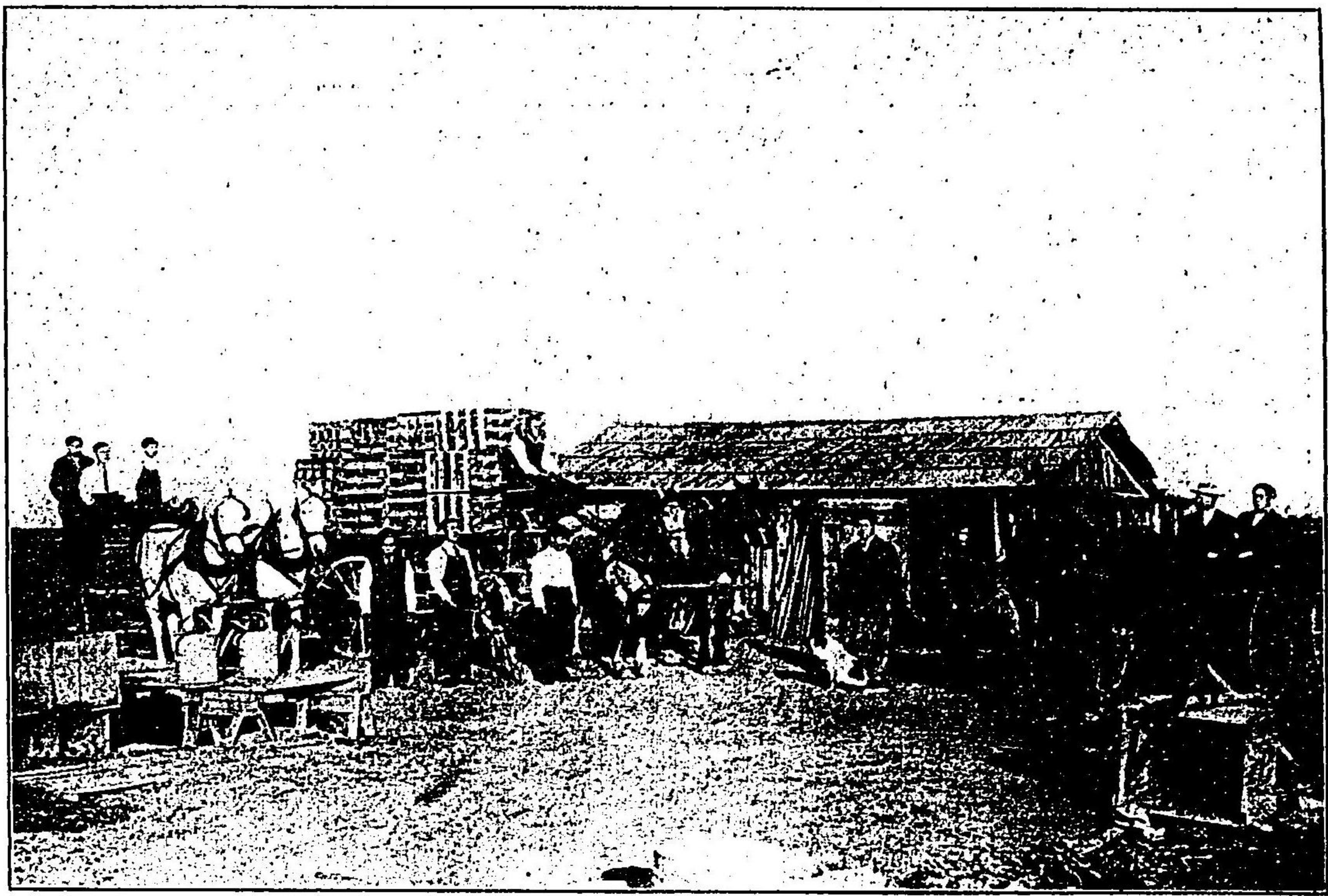


耶太作早風主園 所豚養び及園鶴養早風 近附市スルゼンアスーロ

南加州
サンタアナ
農園及キャンプ
梅八經營の

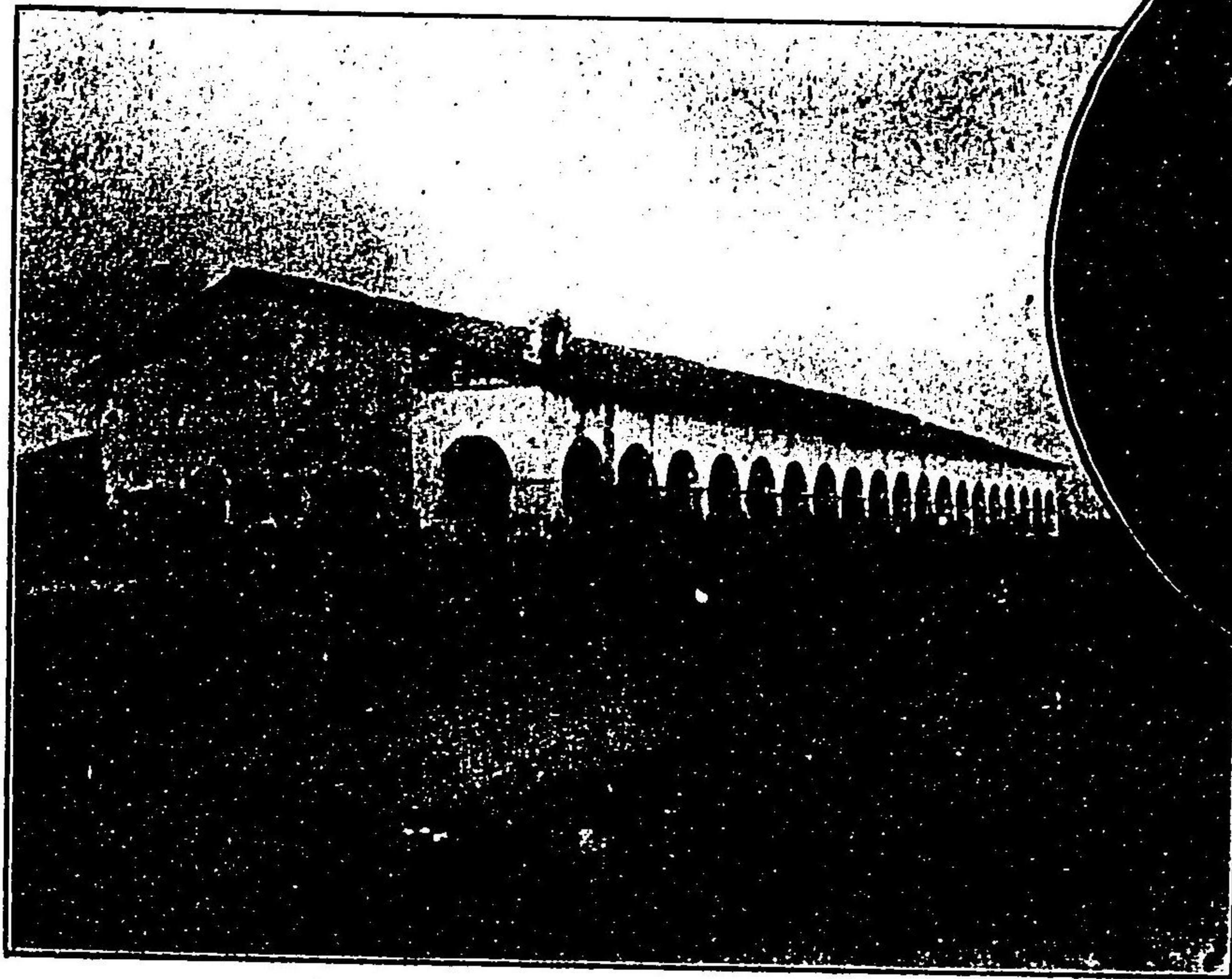


キヤンピングの撮影に際してのもる



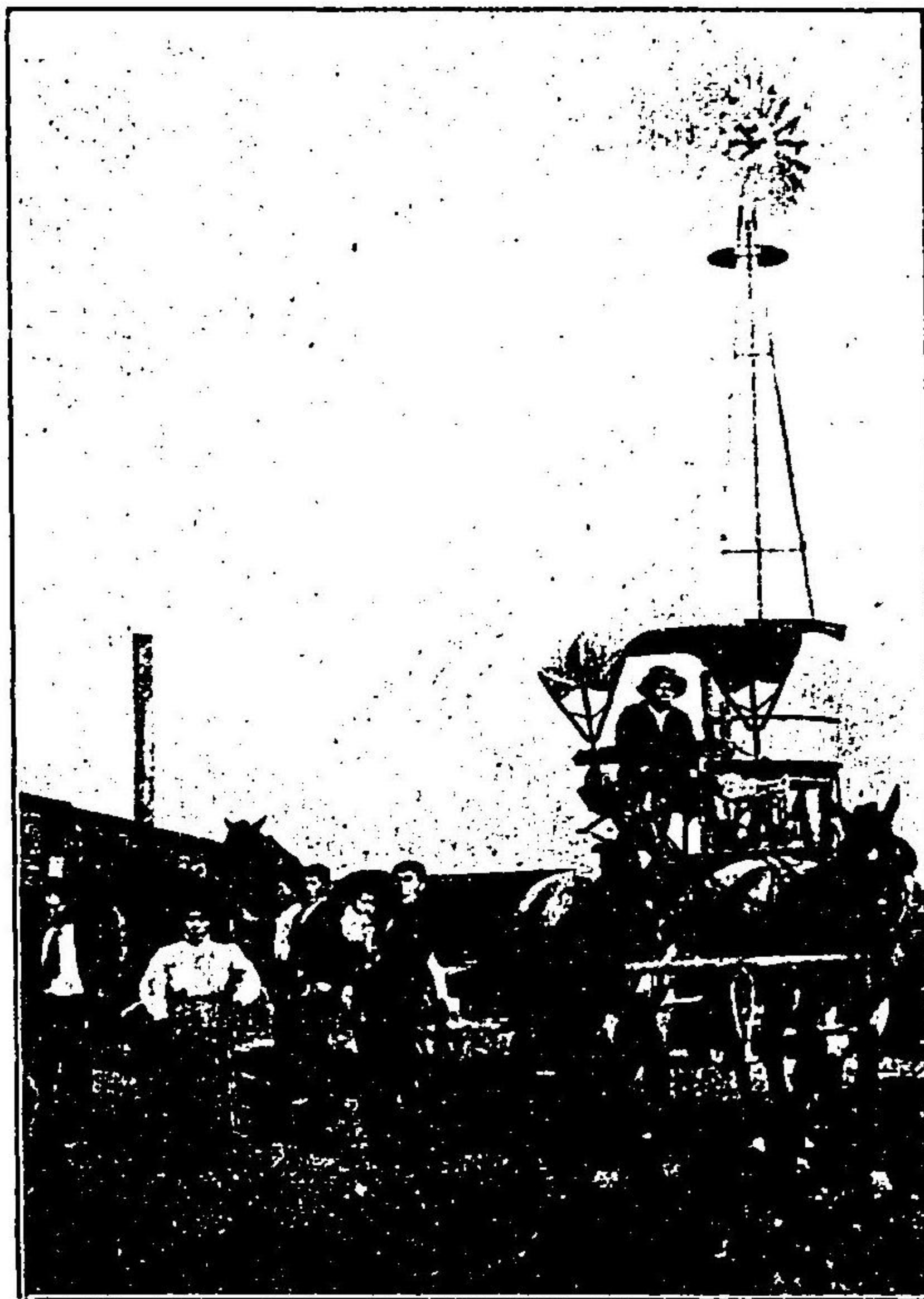
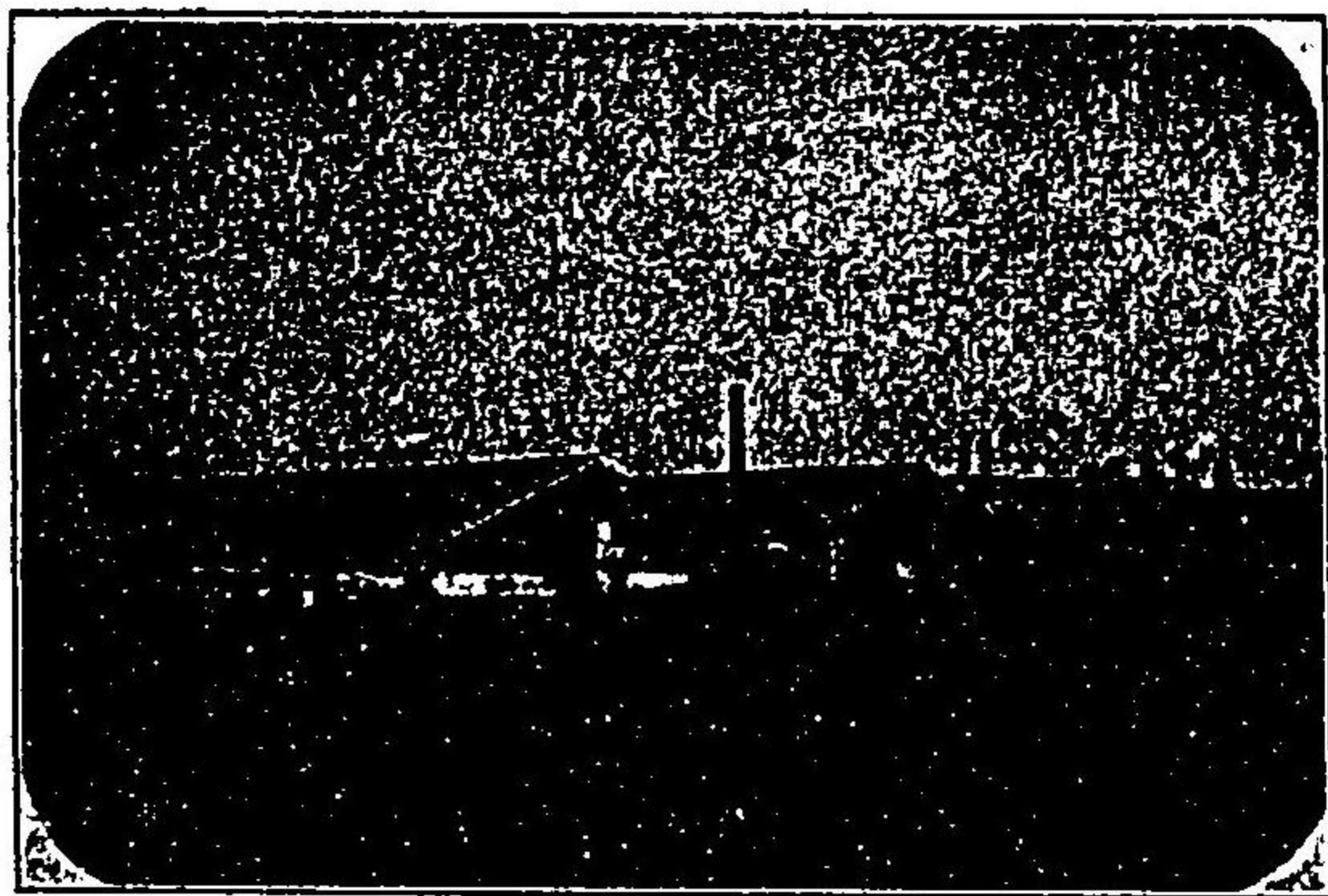
カリフォルニア州の野菜園とキヤンピング

の代時牙班西るけ於にドンナーアフンサ郡スルゼンサーロ
耶次繁畑小 者入先胞同地此と寺古



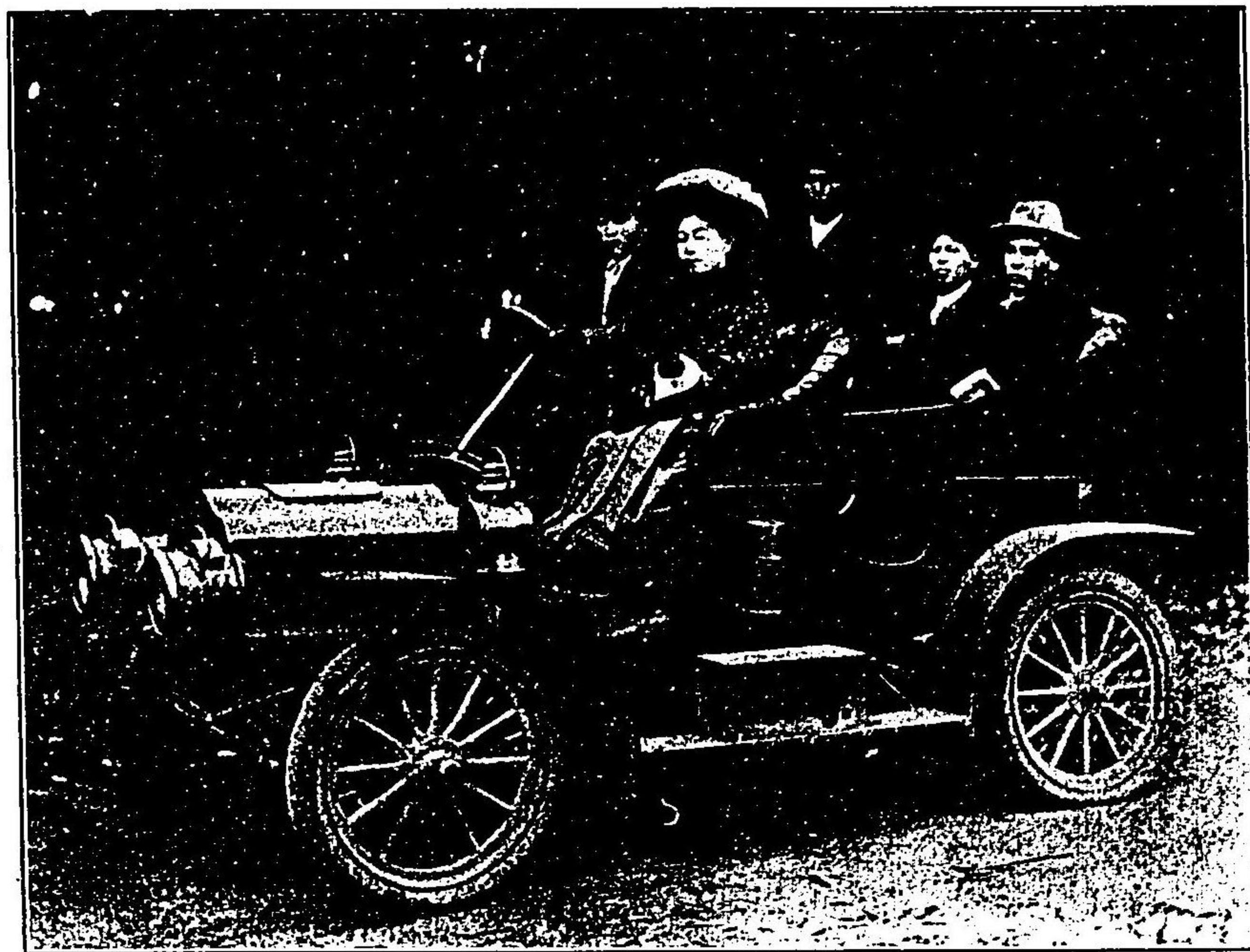
場詰箱物果と助之綾本吉 者業約契働勞のドンナーアフンサ

園花助之甚幡小 近附府羅



館族國中 街ンソクヤジ府羅

族家其と現農一新杉高 ナゾラ 近附府羅



族家其及植好東 者業園農 ドーメンリグ

明治三十八年、福岡縣人栗原忠助始めて此地に入り、大塚直太郎、中霜與一、新谷立助、久保吾一等相尋で至る、トロピコは南加州にて苺作の盛なる地なりしも、水利問題の爲めに農家の大恐慌を來たし、同胞相率ゐて此地に移轉せしもの多く、明治四十一年四月の現在にては、野菜耕作者は個人及び組合を算して八十二、定住者三百五十人、妻帯者三十名、明治四十年度の出生兒は九名にして總計二十名あり。

ラグナ、ビコの方面は尙優に三百人の定住者を容るゝに足る、明治四十年此地の日本人會を組織し、會長新谷立助、副會長宮原嘉一郎、幹事甲斐政次郎を選擧す、之を最初の役員とす、農産物は苺最も多く、其他各種の野菜あり、リユーベリーといへる木苺は、五月中旬市場に出すを以て、頗る高價に賣れ行き、ルバーといへる野菜は二三年前より試作中なり、土地の價一エーカー七百弗乃至八百弗にして借地料は一年二十弗乃至二十五弗なり、現時此地の農家はトロピコ、モチタに於ける苺作の前轍に鑿み、作物を一種に限らず。

現時の土地所有者

- | | | | |
|------------|------|------------|-----|
| 新谷立助(和歌山) | 一〇英町 | 阪本松太郎(和歌山) | 五英町 |
| 甲斐政治郎(熊本) | 一〇同 | 奥村平太郎(廣島) | 五同 |
| 山本音太郎(和歌山) | 五同 | 山田甚太郎(廣島) | 五同 |
- 野菜業者の外に、福井縣人宮前嘉四郎の經營に係る花園五エーカーあり、和蘭石竹、豆花、蕎麥

を植ゆ、六年以前よりのものにして二三年前より漸く利益を見るに至れり、明治四十一年十二月の調査によれば、此地日本人の現金借地は總て八百九十五エーカー、外に所有地三十五エーカーを加へて、全作地九百三十エーカーなり。

「ローランド」サンタファイ線路、ニューマーク停車場より東十二哩、ボモナの南十二哩、山梨縣人小澤伸一、橋田新三郎西班牙人より備はれ此地に入りたるを始めとなす、是れ明治三十九年一月の事にして、爾後俄かに日本人の移住者が増加し、明治四十年の如き一ヶ月十二戸の移住者ありしといふ、土地肥沃にして百時の給水を地主より爲し、エーカー二十弗の借地料を支拂ふべき契約なり。

明治四十一年末の調査にて、定住者五十名、妻帯者八名、小兒五名、組合及び單獨の農家共三十三、作地合計三百四十三エーカー半、内所有地十五エーカー、現金借地三百二十八エーカーにして多くは苜蓿耕作者なり、今土地所有者及び三十エーカー以上の現金借地者は左の如し。

土地所有者

今村千代松 (熊本)	一五英町	野菜
現金借地者 (但し三十英町以上)		
中島寅一 (佐賀)	三五英町	(イ)
内田鹿藏 (熊本)	三一同	(トメト)
内田末記 (熊本)	四四同	(イ)
		新井 一郎 (廣島)
		舟川 忠治 耶 (福岡)
		三五英町 野菜

「フルーツランド」羅府の南東三哩、サンタファイアベニュー電車の終點に近き所、日本人の相集りて養鶏を爲すもの多し、此地をフルーツランドといひ、今より六七年前始めて日本人の此地に入りたるより、漸次同業者を増加し、多きものは三千五百、少きも千五百の家禽を飼養す、一エーカーの借地料四十弗にして、多く胡桃園を利用せるを以て、別に胡桃の收穫あり、殊に市内に近きを以てキャベジを車にて運搬し之を其飼料に用ゐる來りたるを以て、頗る經濟的の經營を爲すことを得たるも、明治四十二年より羅府市役所に於て、市内の汚物は一定の特約者に一手の拂下を爲し、之を五十哩の外に運送し去らしむるの規定を設けたるを以て、此地の養鶏者は直接に其影響を蒙りたるが、基礎の堅牢なる養鶏業者は、他の方法に依りて今尚ほ此事業を維持し、其利益少からず、明治四十二年十月の現在にては、日本人養鶏事業に使用せる借地は總て三十四エーカーにして、家禽總計一萬五千二百羽に達し、豚六百頭にして、廣島縣人小西多太郎、加崎爲次郎、藤川登一、和歌山縣人久司喜一郎、湯川源次、等皆盛に其事業に従事せるものなり、養鶏業の外野菜及び苜蓿の耕作者五組あり、此借地總て九十五エーカーなり。

フルーツランドより北一哩半にして、また日本人養鶏者の小部落あり、南ソート街に屬し、横濱ポートリーと稱す、市の境を去る事四分の一哩に過ぎず、土地の借料一ヶ月十五弗にして、四年前石原某なるもの始めて此地に養鶏を始め、現時四ヶ所に區別し、借地十二エーカー、養鶏一萬

七百羽あり。

「ラグナ」フルーツランドの東に接し日本人の野菜耕作地なり、此地の借地料は一エーカー十二弗乃至二十弗にして、水代は一時間一弗とす、今より六年前、高杉新一、板野富五郎等始めて此地に入り、漸次同胞の此地に入るもの多く、明治四十一年末の現在にて、現金借地の總計五百六十三英町にして、之を他の野菜耕作地に比するに、其規模稍大にして、同胞の此事業にて成功せしもの少からず、定住者百五十名、内男百二十八、女十二、児童數二十人なり、ラグナは元とニューマーク地方に屬するものなれども、近時日本人の發展地フルーツランドの方面に開展せるを以て、鐵道線路以上は之をニューマークの部に屬せしめ、爰には其以南の調査を掲載したり。

「グリーンメドウ」羅府の南五六哩の所にあり、ロングビーチに達する電鐵線路に添ひ、各種の野菜を産出す、降霜あるを以て馬鈴薯を作るもの少く、青物市場に近きを以て莓及び野菜業者の利少からず、借地料エーカー二十弗内外、水代は一吋一弗とし、地價は一エーカー四百弗を以て普通とす、廣島縣人友瀧福太郎始めて此地に入り、山口縣人東好雄、佐賀縣人久保常三等來りて野菜の耕作に従事し、明治四十一年末の現金借地者は十組にして借地總計百九十七エーカー、定住者四十六人、妻帯者八人、児童五人あり、此地ワッツ停車場附近に、また明治四十年九月より廣島縣人中下伊八、竹本常吉等二十五エーカーの借地を爲し、後熊本縣人後藤喜三太等、同年十一

月より二十エーカーの借地を契約せり、借地料は水付にて三十弗なりとす。

「ウエストアダマス」羅府の西南隅、ウエストアダマス街の盡くる所にありて、今より六年前石原某なる者、人參を作り二年間に五千弗を得て歸朝したる事あり、是より日本人の來り、野菜園を經營するもの多く、始め支那人のアルハルハを耕作するもの多かりしが、日本人の侵入すると共に、彼等は他に轉じ、今僅かに二軒を残すのみ、借地料は一エーカー四十弗乃至五十弗、水代は一時間二十吋一弗なり、セロリ、人參、蕪菁、スピニチ、パッセリー、大根、大豆、ビズ、馬鈴薯、キャベジ、キャリフラワー等、殆んど三十餘種を産出せり、明治四十一年末の調査にては、現金借地者十軒、借地總計百二十エーカー、定住者五十七人、大抵十エーカー内外の借地者多く、市に近きを以て販賣上便利を有せり。

「モチタ及其附近」南加州に於て意外の發達を爲せるもの、之をモチタの葎園なりとす、ガーデン、ベリー、ストロベリー、パーク等また其附近の發達地にして、之をモチタ地方と總稱す、始めトロピコは日本人葎園の最も發達せる地方なりしが、灌漑水の缺乏に依り、其地葎園の衰微すると共に、モチタは重要なる日本人の葎産地たるに至れり、殊に降霜少き地なるを以て、他よりも二週間または三週間早く市場に葎を出す事を得るより、葎園に志ある日本人續々として此地に入り來り、一時其借地實に八百餘町に達したるが、明治四十一年葎の供給超過の爲め、市場の價

額を維持する事能はず、之が爲めに其事業を抛棄して逃走するもの少からず、然れども一方には
 耕作地の減少を見越して、荷園の維持に努めたるもの少からざりしと、其反動を豫期して新に植
 付を爲したるもの亦少からずして、其結果は豫想よりも良好なりしなり、此地方日本人の所有
 地は四十四エーカーにして、明治四十二年摘取期に達したる荷園は、七百二十一エーカー、新に植
 付けたるもの、百九十五エーカーあり、殊に此地は荷の外、野菜の耕作に適するを以て、他に二
 百十八エーカーの野菜園あり、現在の農家百六十八、定住者五百、妻帯者七十八、小兒九人、團
 體にはモチタ實業組合、モチタ婦人會等あり、現在の婦人會員五十五名にして白婦人の特志に
 成れる英語研究會、洋服裁縫教授所等あり、其外モチタ熊本縣人會、鹿兒島縣人會支部、福岡縣
 人會等あり、營業者としては、商店二、玉場三、湯屋一、理髮店三、豆腐屋一、大工一、肉屋兼
 魚店一あり。

土地所有者

- 假家藤太郎 (和歌山縣) 一〇英町
- 浦上辰丸
- 奥村平太郎
- 阪本音次郎 (廣島縣) 二〇英町
- 阪本増次郎
- 小川淺次郎 (和歌山縣) 五英町
- 森 爲 藏 (和歌山縣) 五英町
- 小橋甚之助
- 小 橋 龜 吉 (和歌山縣) 五英町
- 飯 嶋 敬 一 (東京市) 一ロット
- 『バーチット』 ロングビーチの北三哩、日本人花園業者の部落にして、氣候温暖降霜を見ず、海

上の濕氣を受くるを以て、桃蜜柑等に適せざれども、パイオレットの栽培には極めて適當せり、
 殊にシグナルヒルといへる小丘の傾斜面は早出の野菜を産し、意外の利益を得る事あり、ルーベ
 リーと稱する苜蓿は、十二月を以て花を開き、三月中旬市場に出す事を得、此地の特産として賞
 美せらる、トメト、綠豆、南瓜の如きまた早出の野菜として良價を有す、土地は一英町千五百
 弗内外、借地料四十弗乃至二十五弗とす、日本人の始めて此地に入りたるは、福岡縣人田中某に
 して、明治三十四年愛知縣人金原竹治郎等此地に入り、花園業を始め、爾後日本人の入り來るも
 の漸次に多く、借地二百三十八エーカー、定住者八十餘、妻帯者十五、小兒十人あり、南加州日
 本人發展地として、一種の特色を有する地なり。

『ロングビーチ及び其附近』此地は南加州有名の海濱地にして、羅府の南二十二哩に位置す、夏
 期白人の此地に避暑を爲すもの多く、規模大なる浴場あり、銀行及び商店あり、ターミナル鐵道
 及び電車の便ありて、羅府よりの電車賃二十五仙なり、此地にある日本人は白人向きの美術雜貨
 店三、洋食店一、玉場一、床屋一、桂庵六、日本人向きの雜貨店三、下宿業二あり、明治四十二年
 五月の調査にては、在住者二百一名、市内内住者八十人にして、市内營業者の外は家内勞働者な
 り、附近にアラミトス、シイサイド、ウイルミントン等の地ありて、此等の地にあるもの凡て四
 十人内外なり、團體には日本人會ありて會員百名、役員十三名あり、此地日本人の土地所有者六

名あり、またアラミトス灣の附近フレッド、ビックスビー氏の農園を借地し、農業に従事するもの四組、借地總計三百十エーカー、セロリ及び野菜を耕作す、其姓名及びエーカー數は左の如し。

- 芝地藤三郎 外一名 (和歌山) 一〇〇英町
- 野中吉助 外一名 (和歌山) 四〇同
- 藤本金次郎 外二名 (和歌山) 五〇同
- 中地勘七 外二名 (和歌山) 一〇〇同

「サンビードロ」此地は羅府市の一部にして、將來加州に於ける巨港たるの運命を有す、現に米國政府は巨額の補助を與へてローサンゼルス市の一大事業として、其築港をなすつゝあり材木製造所、漁業、雜誌會社の製品は東部のフロリダ、ニューヨークと盛に取引を爲し、生魚の多くはローサンゼルスに販賣さる、キヤタリナ島遙かに其前面に横はり、東に燈臺あり、灣の東にタミナル半島ありて、釣魚及び海水浴を爲すもの多し、羅府を距ること二十四哩、南太平洋鐵道及びソートレーキ鐵道の便あり、車賃三十五仙、市街を三區に分ち、一を材木置場、二を營業區域、三を住居區域とす、燈明臺のあるポイントフェルミンには電車の便あり、現時人口七千あり、近時日本人の此近海に漁業を爲すものあり、然れども尙は創業に屬し、今詳細の調査を得るに由なく、また家内労働者或は附近農園に従事するものあらず。

ボモナ地方 サンアラントニオ河の流域、ボモナを中心とせる一帯の地、之をボモナバレーと稱す。

し、サンアラントニオ河の水利に依り、氣候土質、柑橘類に適し、此附近果樹園の廣さ、五萬英町に上るといふ、日本人農家の發展地にあらざれども、柑園に労働者を供給するものありて、漸次土地を求め、オレンジ及他の果物園の栽培を爲すものあるに至れり。

「ボモナ市街附近」ボモナは羅府の南三十四哩にして、人口七千あり、南太平洋鐵道、ソートレーキ鐵道の外、サウサンカリホルニヤ電氣鐵道の三線路を有す、今より七八年前、加藤某七八十名の労働者を率ゐて此地に入り、白人労働者の脅迫に遇ひたるも、之に抵抗して此労働範圍を維持し、今や純然たる日本人労働地となれり、加藤は其後三千弗を拵帶して此地を逃走し、彼の經營したりしキャンプは其後三四人の交代ありて、明治四十一年三上太一の代、佐々木千代登に譲り、今佐々木キャンプと稱するもの是なり、其他細川キャンプは明治三十八年、垣内キャンプは三十九年、廣瀬キャンプは四十年より労働者を供給す、受負者の姓名及び部下の人員左の如し。

佐々木 千代登 (廣島縣)

労働者三十名

廣瀬 重廣 (山梨縣)

労働者三十名

「サンデマス」ボモナの北五哩、南太平洋鐵道及びサンタファイア鐵道線路に沿ひ、レモン、オレンジを産す、ボモナと同じく、柑園労働地なり、農業者として高知縣人田中豊吉、現金借地十エーカーを爲すのみ、労働受負業者としては、吉田伊造、田中豊吉、土居某の三キャンプあり、吉田キャンプは労働者六七十人を使用し、此地にて大なる受負區域を有せり。

「コピナ、アツサ、アーウインデル」白人の農園に労働する日本人あれども、ボモナ、サンデマ
 スと趣を異にし、苺及び野菜の耕作を爲すもの少からず、羅府より二十四哩の東にして、南太平
 洋鐵道の線路に添ひ、殆んど純然たる日本村の状態を爲す、コピナには、借地農業者八軒、
 借地面積九十八エーカー、作物の大部分は苺にして、野菜の耕作者もなきに非ず、人口七十八名
 内女六人、小兒三人あり、アツサには岩手縣人菅原善作の現金借地二十一エーカー、分配作地五十
 エーカーあるのみにて、アーウインデルに所有地三十一エーカー、現金借地六十五エーカーの
 り、土地所有者の姓名及び面積を分てば左の如し。

町田榮次 (山梨縣) 一〇英町

町田榮次 (山梨縣) 二〇英町

サンギヤブレル地方 サンギヤブレル平原は、郡内最も富饒の地にして、面積凡そ一百平方哩、
 シーラマドル山脈の南に開展し、相橋類、果物類、及び野菜、苺等の栽培を爲すもの多し、バサ
 デナ、アルハムブラ、モンロピヤの如きは、其中最も發達せる農園地なりとす。
 「バサデナ」此地は白人の居住地として、壯麗なる邸宅多く、從て日本人の家内労働を爲すもの
 少からず、また東部より米人多きを以て、美術店、洋食店、植木屋等の事業に従事するものあり、
 土地所有者三名あり、中農園地二十一エーカー半、屋敷地二ロットあり、現金借地農家二軒、借地面
 積二十五英町、市内營業者には美術店三、洋食店二、旅館三、桂庵一、植木屋一、湯屋兼床屋一

球場二、洗濯屋二、寫眞屋二、大工一、畫家二あり、乃ち戸数は十五、定住者の數三百人にして、
 内二百七十人は労働者なり、宗教團體としては組合教會あり、宮城縣人渡邊啓徳牧師として之を
 管理し、また日本人青年會あり、渡邊信藏會長たり、土地所有者は左の如し。

大和商會 (山梨縣) 一ロット
 河井 (東京市) 一ロット

城 甚次郎 (和歌山縣) 二エーカー半
 谷 市藏

「サンタニータ」バサデナ市の東にして、サンタファイア鐵道線路に添へり、此地にポールドウイ
 ンの大農園三千英町あり、日本人の此農園に働くもの少からず、近年熊本縣人村上叶、同志と共
 に此地に日本人部落を建設せんとし、ポールドウイン農園の幾部を借り、苺園を經營するに至れ
 り、今より七年前愛媛縣人龜岡梅八、ポールドウイン農園に入夫を率ゐて入りたるを日本人の先
 驅と爲す現時三千英町の園地を契約して五十名以上の労働者を入る、現時日本人の現金借地面積
 三百エーカー、農家四十七軒、分配作地七十五エーカー、労働受負契約者二名、平時七八十名の
 労働者あり、

「アーケデヤ」サンタニータの南に接し、サンタファイア鐵道アーケデヤ驛を下りて少しく東に方
 れり、廣島縣人野村政一山口縣人友安幸次郎等始めて此地に入る、是れ今より四年前に屬す、借
 地料は一エーカー二十弗、水代は一時間三十時五十仙なり、主として苺を耕作し、アリンナ、墨
 其西哥等に直接輸送の便あるを以て、他に比して耕作者の利益多し、農家の數十四、借地面積七

十七英町、他に分配借地六エーカーの耕作を爲すもの一名あり。

『モンロピヤ』 サンタニータに接し、サンタファイ線路の傍にあり、熊本縣人村上宇一等五十エーカーの地を借り、トロピコより此地に入りたるを始めとす、爾後日本人の此地に來りて存の耕作を爲すもの多く、地代一エーカー三十二弗なり、現在農家十一、借地面積四十八英町あり此地の如きは一二年前、莓の市場下落の爲め甚しく打撃を受けたる地方の一なり。

『エルモンテ』 モンロピヤに接し、農家三、現金借地二百一エーカーあり、内二百六エーカーは野菜にして、僅かに四エーカーの莓園あり、愛知縣人龜岡梅八の借地百八十一英町は此地にて最も大なる作地なり。

サンフアナン地方

羅府の北に方り、兩山脈の間、一大平地あり、之れをサンフアナンとバレーと稱す、此地方また日本人の農業者少からず、トロピコ、グレンデル、パーバンク、グレンデルの如き、一時最も人氣ありしが、近時莓園は繁榮を他の地方に奪はれ、甚しく衰微を呈したる地方なきにわらず、オリブ、小麦、葡萄、アツブリカット等を産す。

『ロスフェルトロード』 羅府の北西、エリシヤンパークの崖下、サンフアナン平原に對して日本人の小部落あり、各種の野菜殆んど適せざるなく、借地料一エーカー四十弗内外、地價は市街地に近きを以てエーカー千弗を稱す、和歌山縣人加藤豊長、六年前始めて此地に入り、爾後日本

人の來るもの多く、元と支那人の野菜作地なりしも、今は一軒の支那人農家あらず、日本人の農家八、在住者四十五人、妻帯者四人、小兒一人あり、現金借地百一十一英町、内九十一英町は野菜園、二十英町は莓園なりとす。

『イーグルロック』 其地に巨巖あり、形鷲に似たるを以て、イーグルロックと名づく、ローサンゼルスに北に當り、ガーバンザ及びグレンデルの間に位置す、近時電車の開通すると共に、遽かに白人の住宅を此地に建つるもの多く、山間の一小部落、僅々二年にして、已に小市街の状態を爲すに至れり、霜害なきを以て日本人の莓、トマト、野菜等を耕作するものあり、借地料は一エーカー三十弗なるも、今や農園として借入るべき土地乏しきに至れり、今より五年前、岡山縣人野美山愛之助、八エーカーの現金借地を爲して此地に入り、其翌年高知縣人堀見恭作地所二十エーカーを買ひて此地に入る、已にして堀見恭作死去し、地は未亡人堀見小笑子の所有たり、其他に歩合作地を爲すもの四軒、借地面積百五十餘エーカーあり。

『トロピコ』 羅府より八哩の北に方り、純然たる日本人農村の状態を爲すもの之をトロピコとす、太平洋電鐵、及び南太平洋鐵道の便あり、實に南加州に於ける日本人莓園の元祖地なりしが、近年羅府市街の發達すると共に、市内の用水缺乏するの恐ありて、此地方に農家の灌漑井を掘る事を禁じ、之が爲めに同胞の多くは、他の地方に移轉し、留まりたるものは、種々の善後策を講じ

て其維持に努めたるも、遂に頽勢を挽回するに由なく、加之苺市場は近年供給超過の爲めに價額の低落する事甚しく、遂に多数の苺園は、之を鋤返へして、他の野菜を耕作するもの多く其借地面積また大に減少せらる、現時の農家三十四組、現金借地面積二百三十一エーカー、内野菜百三十二エーカー、苺九十一エーカーなり。

此地の苺は、始め市場に聲價を有し、種類はブランドワイン、エキサソ、クロンダイク等にして、質固くしてよく長時間を保ち、其需用また多かりしが、今やまた昔時の盛運を見る事能はず、此地開發の始めは、今より九年前、熊本縣人三原茂數、白人の供水器械場の労働に従事し、備主の信用を得て、遂に墨其西哥人、支那人の労働者を逐ひて、之に代ふるに日本人労働者を以てし、三原は其監督者となりて漸次に其地歩を作り、遂に地を借りて苺を作るに至りたるが、當時苺は南加州の市場に珍重せられ、一箱の代價六仙を唱へ、三原は之が爲めに意外に巨利を博し爾後日本人農家の入り来るもの多く、二年にして十軒となり、三年にして十五軒となり、一時百餘軒の農家を見るに至り、其收穫期には、殆んど七百人の労働者此地に入り來りたる事あり、然れども此反動として、苺の市價は年々一仙宛を低下し、明治四十年に至りては、三仙弱となり、四十一年には二仙以下となり、遂に全部の覆滅を見るに至れり。

『グレンデール』此地はトロピコと相接し、其地勢状態殆んどトロピコの一部といふも可なり、

現在の農家十二、現金借地の面積百三十一エーカー、内野菜作地百二十一エーカー、苺二十八エーカーあり、始めは十中八九苺園なりしも、市況の不振以來、多く他の作物を耕作するに至れり。

『バーバンク』グレンデールに隣し、トロピコ、グレンデールより苺業者の此地に轉じたるもの多し、一時三百五十一エーカーの苺園ありしも、明治四十二年一月の現在にては二百エーカーに減少したり、然れども苺の年齢若きを以て、之を前兩地に比すれば、尙之を維持するもの多く、農家十九、現金借地二百六十一エーカー、内苺百六十一エーカー、野菜四十四エーカーあり、他に分配借地三十一エーカーあり、定住者の數四十餘名、内妻帯者九名、小兒また九名なり。

『ダンデー』羅府を去る事十四哩、一時ダンデーの日本村と稱し頗る其聲の大なりしにも拘はらず、地味及水利上に缺點ありて失敗に歸し、今僅かに留るものあるも前途發達の望み少し、此地の如きは日本人の土地賣買者が輕卒なる計畫を以て自他共に失敗せる一例を示すものなり、彼のリビングストンの大和殖民地と同一の失敗たるを免れず、現時の所有地二百九十一エーカーにして、小島管吾の二十三エーカー、奥住猶文の二十一エーカー、河原豆太郎の五十一エーカー、河合大三の七十一エーカー、澁谷清次郎の十六エーカーは其中の大なるものなり。

『フアーナンド』バーバンクの北にありて、羅府より二十一哩を距つ、西班牙時代に於ける古利の遺跡地として其名を知られ、多く橄欖を産す、明治三十五年、廣島縣人小畑繁次郎數人の

労働者を率ゐ、此地オリブ園に労働したる以來、日本人労働者の年々入り来るものありて、現時此等の労働受負業者三人、借地農家五組あり、現金借地面積百英町にして、多くトメトを栽培し、其他馬鈴薯及び秣草等を作るものあり、土地肥沃なれども灌漑に乏しきを以て従來發達遅遅たりしも、オーエン河疏水工事の竣工後は、此地の發達必ずや著しきものあるを疑ふべからず、労働受負業者として、在住するもの左の如し。

小畑繁次郎(廣島縣) 労働者 十七八人 川野宮野(廣島縣) 労働者 二十人

吉本 某(山口縣)

附二 橄欖の事

サンフアーナンド平原は、最も橄欖の産地として其名を知らる、今此植物の事を記して讀者の参考し、此植物は頗る歐洲人の貴重するものにして、其壽命の長く、生産力の熾なる事、遙かに他の植物に越へたり、羅馬ベチカンの花園に植ゑられたる橄欖は、實に一千年の壽命を保ち、ホーリーランドにゐるものは尙ほ長き歳月を経過したるものなりといへり、歐洲伊太利の地は最も此植物の産出に適し、國民の主たる収入は、一に橄欖油にして、其産出量一年七千萬ギャロンに上るといふ、加州の橄欖油また純良なるものとして知られ、其高價なるものは藥品として肺病の豫防劑に用ゐらる、性肥沃なる平原地を好み、其油は一種の風味ありて、濕りたる沃地に生じ

たるものは其油重厚にして、乾燥地に生じたるものは其油質また輕快なる美味を有す、此植物はあまり灌漑を要せず、製油の目的を以て植ゑられたるものは十五吋の降雨にて可なり、太陽の光線を好むを以て、過度の密集を爲す時は其發達充分ならず、十一月より五月までの間摘取り、筒屋にて之を乾かし、一週間を経て、製油を爲す、實を集むるには、始めは落ちたるものを拾ひ、次に木を振ひて之を落し、後には長き竿にて之を叩くなり、油を取りたる滓は燃料に用ゐられ、其他園地の肥料、家畜の飼料に用ゐる得べし、他の草樹に比すれば虫害なく、唯だ海岸の濕地にブラックスチールなるものあり、よく注意せば大害を爲すものに非ず、加州ボモナには歐洲種の改良されたる苗木を産する事多く、また其實を酸漬として諸方に輸出す、改良種は三年内より實を生じ、三四年のものよりは二ギャロンの實を得べく、樹木の成長は一世紀を定限と爲す。

カヘンガ平原 サンタモニカの附近より一帯の山脈東に走るもの、之をサンタモニカ山系といふ、山の南方に平地あり、カヘンガプレーと稱す、氣候温暖、降霜の憂なく、冬の野菜を産し、また果樹の好栽培地なり、然れども此地方は夙と白人の着目せる所にして、日本人發展の餘地乏しきを免れず。

『ハリウッド』 羅府の西北六哩にして、氣候温暖、風光最も閑雅なり、白人の邸宅多く、宅地一口の代價千貳百弗内外なり、同胞の市内労働者少からず、土地所有者として東京府河原才一の

十ニーカーあり、現金借地は僅かに十五ニーカーにして、市内業者には、桂庵二、デーウオー
 ク屋三、下宿屋一あり、コングローブはハリウッドに接する地にして、オレンヂ及レモンを産す、
 三重縣人野村某、十數名の勞働者と共にオレンヂ及びレモン園の勞働を契約するのみ。
 『シヤーマン』コングローブの西、二哩半の所にある地方にして、支那人及び日本人の野菜を耕
 作する地なり、農家三、現金借地面積六十三ニーカーあり。

『ボートローサンゼルス』サンタモニカより一哩半の西にあり、純然たる日本人の漁村にして、
 今より十五年前、豊田、上野川、佐野の三人始めて此地に入りて漁業に従事したるに始まり、其
 後著しき發達なかりしが、明治三十九年の頃、忽ち三十七八軒の漁戸、五十餘名の定住者を見
 るに至り、一時白人の漁夫來りて夜中船を毀ち、網を奪ひ去りたる事ありしも、現時其妨害なく、
 一方にはローサンゼルス市に於ける魚類の需用増加すると共に、遂に今日の盛況を見るに至れり、
 前は直ちに海濱に接し、後ろにサンタモニカカニョンの絶壁高く峙ち、風景また奇勝に富めり、
 魚類は、鱈、比目魚、鮪、鯖、鰯、シラス、バラクダ、ボンブラ（真名鯉の一種）等にし
 て、沿海の魚類一としておらざるなく、漁期は一月より六月まで閑散にして、六月より十二月ま
 で最も盛なり、漁夫の収入は、之を一年に平均せば一人毎月の収入、七八十弗乃至百弗にして、
 此収入中より漁具其他を支拂ふべきものとす、漁法は釣を主とし、網漁もまた盛なり、釣漁は三

百弗乃至五百弗にて着手し得べく、網漁はギヤスリンボート及び網を要するを以て、一組三千弗
 乃至三千五百弗を要すべし、網伐は四五哩より十哩の沖にして、現時ギヤスリンボート三艘を有
 す、漁獲物は電車の便ありて之をローサンゼルスの市場に輸送せり、明治四十二年一月、同業者
 は組合を組織し、組長に佐野初次、會計及び幹事に和泉田喜一郎を選び、評議員は一棟一人と定
 め、全く獨立の小自治體を爲せり、此地は漁村として有望なるのみならず、夏期はローサンゼル
 ス市にある日本人の爲めに好個の海水浴場にして、是等の便を謀るが爲めに和泉田喜一郎の經營
 せる旅館商店及び玉場あり、夏期は客室常に充滿して、營業また盛なり、今現在の漁夫を列記す
 れば左の如し。

- 中間太郎(沖繩) 中村軍次(靜岡) 都田多一郎(鳥取) 山内美保(沖繩) 加藤安太郎(和歌山) 池淵勇吉(鳥取)
- 金城盛功(沖繩) 田中安七(和歌山) 都田清松(鳥取) 佐野初次(千葉) 高木兼三郎(千葉) 橋本數一(和歌山)
- 徳島豊松(鳥取) 門司彦市(和歌山) 小倉秀楠(和歌山) 豊田松三郎(和歌山) 松本榮太郎(和歌山) 外 二 名
- 上野虎吉(和歌山) 谷 新太郎(和歌山) 桑原伊之助(和歌山) 宮田平藏(靜岡) 茂田乙吉(和歌山) 櫻田熊吉(靜岡)
- 小豆嶋源藏(和歌山) 岸山 音吉(靜岡) 服部作二郎(靜岡)

ローサンゼルス郡成業列傳

△大塚直太郎 福岡縣嘉穂郡上嘉穂村の産にして、明治五年生る、明治三十二年十月桑港に上陸
 し、オークランドにある事二ヶ月、其れよりボートランドに行きて鐵道に働き、三十三年一月サ

クラメントに歸りて暫く農園に勞働し、更らに布市、サリナス、キャストロピル等に働きたりしが、明治三十四年一月より四ヶ月間伐木に従事したり、已にして福岡縣人大石某の受負ひたる大根園五十エーカーの又受けを爲して、七ヶ月間に三百五十弗の利益を得、其翌年サリナスに於て、三人共同にて大根園三百英町を作り、二人共同にて馬鈴薯園百英町を耕作して、二ヶ所の利益千四百五十弗を得たりといふ、乃ち之を資本としてローサンゼルスに來り、西ポイナリーといへる所に、七百五十弗を以て荷蘭十四英町を経営したるも此事業は失敗に歸し、更らにモックンゾラーといへる地に、八英町の現金借地を爲し、之に苜蓿及び野菜を植へ、傍ら自身は晝間十時間の日傭勞を爲し、朝夕の餘暇を以て己れの作地を耕作したるに、此年の收穫巨額に達し、更らに他に二十五英町の地を借りて、之に豆、蕎麥其他の野菜を作りたるが、其年高の價一クレット二弗五十仙を唱へ、四百五十クレットの利益千二百二十五弗に達したりといふ、是に於て其中二百五十弗を日本に送金し、六百弗にて馬四頭を求め、其翌年はペーラルツラツキの地、三十英町を借りて、玉葱及馬鈴薯を栽へて、三千弗の利益を得、翌四十一年には、ニューマークの地四十英町を借りて其利益一萬千弗を得、更らに一英町六弗にて百英町を借りて之に秣草を植へ、一英町一噸半の收穫を得、一噸十五弗として二千二百五十弗を得、此年また七十五英町の野菜園より、毎英町百五十弗の收穫ありて、凡そ一萬弗の利益を得、他に二十英町の作地より、三千弗の利益を得たりと

いふ、乃ち五千弗を以て馬十九頭を求め、益々事業を擴張して、大農的の經營に従事せり、彼れ兄弟三人あり、乃ち一は農園を監督せしめ、一は白人野菜仲買商との交渉に當らしむ、今より三年前、故國より妻を迎へて已に二子を擧ぐ、南加州野菜業者中の成功者と稱せらる。

△渡邊清太郎 同 信藏 共に廣島縣佐伯郡地御前村の産にして、兄を清太郎といひ、弟を信藏といふ、清太郎は明治五年を以て生れ、信藏は明治十一年生る、明治二十四年清太郎先づ渡米して桑港に上陸し、二十六年羅府に來りて勞働に従事す、此年信藏また渡來して羅府に來り、暫く勞働に従事せしが、間もなくバサデナに入り四人の共同にて一の洋食店を始めたるが、一ヶ年の後ち、三人の共同者は此事業の關係を絶ちたるを以て、信藏は兄清太郎と協同して之を維持し、營業する事三年にして、明治三十二年北フェア、オーク街に移轉し、屋賃百弗を拂ひ、傭人九人を使用し、盛に營業を繼續して現時に至れり、此洋食店は冬期營業の盛なるや、毎月三千弗の收入ありて、夏期間散なる際に於ても二千弗を下らず、兄弟力を戮せ、業務に勤勞する事十一ヶ年、資産を積む事少からず、現にバサデナに一ロット千弗乃至千三百弗の土地七ロットを有し、パーバンクにエーカー百五十弗の園地三十エーカーを有す、乃ち土地のみにて實に一萬三千餘弗の價額を有し、之に其經營する大洋食店マナコレストラント及びパーバンクの家屋、納屋、馬其他の農具を合算せば、其額尠少ならずといふべし、兄弟妻を迎へ、完全なる家庭を有す、共に資性温

厚にして、バサデナ市日本人社会に重きを措かる。

△小西多次郎 廣島縣安佐郡日浦村の産にして、明治十四年十二月生る、明治三十二年四月タコマに上陸し、父と共にモンタナ州の鐵道に働く事八月、後チタコマに歸り、某病院のコックとして働きたるが、其れより加州桑港方面に來り、ワツソンビル、サンノゼ、キングシチー等の地に於て種々の勞働に従事し、明治三十六年羅府に來り、またコックとして勞働する事一年、偶ま病に罹り、入院する事二ヶ月、病癒ゆるや、フルーツランドの地に入り、横田某と共に養鶏事業を始め、初めは僅かに三十六羽の家禽と、二臺の孵化器を求め得たるのみ、當時南加州の地未だ養鶏業の發達を見ず、鶏卵の價また廉にして、而かも小口賣の販路乏しく、業務經營の困難なること言語に盡すべからず、其甚しきに至りては、彼れ自身殆んど一日の食料に窮したる事ありといへり、然れども彼れ、此際に於て堅忍不拔の精神を奮て、幾多の困難と戦ひ、遂に其難關を經過し、以て其業務の基礎を鞏固にするを得たり、明治四十年共同者横田某との關係を絶ちて、爾後獨立の經營とし、現に十英町の地に四千餘の家禽を飼養し、其他に養豚事業を經營して、千貳百頭の豚を飼養せり、事業に使用する馬十五頭を有し、家屋及び鶏舎を建設し、現在の資産一萬弗の上にあり、彼れ事業に熱心なるや、尙ほ之を以て満足する事能はず、不日尙ほ大に事業を擴張せんとするの計畫あり、彼やフルーツランドに於ける日本人養鶏業者の元祖にして、また南加

州に於ける日本人養鶏業者の最大なるものなり。

△東好植 山口縣玖珂郡伊陸村の産にして、明治九年八月生る、明治三十七年十月布哇に來り、居る事八月にして、桑港に上陸し、直ちに羅府に來りて、コピナの地に入り暫く蜜柑園の勞働に従事したりしが、後ち野菜園經營の志を起し、事業の經驗を得んがためにサウスパーク附近の野菜園に勞働し、明治三十八年十二月グリーンメドーに十英町の現金借地を爲して野菜を耕作したるに、土地の適したると、作物の市場の需用に應じたるを以て、利益を得たる事少からず、翌三十九年は更らに十四英町を加へ、四十一年に至りてまた十英町を増加し、其うち四英町を解約して、現時三十英町の野菜を耕作し、大抵一ヶ年の利益二千五百弗乃至三千弗の間であり、グリーンメドーに於ける野菜業の成功者にして、在米日尙ほ淺きに拘はらず、白人の信用厚く、事業の基礎最も確實なりと稱せらる。

△高杉新一 岡山縣筑後郡三善村の産にして、明治十年生る、明治三十一年晚香坡に上陸し、ポートランドに來りて鐵道に働く事三年、間もなくギヤング長となり、配下に三十五人の人夫を監督し、貯蓄する所また少からず是に於て其貯へたる金を携へて一旦歸國せんとしたるも、歸て思へらく余已に志を決して海外の地に來る、豈に小成に安すべけむやと、乃ち加州に入り、桑港に留まる事暫し、其れより羅府に來りて鐵道に働く事また二年、其得る所の資本を以て、同志

三人と、ラグナの地に三十八英町の現金借地を爲して野菜の耕作を始め、其後更らに十二英町の地を借り、其地五ヶ年の借地期限に満つるや、更に二十九英町の地を借りて其事業を繼續し、現時一年の收穫八千弗に上り、常に七人の傭人を使用す、ラグナに於ける先入の農家にして、土地の信用を有す。

△檀上阪次郎 廣島縣沼隈郡浦崎村の産にして、明治十四年生る、明治三十三年一月布哇ホノルルに上陸し、砂糖黍園に働く事六ヶ月、其後十六人の共同にて百六十英町の砂糖黍園の耕作を受負ひ、十七ヶ月に一萬弗の利益を得、更らに十一人の共同にて同一の受負を爲し、九ヶ月間に、千九百二十五弗を得たり、其事業を終るや、園地に於ける電氣機械の据付を受負ひ、ホームランドして六人の人夫を監督し、三十一弗の月給にて労働する事二ヶ月、明治三十四年十月桑港に上陸し、南加州アツブランドの地にて鐵道働さに従事したるに、炎暑の激勢に因て、重病に罹り、入院する事一ヶ月間、病癒ゆるや、再び鐵道に働く事九ヶ月、其後桑港及び布市の農園にある事一年にして、明治三十六年二月、再び南加州に來りてラグナの地に入り、野菜業の經驗を得んが爲めに労働する事一年半、三十八年八月河市重太郎なるものと共同し、十二英町の現金借地を爲して野菜の耕作を爲し、三十九年十月に至り、十英町を増し、四十年更らに六十英町の地を借りて之を開墾し之に野菜を作りたるに、其地の作物は二千五百弗の損失となりたりといふ、加之

明治四十一年羅府に新市場の開くるや、野菜の賣捌店を設けて二千弗を消費し、四十年四月故國より妻女の呼寄せを爲して五百弗を支出せざるを得ず、彼は斯の如く不意の支出を爲さざるを得ざりしと共に、其事業より得たる利益もまた少からず、乃ち明治四十二年一月五十英町の地を借り、之に秣草、馬鈴薯、玉葱を植えて秣草五十五噸の收穫にて八百弗を得、他の作物にて二千七百弗を得たりといふ、現時彼の借地は七十英町にして、一ヶ年の總賣上高約一萬五千弗と稱す、馬七頭を有し、家屋及び納屋を新築し、農具一切を合して二千五百弗の資本を投じたりといへり平均八人の傭人を使用し、別にメキシコ人、一年百人役を使用す、またラグナに於ける大農家といふべし。

△野村長範 福井縣三方郡八村の産にして、明治十九年生る、明治三十四年桑港に上陸し、直ちに南加州の地に入り、サンデーゴ市にて家内労働に従事する事二ヶ年、其れよりラグナの地に入り、二十英町の現金借地を爲し、野菜の耕作を爲して利益を得、現時一英町二十弗にて五十英町の地を借り、盛に野菜の耕作に従事す、四十一年七月故國より妻女を呼寄せ、馬七頭を有し、家屋及び納屋を新築し、農具購求の費を合算してまた二千五百弗の資本を投じたりといふ、一年中使用する所の傭人及び、作物の總賣上高、畧は檀上阪次郎と相伯仲せり、現にラグナ大農家の一に數へらる。

△前田要造 廣島縣山縣郡吉阪村の産にして、明治十五年生る、明治三十五年五月タコマに上陸し、鐵道及び其の他の勞働に従事すること一ケ年、それより桑港、サンノゼ等を経てオクスナーに來り、此地に働くこと三ヶ月、其後ローサンゼルスに來りて、一時玉場を開きたりしが、之を他に譲りてイーグルロックに野菜園を経営し、また之を他に譲りてコピナの地に入り、二十英町の現令借地を爲して、苜の耕作を爲したるに、二千弗の利益を得、更らに十英町の地に苜を植へ、三十七英町の地に馬鈴薯を作り、兼ねて苜の仲買を爲して利益を得たる事尠からず、馬四頭を有し、常に五十人内外の傭人を使用し、コピナに於ける日本人の大農家と稱せらる。

△甲斐政太郎 熊本縣上益城郡白旗村の産にして、明治十三年生る、三十二年五月布哇に上陸し勞働すること三年、三十四年七月桑港に來り、また三ケ年を其附近の勞働にて経過し、其れより南加州の有望なるを聞き、來りてニューマークの地に入り、七千弗にて蜜柑園十エーカーを買ひ、現時一萬千弗の價を有し、明治四十一年故國より妻を迎へ、以て永住的の基礎を成せり。

△宮前嘉四郎 福井縣温湯郡温湯敷村の産にして、明治十年生る、明治三十三年四月沙市に上陸し、桑港及び羅府に在ること二年、エレカーメルの地に、二十エーカーの地を借りて、養豚事業を経営したるも、經驗なかりしを以て失敗し、更らにニューマークの地に十四エーカーの地を借りて花園業を経営し、カーチンション、ローズ、バイオレットを植へ、已に五年を経過して一二

年前より其利益を得ること少からず、現にニューマーク日本人會の會長たり。

△大坪萬見 長崎縣長崎市馬場町の産にして、明治十二年生る、明治三十六年二月桑港に上陸し間もなく加州を去りてコロラド州に入り、中部米國を視察すること三年、轉じて南加州に來り、アツサの地に入りて柑園の勞働を爲し、明治三十九年四月、網田某の經營せるキャンプを引受け白人の信用を得、現時此地方に勢力を有し、オレンヂ收穫の時期には、摘取人夫百人を使用し勞働閑散のときに於ても使用する所の人夫五十人を下らす。

△中川福太郎 和歌山縣牟婁郡田原村の産にして、明治二十五年桑港に上陸し、アラメダ市に於て、スクールボーイたる事二年、それよりサクラメントの農園に勞働する事二年、また布市に至り葡萄酒の請負勞働を爲す事三年、其後羅府、布市、ベカスヒルド等にて種々の事業を経営したるが多くは永續せず、其後羅府北メイン街に大なる玉場を開業し之を中川玉場と稱し、市内日本人の玉場として最大なるものと稱せらる、現時ニューマークの地に百英町の地を借り、三人共同にて野菜の耕作に従事し、羅府の野菜市場に野菜の賣捌店を有す。

△板野富五郎 岡山縣三津郡白石村の産にして、明治三十年渡米し、アイダホ州の鐵道に勞働すること五年、其後ラハチベ、ベンチユラ等の地にて鐵道働きに從事する事また一年餘、其れよりフルツランドに入りて野菜の耕作を爲したるに、高菜の價騰貴し、此際よく市場の需用に應

する事を得て意外の利益を得、其後ラグナの地に轉じ盛に野菜園の經營に従事す、彼れ體格の強壯なる事同胞間稀に見る所にして、體量百九十斤あり、曾て本國に於て柔術を修め、其免許を受けたりといふ、金門銀行破産の際、預金五千弗を失ひたりと雖ども、尙はラグナに於ける大農業家と稱せらる。

△丸本伍太郎 熊本縣上益城郡甲佐町の産にして、明治三年生る、明治二十七年ヅイクトリヤに上陸し、所々の農園に勞働して、二十九年三月羅府に來り、コックとして勞働する事九年、三十七年よりモネタの地に入り、十一英町の地を借りて葎園を經營し、其事業大ならずと雖ども、土地の瘠に適すると、其耕作の周到なるが爲めに年々利益を見ざる事なく、大抵一年の總收入三千二百弗といへり、多くの葎業者が續々として失敗するに拘はらず、彼れの獨りよく成功する所以のもの、其資力に相當せる事業を爲したるに由らずんばあらず。

△龜岡梅八 愛媛縣温泉郡三津ヶ濱町の産にして、明治八年生る、曾て第五師團陸軍運輸通信部にあり、日清戦役後、彼れ海外に事業を爲さんとするの志あり、一たび露領浦鹽に至りたるも、事業の目的を發見する事能はず、逗留二週間にして、ノールウエー船に搭じ、室蘭を経て米國に來る、是れ明治三十三年にして、間もなくアラスカ行人夫の中に加はりて、アラスカに至り、一行三十五人鮭罐詰會社の勞働に従事せしが、一日支那人と日本人の間に争鬭を生じ、彼れの百

人と、我れの三十餘人と激烈なる血戦を演出し、支那人に死者二人、負傷者八九人を生じ、日本人に負傷者六人を生じたり、此際龜岡は前額に負傷し一時氣絶したるが、入院三週間にして出づ、其桑港に歸るや、勞働の賃金を差引き、九十弗の負債を生じたりといふ、其れよりサドウ郡に入り、鐵道に働く事十一ヶ月にして、南加州に來り、リバサイド及びマメルザ等の地に勞働し、明治三十五年オントリオに於て密相園の勞働を受負ひ、三十人の勞働者を率ゐて其地に入りたるも濃霧の爲めに勞働を妨げられ、事業を失敗して其地を出で、更にキューカモングの葡萄園に勞働者供給の契約を爲したるも、病の爲めに事業を他に譲り、自から他の配下に屬して普通の勞働に従事し、漸くにして以前の負債を償却する事を得たり、後ちベカスヒルドに至り、溝渠開鑿の工事に勞働したるが、其監督者の所置常に當を失し、勞働者との間、紛擾常に絶えず、龜岡此間に立ちて調停する事屢々なり、已にして勞働者の中、龜岡の配下に勞働せんとするものあり、乃ち彼等のうちサンタニータ、ポールドウインの農園監理者と相知るもの、龜岡を其監理者に紹介し、明治三十六年十一月、龜岡始めて十數人の勞働者を率ゐてサンタニータに入る、已にして翌明治三十七年更らに五十人の勞働者を供給するに至り、爾後種々の難關を経過して、已にして翌繼續し、現時彼の勞働を契約せる地面三千英町、平時六十人の勞働者を有し、繁忙の時期に於て百人を使用す、從來此農園に日本人の入夫を供給したるもの少からず、然れども彼等は夫大抵失敗

して、去らざるはなかりしに、彼れをよく七年を維持して今日の基礎を作り得たるもの、また非常の手腕なりと云はざるを得ず、彼は此労働受負事業の外、借地料毎町十五弗にて百英町の地を借り、他にまた八十エーカーの地を借りて、多くカリフラワを植え、二千七百弗を投じて、二十五馬力の給水器械を据ゆ、其労働受負業及び野菜園より生ずる利益年々少からず、現時サンタニータ地方に於ける成功者と稱せらる。

△近藤静人 廣島縣賀茂郡西志和村の産にして、明治十八年生る、明治三十六年四月布哇に渡航し、居ること三ヶ月にして米國に來り、直ちに南加州ホイデヤのレモンキャンブに入る、キャンブはホイツヤの大地主グリツフィンウエルの所屬にして、土地千英町植ゆるに檸檬及蜜柑を以てす、當時キャンブの監督者三佐々川一太郎、彼れの忠實なる性質を愛し、其歸朝するや、部下に告げて其後繼者を近藤と定む、彼れ謹慎にして、よく事務に勉め、地主また彼を信用し、其女をして常に必要なる英語を教へしめたりといふ、現時彼れの配下に屬する日本人の労働者七十人乃至百人にして、南加州有名のキャンブたり。

△小畑繁次郎 廣島縣深安郡引野村の産にして、明治十六年生る、明治三十三年渡米し、シヤートルに上陸して、直ちに南加州に來り、羅府に於て労働に従事し、ハンチングハウスの労働を契約して之に二十人の労働者を入れ、之を監督して業務に従ふこと三年、明治三十五年サンファア

ナンドの地に、オレンヂ園三百英町の労働を受負ひて、十數人の労働者を率ひて其地にキャンブを立つ、之れサンファアナンドに於ける日本人労働者の率先にして、爾後日本人の入りて、其地方に労働するもの多きに至れり、彼は此受負事業の外、一エーカー十弗の地代を拂ひて、十英町を借地し、之にトメトー其他の作物を栽培して、年々の利益を得る事また少からず、ファアナンド地方に於て最も信用を有す。

第六節 オレンヂ郡、リバサイド郡、サンバナデノ郡

三郡踏査日記

六月十六日、太平洋電鐵會社の電車にてオレンヂ郡サンターナ地方に至る、サンターナはローサンゼルスを距る事、南東三十五哩の所にありて、人口一萬餘、オレンヂ郡の首府たり、サンタフイー、サウサンバシフィック二鐵道の停車場あり、郡の中央に位置し、周圍に胡桃園多く、日本人の農家は市街より四五哩を距つる所にあり、此日二三の農家を訪ひ、午後三時エス、ビーの瀛車にてアナハイムに向ふ、アナハイムはサンターナの北西七哩の所にあり、市街清潔にして、また胡桃園の翠色 滴らむとするを見る、停車場を去る事一哩の所、日本人の農家に似たる家あり、行て之を問ふに、メキシコ人の農家なり、一人のメキシコ人あり答へて曰く此附近日本人の住家ならずと、更らに足を市街に投じ、漸くアナハイム旅館と記せるものあるを發見して之に投ず。

六月十七日 市街の北一哩ばかりの所、日本人の部落ありと聞き、早朝歩いて其部落を訪ふ、増野重三氏經營のルーベリー園を見る、黒き葎の鈴の如く實りたるあり、松永源吉其他二三の農家を尋ねて歸る、六時二十分旅館を出でサンタファイ停車場より、リバサイド行き汽車に乗る、汽車はオレンジ郡の平野を東に馳せて、リバサイド郡の内に入る、日已に没せんとして、山地の方向雨氣を帯びたる如く、暗黒の雲空を刷きて風景うたゝ凄凉たり、平野の盡きんとする頃より、小岳次第に起り、荒涼たる原頭、一小寺の立てるあり、周囲には古き屋壁の崩壊せるものあるを見る、此邊の地西班牙時代の遺蹟を留むるものなるべし、已にして山勢は漸く迫りぬ、傾度の急峻なる巒岡相接して、巨峯の近きを示すが如く、低地あり揚柳翠深く、河流あり碧水渦を爲して其間を流る、岡漸く大となり、泰山遙かに右側に聳ゆるを見る、井が頂上に暮雲の郷はるあり、コロナの驛に達する頃、峻嶒嶺嶺屏風の如く連り、山峽には灰色の鵝かゝりて、夕景の凄凉を添ふあり、已にして日は全く暮れ、窓外夜暗に没してまた山景野色の目を喜ばすなし、八時頃リバサイドに着す。

六月十八日、リバサイドにあり、午後第十四街の附近にある小丘に登りて附近の地形を見る、北に一帶の連山あり、サンバナデノ山脈なるべし、其距離の遠き、恰も我國に於て、須磨明石の海岸より、淡路の島山を烟霞渺茫の間に認むるが如く、墨繪の如き山脈、北方の天を断ち切りて、山の麓は烟霞に没し、參差たる山嶺靑空を分界して光景畫の如きものあり、此方は一面の曠野、所所に孤峰の突起すること、恰もモサベ沙漠中に見るものと其趣を同ふし、平地の單調を破りて、一種の奇觀を爲す、墨繪の如き連山西に盡きんとする所、巨岳の崛起するものあり、シーラマドル連峰の一なるべし、二流の山脈、其前を走りて際涯なき平野の眼界を遮るあり、更らに眼を南方に轉すれば、サンゼセントの山脈、渺茫烟の如く、南東の方、小丘緩く起伏して天遠く開くるもの、是れをバームスプリングまたはコチュエラの平原なるべし、リバサイドのオレンジ園は、是等諸山脈の中央に展開せられて、滿地の園樹、翠堆を爲して、樹列整然、縦横に線を畫し、美觀固より形容に盡しがたし、園地の廣さ百哩に餘るべく、其産額二百四五十萬弗と稱す、市街はオレンジ園の中央にありて、人口一萬三千、開拓の始め、クリスト教徒の理想的都會を計畫せるものにして、土地清淨、街衢整然、一般に飲酒を禁じ、寺院を建つる事多く、聖主基督の信條を履行して、博愛善美の風、人をして襟を正さしむるものなくんばあらず、紅瓦白壁の、園樹の間に隠見するもの、寺院の高塔ならずんば、學校及び圖書館の建築物なり、有名なるマグノリアベニニーには、マグノフィスト、ペバーツリー、エンカリブラス、グレイズイラス、バームス四種の樹木、樽々蒼々として列を爲し、其長さ十哩に達し、市有公園は市街の西に聳えて、車道を丘上に廻らし、十字架を頂上に建て、其麓に佳樹珍草美花を栽植して、登臨するものをして全市を双

眼の下に見せしむ、此地始めは一の沙漠地に過ぎざりしに、近世式の器械を應用して、水を二十哩の彼方より引くに至り、現時の盛觀を見るに至れりといふ、米國水利事業の盛なる、砂漠を變じて世界有名の蜜柑園を作るに至る、豈に驚かざるべけんや、夕方丘を下りて、村上彦輔氏の家に歸る。

六月十九日、午後更に市街を散歩す、静閑なる各邸宅の周圍、庭上の草青く、ジュレニヤムの花紅ひなり、マグノリアベニユーにて、腕白盛りの男子二三人、アイスクリームを賣るあり、支那人街には支那人の家二十軒ばかりあり、印度人の娘小供、洗濯工場にて立働さつゝ、あるを見る、街上の樹木、亭々として立ち、參差として茂り、翠影長く曳きて、清風梢を掠むるの風景、静快云ふべからず、道路にはアスパルトを敷きたれば、土地柔軟にして車轍軋らず、馬蹄靜かにして、行くものまた足の疲るゝを知らず、翠葉枝を垂るゝの邊、自働車を驅るの紳士あり、馬に騎するの貴女あり、時々日本人労働者の自轉車に乗りて、燕の翔る如く其間を縫ふて去るものあり、日は翠影に洩れて、風に送らるゝ蜜柑園の花の香芳しく、半日の清遊、また俗塵の皮膚に残るを知らず。

六月二十日、アーリントンに大和商會を訪ふ、日本人労働者の集會所にして、旅館、玉場、洋服屋、自轉車屋、豆腐屋杯、此所にあり、更らにキャサブランシカに至り、西本宅十郎氏を訪ふ、

西本キャンズの労働者また一の小社會を爲し、各種の營業者此所にあり、歸路美なる邸宅の路上に立てるものあり、青苔の深く之を蔽ひて、玻璃窓の格子色赤く、庭前の芝生、青氈を布けるに異ならず、其美觀恰も畫の如きものあり、此日ジキトリア、アベニユーを見る、坦々たる平路長さ八哩、中央に花園あり、左右に蜜柑園あり、紳士貴女の車を此通路に驅するものあり、東部の客此街路の美なるに驚かざるものなしといふ。

六月二十一日、午前リバサイドを出發し、サンタフィー、停車場より汽車に乗らむとす、此日日照日なるを以て、各寺院の門前、車馬輻輳し、堂内讚美歌の聲朗々として聞ゆ、十時汽車に搭じ、三十五分にしてサンバナデノに着す、更らに電車を取りて、レッドランドに向ふ、此地はサンバナデノの南東六哩の所にあり、途中黒緑のオレンジ園、遙かに山麓一帶の野を蔽ひて海の如く、所々の人家、恰も緑波香々たるの間に、白帆の點々するが如きを見る、レッドランドの市街は、瀟洒美麗なる事、殆んどリバサイドに異ならず、東セントラル街大和商會に蜂谷今作氏を訪ひ、ロマリンダより傳導の爲めに來り居たる美以教會の市川達治氏と語り、薄暮公園に遊ぶ、公園は此地の高地にして、眺望極めて佳なり、丘上より市の全景を眺望するを得、附近の地形歴々指掌すべし、惜かな暮色已に到りて、また佳處なる全市の光景を展望すべきなし、九時頃電車にてサンバナデノに歸り、米人の旅館に泊る。

六月二十二日、九時五十分サンタファイの流車に乗り、十時三分コールドンに着す、此地は鐵道四達の地にして、多くの乗換客あり、スバニシ、メキシカン多く、色の黒き日本婦人の如きものあり、皆此等の人種なり、二十人ばかりの日本人労働者の如きもの、流車より降り来るあり、メキシカンほどに眼光險惡ならず、日本語にて語らむとすれば躊躇して去り、英語にて其郷里を問ふに答ふる所を知らざるが如し、思ふに朝鮮人の日本人の如く装ふものなるべし、余は午後二時十分の流車に乗り、三十分にしてキューカモンガに着す、此附近に伊太利人の經營する三千四百エーカーの大葡萄園あり、日本人の此園内に勞働するものあるを聞き之れを訪はむとして、ゴム樹の林を目標とし、一哩半ばかり園の傍を行く、黒人の女一人黒蓑を摘るあり、日本人の家何れにあるやを問ふに、彼の家こそ日本人の居る家なり、彼等は園内のいづれかに在らむと答ふ、方幾哩といへる廣き葡萄園なれば、尋ね當つべくもあらず、園内の葡萄の蔓已に三尺ばかりも延びて、葉の影には大豆粒ほどの葡萄已に房を爲して美しく、午後の海風ゴム樹の林に騒げば、園内の葡萄は風に揉まれて一面に青波を動かすなり、夕方二人の日本人歸り来る、一は熊本縣人上野子之吉氏、一は同縣人桑田仁太郎氏なり、此夜此所のキャンプに泊る、夕方の野面、暮色を帯びて靜かに、宵の明星の高く葡萄園の上に輝きて、心すがくしく覺ゆ、三人にて夕食をすまず上野氏は日清戦争の際金州方面にありたるもの、談當時の事に及びて夜の深くなるを知らず。

六月二十三日、午前六時キューカモンガを發し、鐵道線路を徒歩して、三哩を距てたるオンタリオに至る、日光廣艶、山野の風景最も美なり、野禽あり其聲輕快なり、サンバナデノの山脈近く右に峙ちて連亘數十哩、其最高峯は、アツブランド、ボモナ、エトワングダ、キューカモンガに其根を下して、山峽の險しきこと鑿もて彫れるが如く、山崩粗荒にして岩石嵯峨たり、其峻險なる所に至りては、走獸も足を留むるに由なく、駿馬も蹄を立てるに難かるべし、稜々たる巨岩、崖鬼たる幾多の高峯、一天澄み渡りたる空に聳えて、朝霞の翠を隔てたる、いかに崇高超脱の姿ぞや、是れ巽日ボモナにて見たるサンバナデノ山の半面なり。

八時オンタリオに着す、此地を中央として、チノ及アツブランドの間に電車を通す、此電車はサンバナデノ高山の麓に在る瀑布に連絡して、遊覽者に便を供す、余は此電車にてアツブランドに至る、此地は山麓の高地にして、暑氣甚しく、樹蔭に清風の來るなく、大地恰も燠くがごとし、山には青色なく、薄紫の烟霞に包まれたる灰白質の砂石より成れる、大山岳嶮しく空に聳ゆ、其麓より燃ゆるごとき陽炎の立ち騰りて、サンバナデノ東部沙漠地の光景、恰も異境に入るの思ひあり、此地にて直原敏平氏を訪ひ、木村松南氏等と語る、五時直原氏のキャンプを出で、六時二十五分の汽車にて發す、木村氏は余と同乗してエトワングダにて下車す、余は是よりクラレモント、北ボモナ、ロードスバーク、サンデマス、グレンドラ、アツサ、デアルト等を経て、サンタ

ニータ、チャソマン等を通過し、バサデナに出づ、是等の地みなサンギブレル連山の麓にありて、右の車窓を歴して競ひ立てる幾多の連峯、皆灰白色の砂石質にして、西に入らむとする太陽の光線之に映射しては、山の色銀紫色となり、葡萄酒となり、鼠色となる、其光景の奇異なる、其色彩の怪幻なる、余の曾て見ざる所にして、諸山の奥に更らに山あり、巨峯の背後更に巨峯あり、其幽幻怪異の光景、魔界の一部に入れるが如く、是れコロラド大沙漠無人地の遠景にして、其光景の異なる怪むに足らず、流車の通過せる山の麓には、岩石の磊砢たるものあり、奇麗なる人家あり、蜜柑園あり、牧場あり、風景の美他の部落と其趣を異にす、七時ローサンゼルスに歸る。

六月二十九日、更らにオレンヂ郡スメルザ地方踏査の途に上り、午前八時ハンチングトン行き電車執る、此電車は擬にバーチット踏査の際下車したるウイロー、シヤクシオンより、ロングビーチ線路を離れて左に入り、信誠丘の下を通過して、長濱を右に眺め、日没濱の邊より海邊の線路に出づ、已にして海灣市に達する頃濃霧海邊を鎖し、洋上より来る風頗る寒冷を覺えしむ、乗客の此冷氣を避けて車中に入るもの多く、前面に砂丘の横はるありて、海洋の波は先づ此砂丘の低き所より現はれ來りぬ、已にして電車は波打つ際に出でぬ、一帶の白波、長く砂洲を打ちて、空には灰色の雲寒く、海水の色また雲に化せられて、凄涼の觀、恰も冬天の光景に接する

が如し、今日此頃のローサンゼルスは、暑熱燄くが如くなるに、此地の氣候斯の如きもの、今更ら海陸氣候の差違、其甚しきに驚かざるを得ず、間もなく電車はハンチングトンビーチに着す此地はローサンゼルスを距る事三十三哩、ローサンゼルス近海、最南の海濱地にして、南加州美以教會派の教徒の設立せる夏期集會場あり、會堂には優に五千人の聴衆を容るゝを得べし、ハンチングトンイーンと稱するホテルは、此附近に於て最も規模の大なる旅館にして、夏期此旅館に宿泊するもの多し、僅々三四年前よりの開拓地にして、人家已に百餘、銀行あり、商店あり、棧橋の長さ百五十間ばかり、海上に突出して、釣魚及遊覽に供す、余は停車場を出で、附近を徘徊す、午前十一時頃、海霧散して、太陽照々たり、蒼穹碧波相映じて、四望廣濶、頗る心氣の快暢を覺えしむ、此地よりスメルザには、毎朝一回の流車便あれども、已に發車したる後にて、此日は最早流車を頼むべからず、乃ち鐵道線路を徒歩す、沿線の地未開の原野多く、所々に白人の農家を見る、二哩にしてウインターバーグの驛に着し、一哩にしてスメルザ停車場に着す。スメルザは白人の市街地にわらざるを以て、見渡す限り茫々たる平野の農村なり、停車場の附近に十數軒の人家ありて、日本人の家屋また數軒あり、淺利商店は此地の大商店にして、旅館を兼業し、傳道館は美以教會の會堂にして日本人の夜中英語を研究する所なり、余は淺利商店に至りて此夜の宿泊を求め、夕方附近の農村を視察し、西川順吉、吉松角太郎氏の宅を訪ひ、一時間に

して歸途に就く、茫々たる平野附近に山脈を認めず、武蔵野の月の、草より出で、草に入るといひし昔も、斯くありしなるべし、已にして暮色遠くより至り、四顧人聲なく、セロリ畑に引かるる水の路傍の叢を濕ほして、草頭已に冷露を帯び、西空幽かに新月の屑の如きを見る、あゝ遠征の旅客、此月に對して郷閭の美味を想ふもの果して幾人ぞや、點燈の頃淺利商店に歸り、此夜江川宥盛氏を訪ふ。

六月三十日、傳道館に牧師小林誠氏を訪ふ、小林氏は品性ある君子人なり、よく此地の事情に通じ、衷心余の事業に同情を寄せ、縷々として海外傳道の事を語る、夜に至り、此地日本人會長太田周一氏を訪ふ、氏は日向の産、年齒五十前後、軀幹長大、風丰頗る偉なり、温乎として人に接し、對談夜の更くるを知らず、氏もまた近年此地のセロリ業に失敗せるもの、細さに海外成業の難きを語る、而かも彼れまた一敗を以て弓を弛べざる雄將の風あるは喜ぶべし、十時頃辭して歸途に就く、令閨玻璃燈を出し余に與へて曰く、深夜の草路幸に注意を懈る勿れど、庭樹暗黒く、門外の荒草離々たり、夜色沈々、曠野うたゝ寂びたり。

七月一日、午前十時、スマルザを發し、徒歩タルバートに至り、石井久太郎、星出岩松氏を訪ひ、午後ガーデンングローブに出で、此所より電車を執りてローサンゼルスに歸る。

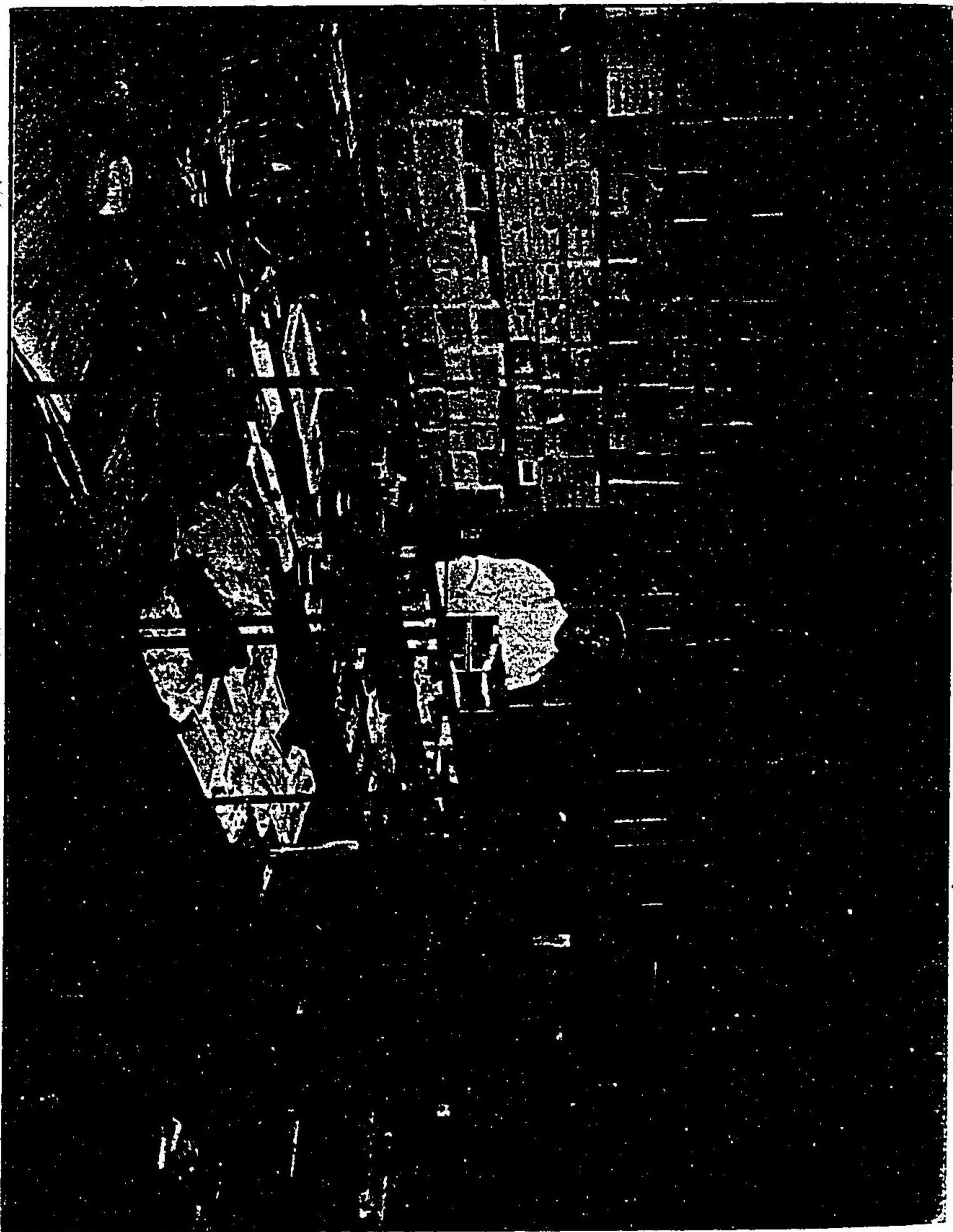
オレンヂ郡日本人發展地の調査

オレンヂ郡は面積七百六十五平方哩にして、内五百哩は平原地、六十五平方哩は山嶽地、百五十平方哩は山嶽の傾斜面または丘陵の起伏する所なり、郡の東北に聳ゆるものをサンデアナ山脈とし、サンバナデノ郡の境を限りて南に至り、更にサンデーゴ郡の界を爲し、其餘脈は北方に屈曲して、海岸に平行す、二水あり、一をコヨテ河といひ、郡の西を流れ、サンデアナ河はサンデアナ平原を貫通してニューポート灣に注ぐ、山嶽地は赤色の礫質壤土なるも、平原地は暗色の粘質壤土にして、所々にアルカリの條斑を爲すを見る、サンデアナ平原の西部は地質泥炭層を爲して地味最も肥沃なりとす、産物の主なるものは、蜜柑、レモン、胡桃、アツブリカット、桃、無花果、ブルーン、林檎等にして、穀類には大麥、小麥、大麻、亞麻、葡萄、玉蜀黍、を産し、またアルヘルハ、ヘーを産する事大なり、砂糖大根、セロリは、此地方主要の物産にして、野菜類には玉葱、馬鈴薯、キャベージ、薩摩薯、カリフラワー、赤茄子、唐辛等あり、日本人の發展地はスマルザを以て主と爲し、此地方のセロリ耕作の事業は全く日本人の爲めに今日の盛況を見るに至り、其他にはサンターナ、アナハイム、ビユーナパーク等近時日本人の入るものあり、然れども未だローサンゼルス郡の比にはあらず。

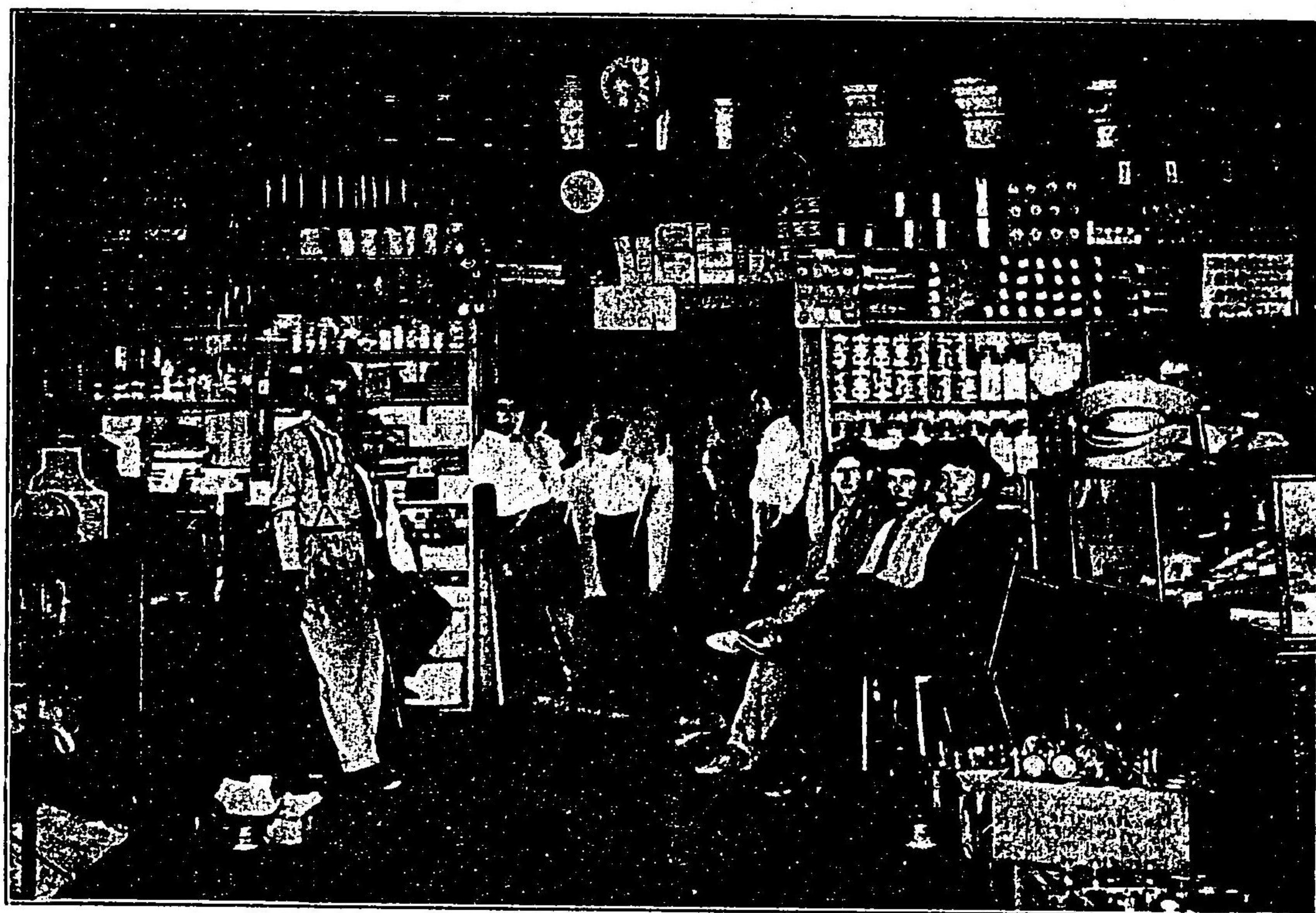
「スマルザ地方」サンデアナ平原の西に展開して、太平洋沿岸に達せんとする所、土地低温にして、和蘭芹の耕作に適する地あり、之をスマルザ地方と總稱す、ハンチングトンビーチより、北

西五哩の所にありて、附近八哩の地域を有し、タルバート、ウキンターバーグ、ボルサ、スマルサの四部落に分つことを得べし、今より十三四年前、伊太利亞人スマルザーなるもの、農産物仲買人として、此地の産物を輸出せんとするの計畫を爲したるに、エール、フルーツ、ビンガマツカリー會社なるもの、之と競争を起したるの結果、スマルザーの計畫一時廢絶に歸せんとするに至りたるが、スマルザーまた堅忍不拔の精神を有し、乃ち此地方に入エーカーの地を擇びて、自らセロリの耕作を始め、七人の日本人労働者を備入れて之を使用するに至り、和歌山縣人江川有盛、淺利鶴松、廣島縣人西尾善次郎等乃ち此地に入る、是れ此地方日本人發展の濫觴にして、是等の労働者を得たるスマルザーの事業は、漸次隆盛となりて、千九百三年六月一日、スマルザー主唱となりて、フアーマー、アウシエーションといへる農業組合を設け、日本人をも之に加入せしめて、共に此地方産物の開發に努め、スマルザーの名、南加州の地また之を知らざるものなく、其盛なるや、セロリ耕作の地域實に六千エーカーに達したり、然るに千九百七年大水害の爲めに收穫の大半を腐敗せしめ、更に千九百八年には微菌のセロリに附着したるが爲めに、殆んど作物の全部を失ひ、乃ち二年間の凶作は此地方農業界の致命傷たるが如く、農家の倒産するもの十の六に達し、一時世人をしてオレンヂ郡に於けるセロリ耕作業に失望の嘆を發せしめむとしたるが、天未だ彼等を棄てずして、偶々米國農業界にセロリの腐敗を防止すべき藥汁の發見せらるゝあり、

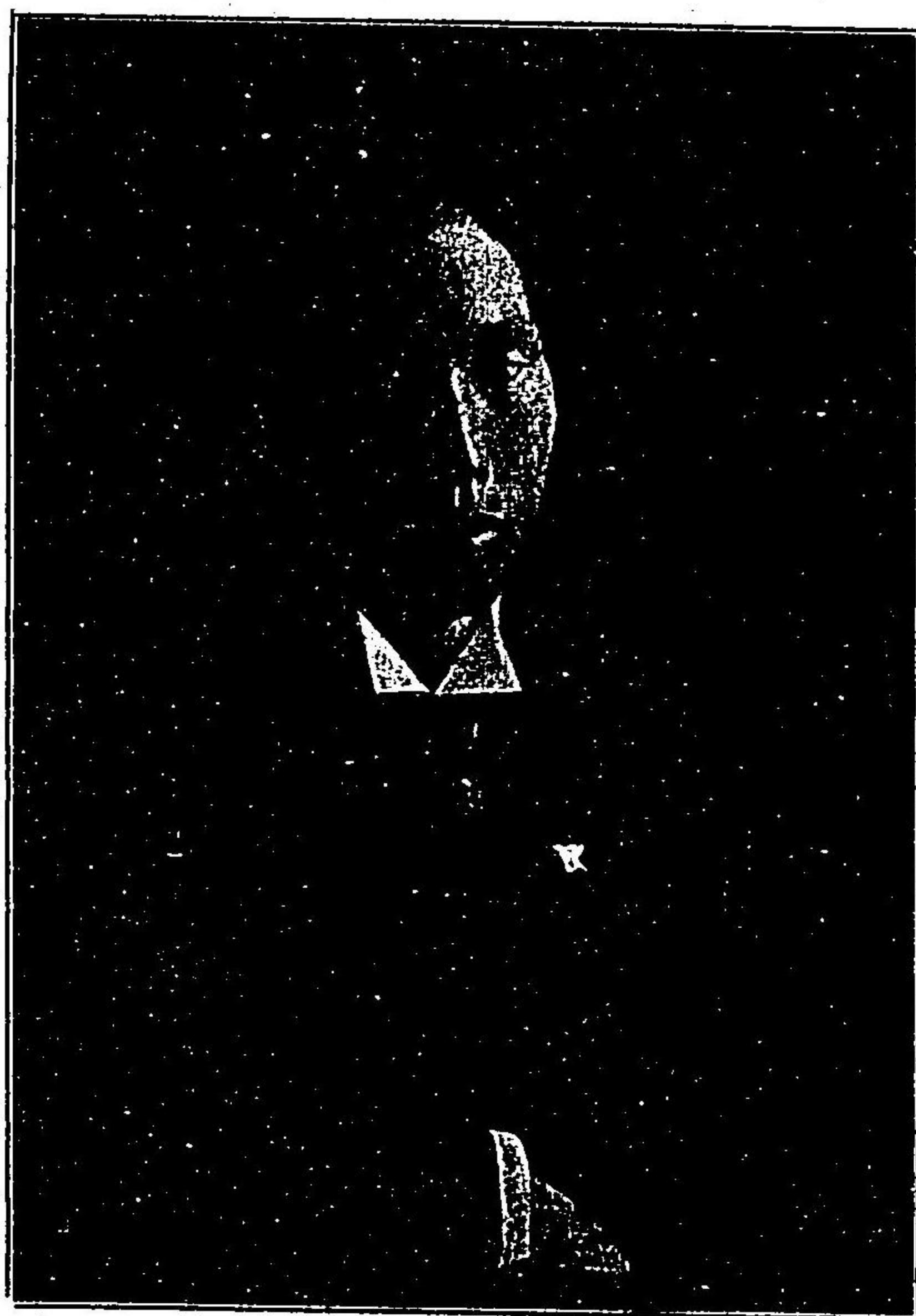
店 棧 利 邊 松



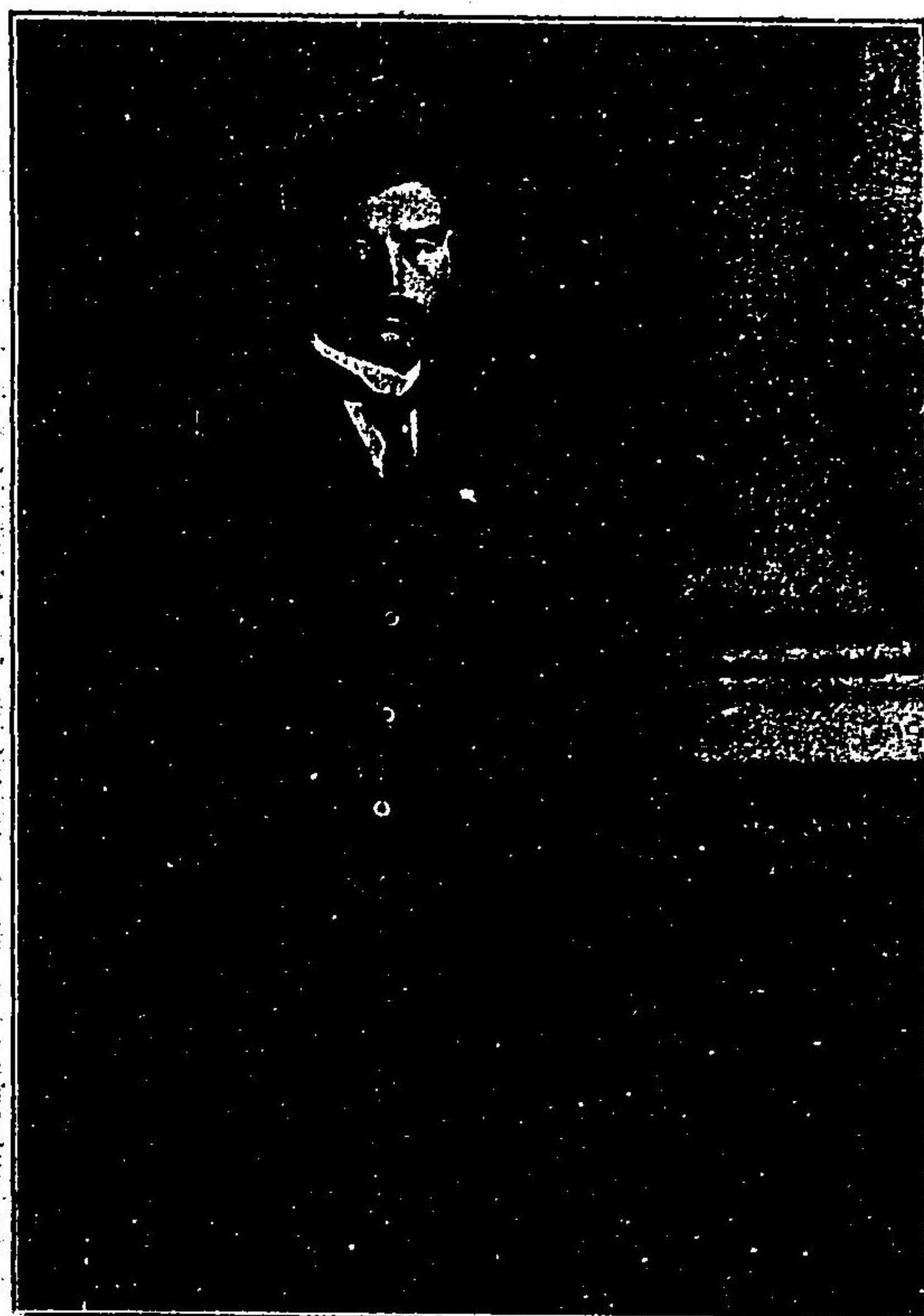
ス マ ル ザ ー 邊 利 商 店 内 部



場玉及部内の館族ムイハナア營經植金谷鹽 市ムイハナア郡ゲンレオ



一旗畑寺 家業農大 -ザルメス



司恒野茅 家業農大 -ザルメス



田本米江入 水産農大のナターターサ



田本米江入 水産農大のナターターサ

スメルザー地方の農業者また此藥劑を使用するに至りて、茲に其氣息を回復する事を得、千九百八年の收穫は此結果に依りて例年の二倍を收穫するに至り、千九百九年の收穫もまた良好の結果を得て、再び此地方の盛況を見るに至りたり、特に彼等は其經驗を重ねるに従ひ從來は此地方に於ける作物は單にセロリの一種に限りたるも、市場に於ける需用供給の緩急を禦せんが爲めに、セロリの外砂糖大根を耕作するに至り、一層其地盤を鞏固にするを得たるが如し、現時同胞の定住するもの二百人にして、同事業者百五十人あり、セロリの收穫高は一年凡そ平均三十萬弗にして、砂糖大根の收穫十萬弗、其他の作物五萬弗ありといふ、乃ち日本人農業一年の總收入實に四十五萬弗にして、之を南加州他の地方に於て其類を求むべからず、此地方をスメルザーと稱するは、停車場に此地の開発者たるスメルザーの名を付したるより、漸次廣く其名を用ゐられたるに因り、スメルザー氏の死するや、農業協會、及び加州野菜業組合等の團體、此地にセロリの耕作を爲し、一時主として伊太利亞人、支那人を使用したるも、一たび日本人労働者を使用してより、其成績の優等なるを認知し、伊清兩人種を解備して、専ら日本人を使用するに至り、今やセロリ收穫時期に於て使用する所の日本人は四百人以上に達し、是等の労働者は、其労働賃金を貯蓄して、漸次に附近の農業者となるに至り、以て現時の状態を爲すに至れり。

此地は太平洋上より吹來る風ありて、夏期最も清涼を覺え、地は始め海底たりしを以て、所々に

鹽菜を含有し、普通の野菜物にして發育に適せざるものあり、然れどもセロリ及び砂糖大根には最も地質の適當するを知るべく、またライマビーンズ、馬鈴薯、玉葱の耕作を試みるものありて、其成績頗る可なりと稱せらる。

團體としては、スメルザー日本人會あり、百名の會員を有し、會長に太田周次郎、副會長に茅野恒司、會計に淺利鶴松、安武雪太郎を推選す、其他に七名の評議員あり。

土地所有者は十一名ありて、所有地の面積百四十一エーカーあり、其人名及び反別を擧ぐれば左の如し。

江川宥盛外二名(和歌山縣) 六〇、エーカー

駒井豊策(山梨縣) 二〇、エーカー

淺利鶴松外二名(和歌山縣) 三〇、エーカー

今井時治(新潟縣) 一六、エーカー

寺澤 某

(和歌山縣) 五、エーカー

鹽増 某(和歌山縣) 五、エーカー

現金借地及歩合耕作を爲す、農家は、凡そ五十三組にして、内現金借地千二百二十六エーカー、歩合地千六百三十三エーカーあり、此外に白人よりの請負耕作地二百〇八エーカーにして、之に所有地を合すれば、日本人にて耕作されつゝある地面三千エーカーの上に出づべし、此中にて最も廣き地面を耕作するものは、一人にて百五十一エーカーを耕作し、少きものも十一エーカーを下らず、普通は四十エーカー乃至六十エーカーを耕作す。

(附)セロリの事

セロリは日本にて和蘭芹と稱する香菜にして、其莖は生にて洋人の食卓に供せらるゝの外、健胃強壯劑の材料なるを以て、年々其需用を増加し、歐洲への輸出頗る多額に上れり、此植物は水詰としてよく一ヶ月を保存し得るを以て、遠距離の輸送に堪え、最も有望なる産物なり、然れども濕地に適するを以て時々水害の爲めに收穫を失ひ、また微菌の爲めに腐化する事なきに非ず、然れども近時、グリーンストーン五バウンド、石灰五バウンドを五十瓦の湯に入れ、攪拌して之を溶解せしめ、以て植物に澆ぐときは、微菌より來る腐敗を防ぎ得る事を發見せられ、セロリ耕作上に一の要を去る事を得たり、加州に於て、最もセロリの産出多きは乃ちスメルザー地方にありとす。

「サンチングトン」白人の市街地にして、唯だ一軒の日本人營業者あるのみ、雜貨販賣及玉場を營業とし、他に何等の事業を有せず。

「ガーデングローブ」スメルザーの東にして日本人の遊園を經營するもの多く、一時毎の市價下落したるを以て衰微の状態に瀕したるも、他の野菜及砂糖大根の耕作を爲すに至りて今や漸く其基礎を作る事を得たり、日本人の定住者六十八人、十八組の農業者ありて、耕作地の面積二百十一エーカー、内現金借地二百十一エーカーあり。

「アナハイム」今より五十年前、桑港方面より移住せる米人の開發地にして、現時三千の人口を